全国1級造園施工管理技士の会 会報
一造会

environnement

L'art du jardin japonais délivré par des maîtres

Au sein du parc oriental de Maulévrier, mardi, une dizaine de maîtres jardiniers japonais ont présenté au public la célèbre technique de taille niwaki.

Plus de 13.000 kilomètres séparent la préfecture de Chiba, à l'est de Tokyo, au Japon, et le parc oriental de Maulévrier. *« Entre le contexte sanitaire et la guerre en Ukraine, le vol n'a pas été de tout repos pour arriver ici »*, avoue l'un des voyageurs, fatigué et grimpé sur l'une des petites buttes du parc à la fin de l'atelier de démonstration de taille niwaki par une dizaine de maîtres jardiniers japonais.

Le maître-jardinier Kento Yoshioka explique l'art du niwaki.

« J'ai vu de nombreux pins en Europe et en France et je ne sens pas ce côté naturel »

Revêtus d'un haut aux écritures japonaises et chaussés de tikatabi, ces chaussures du pays du Soleil-levant en toile épaisse qui n'abîment pas les sols, les maîtres jardiniers japonais expliquent avoir fait ce déplacement à l'occasion de la création et la promotion d'un réseau des jardins japonais en Europe. Le temps d'une matinée, grâce à plusieurs traductrices, ils ont présenté au public l'art du niwaki au sein d'un espace inspiré des plus beaux parcs japonais. Le niwaki, qui signifie arbre de jardin, est une technique consistant à tailler les arbres ou arbustes en forme de nuage tout en conservant une certaine authenticité. *« Il y a une grande différence avec la taille des jardiniers occidentaux*, explique l'un des jardiniers japonais. *L'arbre français est apprécié avec son volume, alors que les Japonais privilégient plutôt la forme et l'esthétique de l'arbre. J'ai vraiment l'impression que les jardiniers français mettent l'accent sur l'aspect général et craignent de vraiment casser le volume. »*

Eijîro Fujii, professeur à l'université de Chiba au Japon.

Présent ce jour-là aux côtés de ses élèves, le professeur Eijîro Fujii, de l'université de Chiba, une référence au Japon et dans le monde entier, a lui aussi livré son expertise sur la taille de certains arbres, à l'image du pin. *« J'ai vu de nombreux pins en Europe et en France, et je ne sens pas ce côté naturel. Ce n'est pas vraiment pour critiquer mais derrière chaque taille, il doit y avoir une intention, et je ne la perçois pas ici. Un pin naturel doit avoir des pousses verticales et je ne les vois pas, c'est ce qui me gêne un peu. »*

Un sentiment de remerciement

En face, les jardiniers du parc oriental sourient et acceptent la remarque du professeur qui met aussi bien les formes dans la taille que dans la critique. *« Ils ont une façon de tailler pour un objectif précis, c'est-à-dire maîtriser un espace qui est restreint chez eux. Au contraire, chez nous, on a beaucoup d'espace, et on cherche à tailler comme eux alors que l'objectif est différent, donc on obtient forcément des différences... »*, reconnaît Didier Touzé, chef jardinier du parc de Maulévrier depuis 1990 et à la tête d'une équipe de six jardiniers passionnés. Ce n'est pas la première fois qu'il rencontre le professeur Fujii, *« à chaque fois, il apporte sa vision des choses sur notre travail, sa lecture du paysage... »*

Au-delà de la forme, il y a aussi toute une philosophie autour de la taille niwaki, une philosophie néanmoins commune à d'autres types de taille. *« Pour moi, ce qui est important, c'est le sentiment de remerciement que je reçois des arbres sur lesquels j'interviens. La taille, elle fait mal aux arbres, car on coupe, on abîme, on le sait. Mais il faut vraiment intervenir pour que le jardin reste beau »*, affirme Kento Yoshioka. Un sentiment partagé par tous les amoureux du jardin, que ce dernier soit japonais ou français.

Rémi Simonet

No.57
2023.Mar.

■全国１級造園施工管理技士の会（一造会）とは

一造会は、昭和 63 年 6 月 18 日、一級造園施工管理技士の会「関東甲信・一造会」として発足しました。

発足にあたって、①公共工事の増加に伴い、多様な施工技術と高度な管理技術が要求され、技術的情報の必要度が高まっていたこと。②造園工事の採算性の悪化がいわれる中で、何が問題点かを具体的に指摘できる技術者の連携が必要だったこと。③労働条件の改善が進む中で、休日出勤、残業、徹夜など、就業実態を見つめる必要がでてきたこと。④造園工事の施工規模から現場に埋没しがちであった技術者が、次世代を担うべく社会的視野を持つ必要があったこと。⑤緑に対する関心が急速に高まる中、発注者、設計者とともに技術人として一致協力し、良いものづくり、また、造園界の社会的地位向上を目指す技術者の集う場が望まれるようになっていたこと――などの社会的背景があったからです。

こうして、（一社）日本造園建設業協会（日造協）の技術委員会のメンバーが中心になって設立準備を進め、一級造園施工管理技士資格取得者の多い関東甲信地域に所在する日造協会員会社の資格取得者を会員として、「関東甲信・一造会」が発足。その後同様の会が各地域に設立されました。

その後、全国団体としての要望と、造園工事業の指定業種への動きから、一級造園施工管理技士の役割がさらに重要になり、平成 5 年 10 月 29 日の臨時総会をもって発展改組。現在の「一造会（全国一級造園施工管理技士の会）」として、新たにスタートし、さらに、平成 24 年 5 月 24 日、全国 1 級造園施工管理技士の会（一造会）に改称して、現在に至ります。

一造会はこれまで、さまざまな技術研修会、現場見学会、海外技術視察見学会などを行い、国土交通省など官庁関係の技術者や日造協からも一造会の活動については高い評価を得、会員同士の交流や活動を通して、広く活躍を続けています。

全国１級造園施工管理技士の会（一造会）　運営組織図

顧　問

顧　問	勝野　武彦
顧　問	熊谷　洋一
顧　問	鈴木　誠
顧　問	樋渡　達也
顧　問	藤井英二郎
顧　問	蓑茂寿太郎
顧　問	涌井　史郎

相　談　役

常任相談役	松本　朗
相　談　役	加勢　充晴
相　談　役	坂元　博明
相　談　役	佐藤　岳三
相　談　役	佐藤　四郎
相　談　役	髙橋　一輔
相　談　役	松田　武彦

フェロー

フェロー	卯之原　昇
フェロー	梅森　雄治
フェロー	岡田　茂樹
フェロー	荻野　淳司
フェロー	梶井　直和
フェロー	竹嶋　正實
フェロー	立山富士彦
フェロー	辻岡　敬
フェロー	福成　敬三

幹　事　会

常任幹事会（太字）

会　長	**南波　拓哉**
副 会 長	**金子　隆行**
副 会 長	**佐藤　英介**
副 会 長	**藤本加奈子**
幹 事 長	**石井　匡志**
副幹事長	**田上　貴**
副幹事長	**西上　陽子**
会計幹事	**泉地　善雄**
会計幹事	**中川　京子**

関西支部

支部長	**當内　匡**
	梶原　宏幸
	加藤　友規
	住友　達也
	高橋　正敏
	塚本　敏夫
	中島　洋一
	信原　元樹
	藤原　圭介
	山田　耕三

東北・北海道支部

支部長	**石出慎一郎**
	荒木　正也
	草彅　大蔵
	田中　秀穂
	廣部　修平

教育訓練センター

センター長
森田　弘行

監　事

監　事	高橋　光彦
監　事	中村　秀樹

広報部会

広報部会長	**黒子　典彦**
広報副部会長	**久郷　愼治**
広報副部会長	**齊藤　典之**
広報副部会長	**堤　明伸**
広報副部会長	**野上　一志**
広報副部会長	**野木　茂樹**
広報副部会長	**水﨑貴久彦**
広 報 部 員	櫻井　秀忠
広 報 部 員	佐々木創太
広 報 部 員	菱川　清

研修部会

研修部会長	**角幡　大亮**
研修副部会長	**金川　繁男**
研修副部会長	**櫻田　邦明**
研修副部会長	**笛木　学**
研修副部会長	**渡部　俊介**
研 修 部 員	楠本　文彦
研 修 部 員	清水　孝眞
研 修 部 員	山嵜　信幸
研 修 部 員	山田　耕三

技術部会

技術部会長	**諸井　泰司**
技術副部会長	**梶川　昭則**
技術副部会長	**綱島　文彦**
技術副部会長	**西上　大輔**
技術副部会長	**室橋　智**
技術副部会長	**渡邊　健幸**
技 術 部 員	岡島　信之
技 術 部 員	田村　賢二
技 術 部 員	橋本　潤
技 術 部 員	守安　省吾
技 術 部 員	山本　実

一造会 HP
QR コード

一造会 facebook
QR コード

（50 音順）
2023 年 2 月現在

No.57
2023.Mar.

一造会 会報

目 次

一造会会報 第 57 号　令和 5 年 3 月 20 日
発行人　南波 拓哉　　編集人　黒子 典彦
発行　全国 1 級造園施工管理技士の会
〒 150-0041　東京都渋谷区神南 1-20-11　造園会館内
TEL：03-6455-0426　FAX：03-6455-0427
URL：http://www.icz.jp　E-mail：info@icz.jp

【表紙写真】フランスの地元紙に掲載されたモレヴリエ東洋公園におけるワークショップを紹介する記事。写真右・右側は、吉岡賢人氏によるマツ剪定のデモンストレーションの様子。左側は身振り手振りを交えて通訳する水眞洋子氏と iPad で記録する石井匡志団長。写真下は日本庭園の専門家・藤井英二郎千葉大学名誉教授

巻頭言
2　一造会 今日まで、そして明日から
　　全国 1 級造園施工管理技士の会　フェロー　荻野 淳司
3　私たち造園家のやるべきこと
　　全国 1 級造園施工管理技士の会　副会長　佐藤 英介

寄　稿 “Spread your wings”
4　温暖化と緑
　　京都大学大学院 文学研究科 地理学専修　教授　水野 一晴

事業報告
6　一造会会員が「もっとカッコよくなるセミナー」第 3 弾　加勢充晴 第 4 代会長に聞く「造園は夢と希望だ」
15　造園業における高所安全作業について
　　全国 1 級造園施工管理技士の会　教育訓練センター長、(一社) 日本造園組合連合会　安全衛生委員会　森田 弘行
20　日仏技術者交流 ～知られざるフランスの造園・ランドスケープを学び 現地の技術者と交流　歴史・人・文化の深淵に迫る～
22　第 17 回「一造会大賞」授賞式、受賞者発表会を開催　CLA と合同開催 大賞 1 作品、優秀賞 2 作品、特別賞 3 作品を表彰
35　第 2 回「すてきな造園空間コンクール」応募 24 作品　「いぶし瓦を用いたエントランス前庭」が金賞を受賞
45　2022 年度　若手造園技術者交流会を開催　千葉市蘇我スポーツ公園に 41 名が参加
47　公開座談会　「街路樹の現状とこれからの街路樹を語る」　海外の管理事例、仙台市の取り組みなど 4 氏が話題提供
48　技術発表会　「現場実演　効率アップ機器」　3 年ぶりの開催　多摩中央公園を会場に実施
50　第 4 回舗装研修会　㈱ NIPPO 大宮総合技術センターで開催　公園での特殊舗装の新設時とメンテナンスの注意点を学ぶ
51　現場見学会「深川ギャザリアを歩いて」　『一造会大賞の受賞現場に見学に行こう』との目的で開催
52　地蔵山ロッジセミナー「立曳移植」　堀之内北八幡神社のイチョウの大木を守った人々から当時の想いと実際の施工を聞く
53　第 10 回　植生観察研修　高尾山を歩く　常緑広葉樹林と落葉広葉樹林　異なる植生を観察
55　月 1 回　金曜ほっとライン　継続中　2 年目を迎え、延べ参加ゲストは 40 名を超える
56　東京都若手職員の資格取得支援で講師務める　～造園施工管理技士について　プロフェッショナルな造園人を目指すために～
57　「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会 公園緑地関連三賞 " 今年の№ 1 はこれだ "　一造会大賞を発表
58　令和 4 年度通常総会を開催　南波会長を再任、副会長 荻野氏から佐藤氏へ　事業計画など 5 議案を審議・承認
59　一造会「事業報告会」を 3 年ぶりに開催　東郷記念館を会場に顧問、相談役、フェローの方々集う

お知らせ
63　2023 年の一造会総会は「仙台」です！　～第 40 回 全国都市緑化仙台フェア開催～
65　令和 4 年秋の黄綬褒章受章おめでとうございます　一造会から卯之原昇フェローと久郷愼治広報副部会長が受章
66　「2023 年　今年期待の造園人」に武内将司氏　総合力において今後活躍が期待できると選出

おくやみ
67　一造会に深いご縁のお二方がご逝去　相談役の大平暁氏、多大なご協力を得た稲田純一氏

コラム　オピニオン
68　どうする、一造会の会員　1 億人の貧乏人と、1 千万人の富裕層の二極化
　　高城 雄三（㈱ CSS 技術開発 創業者・元社長）

コラム　楽しい雑木林
71　砂漠緑化の夢の果て　中島 洋一（東邦レオ㈱）
72　視察研修を終えて　横濱 紫穂（仙台市建設局 百年の杜推進部 公園管理課 公園マネジメント係）
73　伝えるということ　伊賀 満治（香川県立高等技術学校 高松校 造園科 指導員）

わたしの現場・俺の現場
75　三村 佑美佳（㈱石勝エクステリア）
76　遠藤 賢一（むつみ造園土木㈱）

77　事・務・局・だ・よ・り

巻頭言

一造会 今日まで、そして明日から

全国１級造園施工管理技士の会　フェロー　荻野 淳司

今年は、全国１級造園施工管理技士の会（一造会）が昭和 63 年（1988 年）6 月に当時「関東甲信・一造会」として誕生して 35 周年を迎えます。また、都市公園制度制定 150 周年を迎えることも造園界にとってひとつの節目でもあるでしょう。

さて当会は、代表である会長は 7 代目に引き継がれ、本会報誌も 57 号の発行を重ねてきました。建設業法に基づく制度として昭和 50 年（1975 年）にスタートした 1 級造園施工管理技術検定は 48 年目になります。合格率は 20％台と低迷が続いて、当会会員も 1,200 余名に減少したもののここ数年微増しています。各種団体の会員が減少する中、会員数減少が底を打った状況は少し明るい話題であり心強く感じています。

私は、昨年の総会において 18 年間お世話になった役員を退任しフェローという卒業生？組の仲間入りをしました。この間一貫して言い続けてきたことがあります。それは「一造会は個人会員の会である」、「一造会の活動では会社の看板を外して造園の仲間として交流しよう」、「まず自分が楽しまなければ一造会は楽しくならない」です。その信念のもと、会員のみなさんと交流を重ねた結果、多くの仲間ができたことが財産だと感謝しています。

今日までを振り返ると、諸先輩方の「技術者を現場に埋没させない」、「技術者を孤立させない」という強い思いの中で生まれた一造会ですが、その根底にある技術者が抱えている課題は 35 年経った今も変わらず悩ましい。だからこそ一造会の存在は大きいのだと思います。

具体的には、初期のころは、「現場研修会」などの勉強会に加え、年に一度の総会に合わせて開催された「講演会」、そして「施工仲間と語る会」が企画され、会社の垣根を超えた交流はとても新鮮で刺激的であったことを今も鮮明に記憶しています。気が付くと社内では話さないことを一造会の仲間には話していることがあります。その会話の中で勇気をもらったり、励まされたりすることがあるのです。もちろん技術的な情報も数多く得られました。「造園は、技術・科学・芸術の三拍子が揃ったものである」ということを実感したのも一造会であり、多くを学ばせていただきました。

現南波会長をはじめ役員のみなさんもひと回り若返り、コロナ禍で不自由な 3 年間を過ごしながらも、創意工夫を重ね新しい事業活動の活路を見つけ元気よく走りだしました。法人化など引き続きの課題もありますが、明日からも「造園楽し！一造会」を掲げ発展していきますよう期待します。

「一造会会報　第１号」
設立総会・パーティーに関する記事より

設立パーティーの冒頭であいさつする近藤（成家）次男会長

来賓あいさつする
冨田祐次建設専門官

設立総会の司会を務める前田宗正氏

巻頭言

私たち造園家のやるべきこと

全国１級造園施工管理技士の会　副会長　佐藤 英介

コロナ禍は暗い影を落とし経済を低下させてきた。そこに時代錯誤であるロシアによるウクライナへの侵攻は、世界の衝撃であり世界混乱に拍車をかけた。そして我々の未来にじわじわと強く影響を与えていくのだろう。コロナのコントロールは困難でありそうだが、ロシアの行為は自主的に速やかに中止撤退してもらいたいものだ。

さて一造会はどうか。南波会長体制が生き生きと動き、かなり活気ある活動となっている。今回の会報を見て頂ければ一目瞭然である。コロナ禍で世の多くの活動が中止される中、オンラインによる開催の試みや、新規の事業も追加されている。「すてきな造園空間コンクール」は今年度２回目を盛況のうちに開催された。また、コロナ渦でコミュニケーションが課題となったが、「金曜ほっとライン」は企業を離れた立場で、若い技術者が自由な話題で話し伝え合う場として、毎月オンラインで開催されている。「海外研修」はフランスで欧州日本庭園協会の設立に合わせ技術者交流を実施した。この時期に思い切った判断と決断により、大きな成果を得た活動となった。我々施工管理技術者が集まる一造会の活動がより多くの方々に訴求し、より全国的な広がりを見せることを願っている。

ところで近年、AI 技術が職業を奪うと話題がある。見かけた記事では、経理事務や運転者、レジ打ちなどなど。逆に奪われないのには精神科医、クリエーター、保育士、芸術家などがあるそうだ。さて私たちの造園はいかがなものか。私は造園という職業は AI に奪われず益々発展すると思っている。なにしろ造園はクリエーティブな仕事であるからだ。造園家、とりわけ施工者は、物事を的確にとらえる感性と表現力、実行力が必要である。そして芸術性も問われるのである。樹木を一本植えるときにも、大いにその感性が必要なのである。今のところ AI にはまねできまい。

人、生き物は緑を母体にした自然循環の中でしか生きられず、その仕組みを何も知らずに享受して生きているだろう。そのことを素直に受け止め、我々は感性を大いに磨き、生かし、こころ豊かに生きるための空間を作るのが私たちの役割である、と素直に言えることが大切なのだと私は思っている。そして造園領域を広げ、造園ファンを広げなければならないのだ。

一造会は施工管理技術者の会だ。なにしろ我々技術者が現場で創らないとどうにも実現できないのだから、誇りをもって取り組みたい。一造会の活動が造園領域の社会的地位を少しでも向上させることを期待している。

羽黒山参道

寄　稿“Spread your wings”

温暖化と緑

京都大学大学院 文学研究科 地理学専修　教授　水野 一晴

私は主としてアフリカやアンデス、ヒマラヤなどの高山とナミブ砂漠などの乾燥地をフィールドとし、低温や乾燥という厳しい環境のもと、温暖化等の気候環境の変化によって植生などの自然環境がどのような影響を受け、さらにそれが人間生活にどのように関わっていくかを明らかにすべく調査を行っている。

ナミブ砂漠にはワジとよばれる涸れ川のクイセブ川があって、年に数日から数十日だけ水が流れる、すなわち洪水が生じる（図 1）。ナミブ砂漠ではこの涸れ川沿いのみに森林ができていて、そこに人々が住み、点々と集落が存在する。森林は、住民にとって欠かせない料理等で使用する薪、家を作るときの建材、そして日陰を提供する。砂漠の日中の気温は 40℃を超えるが、日陰に入るとひんやりする（図 2）。そのため野外では猛烈に暑くても、家の中ではエアコンなどは必要ない。乾燥しているので昼と夜、日向と日陰の温度差が激しいのだ。

私が最初に調査を行った頃の 2002 年には、その涸れ川沿いの森林があちこちで大量に枯れていた（図 3）。枯れた樹木を放射性炭素年代測定によって測定したところ、その枯死した年代がおよそ 1976 年から 1987 年の間であることがわかった。その年代は図 1 のクイセブ川の洪水日数と照らし合わせると、クイセブ川にほとんど洪水がない時代と一致した。つまり、洪水が森林の維持に重要であることがわかった。しかし、その洪水が 2011 年には 193 日あった。2011 年の洪水は、住民が飼っているヤギを流したり、住居に被害を与えたりしたが、森の回復には大きな役割を果たした（図 4）。

近年、年によって洪水が起きたり干ばつが生じたりと、雨が降る量が年によって極端に変化し、それは温暖化の影響ではないかと推測されている。

一方、ケニア山では近年の温暖化によって氷河が縮小し、その氷河の後退とともに植物の生育前線が上昇

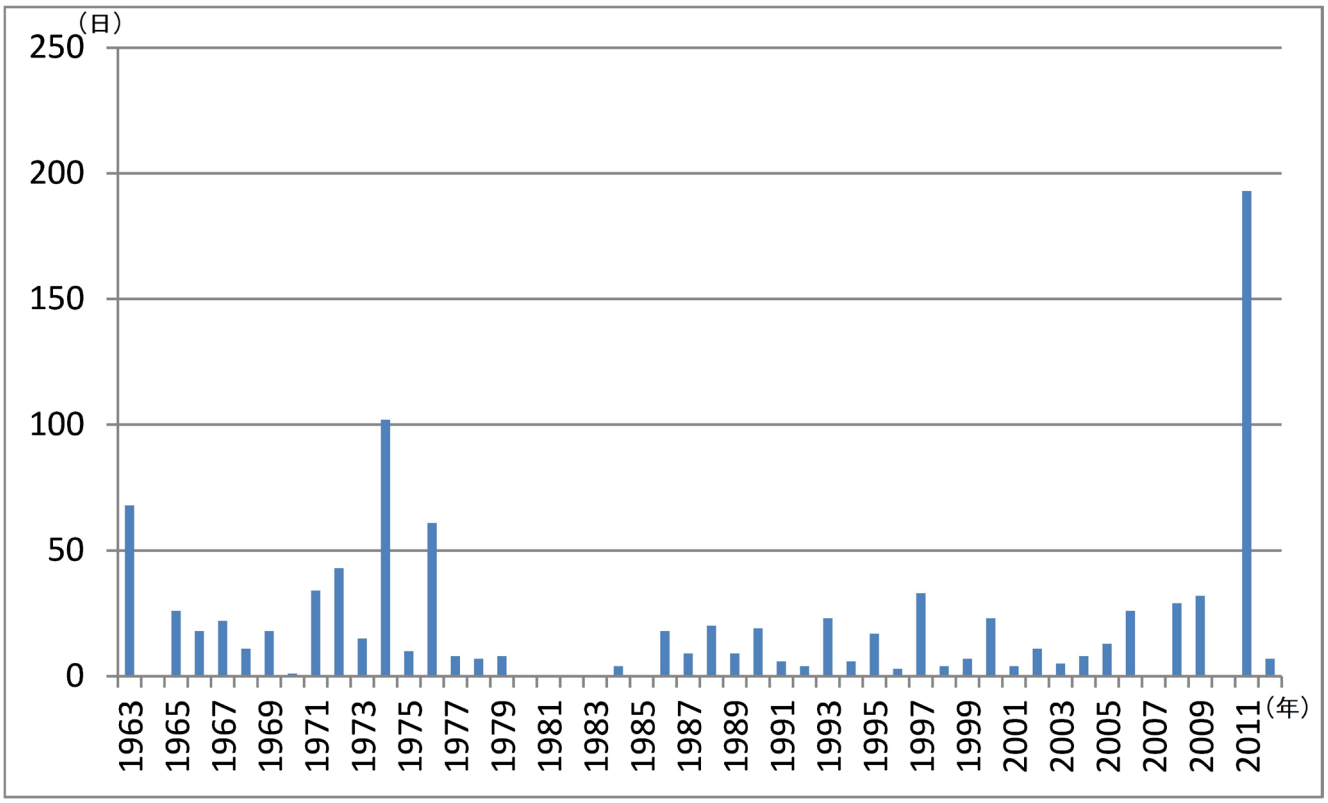


図 1　ゴバベブにおけるクイセブ川の年間洪水日数（1963 ～ 2012 年）

図２　ナミブ砂漠は日中に気温が 40℃以上に上がるため、スプリングボックもわずかな日陰で休む

している。氷河と岩しかなかった場所が徐々に緑に覆われていくのだ。ナミブ砂漠では住民にとって森は重要だ。しかし、ケニア山の山頂まで緑に覆われたらどうであろうか？ケニア山から氷河が消滅するのは 10 年以内と推測されている。

近年の温暖化によって、ナミブ砂漠のような乾燥で厳しい場所やケニア山のような低温で厳しい場所、すなわち気候的限界地帯の緑が大きく影響を受けていることは間違いないようだ。したがって、そのような場所で暮らす人々は、緑や水の恩恵を特に強く感じている。自然の小さな変化も、彼らの生活にとっては死活問題となることが少なくない。住民生活向上のためには、グローバルな観点から地球環境の保全を捉え、そしてその地域特有の環境や社会をよく理解した上で緑化や生活環境の整備を行っていく必要があるだろう。

図３　クイセブ川沿いの森林（2002 年 8 月）。森林が一部枯死している

図４　クイセブ川沿いの森林（2012 年 9 月）。森林が回復している

事業報告

一造会会員が「もっとカッコよくなるセミナー」第３弾

加勢充晴 第４代会長に聞く「造園は夢と希望だ」

一造会会員が「もっとカッコよくなるセミナー」は、2020 年 2 月に第 1 回として、一造会の設立提唱者でフェローの福成敬三氏（フォーサイト緑地環境研究所代表）が「緑とともにさりげなく、大胆に！」、一造会第 2 代会長で相談役の松田武彦氏（松田造園技術事務所代表）が「緑とともに面白く、ありがたく！」と題して開催。第 2 回は 2021 年 2 月に、第 2 代会長で相談役の髙橋一輔氏(アゴラ造園㈱代表取締役会長)が「“ 乞わんに従う ” のイロハ」と題してオンラインで開催した。

第 3 回は 2022 年 6 月 29 日に小石川後楽園の「涵得亭」で、一造会の第 4 代会長で相談役の加勢充晴氏（加勢造園㈱代表取締役会長）にお話を伺おうと、松本朗常任相談役、荻野淳司フェロー、金子隆行副会長、高橋光彦監事を聞き手に収録スタイルで行った。

■はじめに

直接、皆さんの前で話をして欲しいという依頼がはじめにありましたが、どこから話したら良いかよく分からないのと、余計なことも話してしまうと思い、みなさんの「聞いてみたいこと」にお答えするスタイルでお話しできればと思います。

■どうして造園業界に飛び込んだのか

自分でも最初から造園を目指していたわけではなく、大学受験の時にはじめて本気で進路を考えて、最初は土木がやりたいなと思っていたんですよ。都会の土木じゃなく、山奥に行ってダムをつくったりとか。武田信玄の治山治水、山と水を治める者は天下を治めるといった、そういう憧れもありました。

私の親は商売をしていて、自分はその商売の家庭の環境があまり好きでなく、大自然を相手に仕事がしたいと思っていました。

スキーや山登りも大好きだったので、大学受験に当たっては、治山、治水をやりたいと先生に相談したら、岩手大学が良いということでしたので、岩手なら宮沢賢治と石川啄木のゆかりの地で、家からも離れられるし、土木よりは、森林土木、森林工学がいいなと思って選びました。

それで盛岡での大学時代を過ごしますが、演習林での実習の際は、測量による地形図作成、砂防ダム、林道等の設計図書の作成が完了するまで帰れないんです。その演習林は盛岡の街から車で 1 時間以上かかる秋田県境の山奥で、5 月の連休でも雪がぎっしり積もっているようなところです。そんな場所に、長い時は一ヶ月近く閉じ込められます。

その実習の際に、ボーイスカウトみたいな恰好で、帽子に緑の羽根をちょっとさして、リルケの詩を朗読して、そんな場違いなスタイルで、「心は文化人、体は野蛮人」と言って、山に入ってくる変わった先生がいました。この先生が澤藤雅也先生で、後にお世話になる造園の先生でした。「こんな人がいるのか」とびっくりしながらも、すごく心強いっていうか、面白いぞって思いました。

演習林では、夜は昼間の測量の計算・作図で、当時は教授だけが電卓を持っていて、私たちはガラガラ回すタイガー計算機が主流。コンピューターは工学部の電子科にあるだけで、申請して使わせてもらうみたいな状態なので、足し算、引き算ならそろばんの方が早くて、私はそろばんが達者だったので、「夜は俺が計算頑張るから」と言って、昼間の山で重い機械を持ち歩くのはお願いして、ポール持ちばかりしていました。

ある時、黄色と茶色の派手な虎模様のボールみたいなものがあったので、ポールで突っついたら、スズメバチがまるでアメリカ映画か漫画みたいに真っ黒い塊のように出てきて、逃げ回るけれど逃げ切れず、被ったジャンパーの上から何箇所も刺され、病院に運び込まれました。注射をして一晩入院したら、次の日には「もう帰っていいですよ」って。でも、もう 1 回刺されると命が危ないといわれて、山はダメかなと思ったりもしました。

そんなこともあり、研究室選定に当たって考えてい

一造会　第４代会長　加勢 充晴　加勢造園㈱代表取締役会長

たら、砂防工学の先生から「君なら公務員試験もきっと受かるだろうから、一生懸命やりたまえ」とか言われたけれど、公務員はどんな部署に回されるか分からないし、民間でも大きな砂防工事をするのはゼネコンしかなく、会社の都合で他の仕事に回されるのは嫌だから、役所やゼネコンには入りたくない。 ずっと好きな仕事を続けるにはどうしたらいいかを考えているうちに、山の緑もいいけど、街の中の緑もいいなと考えはじめ、先の澤藤雅也先生の造園学研究室で、造園、森林美学、風景論などを学ぶことになりました。それが私にとっての造園のスタートでした。

卒論は、「盛岡の緑の変遷」で、航空写真や人間の視点での緑の景観の変化を写真から分析して、あっという間に 4 年生。その頃は株価が上がっている元気のいい会社ばかりで、バブル経済の始まりみたいでした。同級生は 30 人で 26 人が卒業。5 人が国家公務員、その他はほとんどが地方公務員で、民間は製紙系か大手の商社に就職。ちょっと変わった 3 人だけが造園をやりたいということでした。4 年次の夏休みに、実習兼アルバイトで現場を体験してみろと先生に言われ、私は実家に近い東京の造園。もう一人は京都、もう一人は仙台で、10 日くらいのアルバイトをしました。

加勢造園でのアルバイトは、外来種のプラタナスの剪定の真っ最中で、トラックの上乗りで、荷台に放り込まれた枝を順に積んでいく作業をずっとしていました。3 日目ぐらいから鼻がグズグズして、ゴホンゴホンと咳とくしゃみと鼻水がひどくなって、こんな仕事やってられるかと思っていました。

最終日にアルバイト代を払うというので、その時の社長（後の親父）と対座して、「お前の働きっぷりを見せてもらったし、君もこの会社を見た。卒業したら会社に来ないか」って言われたのに、その時は「私の思っている仕事と全然違いますので」とお断りしました。

国家公務員試験が始まっても何もしないでいたら、恩師が「お前は就職活動もしないで公務員試験も受けないのか。行動しないやつの面倒は見ない」と言われてしまい、国家公務員試験だけ受けて、一次試験に合格し、二次試験も済んで、厚生省の面接試験を受けました。当時、国立公園は厚生省で、先輩が厚生省に入っていたので、話を聞いてみたら、「レンジャーってみんな山の仕事だと思っているけど、実際は管理事務所にいて、学術研究のための植物採集とか立入禁止の所に入っていいとか、そういう許可を出したりする書類の審査が普段の仕事だよ」と言われて、そんなの嫌だなと思って、それよりは都会の中で、子どもたちやお年寄りが毎日使える公園とか、街の緑に関わる仕事の方がいいなぁと、考え方が変わったんですよ。

だから、「レンジャーになるつもりは全くありません」みたいなことを面接で言ってしまって、見事に不採用。防衛庁などからも採用面接がきたんだけど、もう役所は嫌だなと思い、先生には黙って、小形研三さんと伊藤邦衛さんに、こんなことを考えていますが、御社で採用予定はありますか、みたいな手紙を書いたんです。

お二方とは、大学 3 年の時に明治神宮の参集殿で催された、日本造園修景協会の造園夏期大学の講義を

きっかけに、特に設計実習の講師をされた伊藤さんにはいろいろなお話をお聞きしていました。

そしたらお二方とも「いつでも歓迎しますから、ご自身の作られた設計図面と設計説明書とパースを持参して来てください」って返事をいただきました。

でも、林道設計と砂防ダムの設計書じゃダメだろうなと思って、それならまず造園の現場を早く覚えて、早く辞めて小形さんか伊藤さんのところに行こうと、アルバイトをした加勢造園に手紙を書いたら、「ああいいよ」みたいな返事がきました。そんな経緯で、昭和 47 年に卒業し、加勢造園で造園の仕事をするようになりました。

■業界に入って一番印象に残った現場・出来事

一番というと難しいですが、入社 1 年目はいろんなことをして、2 年目に初台緑道の仕事をしました。

京王線の玉川上水跡地で京王線のトンネルの上になるので、10t ダンプは載せちゃいけなくて、重機もすごく制限され、職人は三宿の日雇いでとか言われて、2 年目でこんな仕事させるなんて、会社は何を考えているんだろうと思ったら、田中さんの同級生だった梅宮さんという大先輩をつけてくれて、梅宮さんが先生役で代理人見習いをして、すごくいい勉強になりました。普通の下請けさんとか、純粋な職人さんではない、職人崩れみたいな三宿の日雇い労働者たちを相手に現場を覚えていきました。そのほか、まとまった現場では、ちょうど高島平団地の工事が始まったばかりで、住都公団の仕事が始まり、その後が、夢の島周辺の埋め立て地です。その後 7 年ぐらいずっと埋め立て地で、湾岸道路の緑道とその緑地帯の造成に関わっていました。

そこは、何 10 万㎡という造成工事で、山をつくって、川をつくって、サイクリング道路や遊歩道を整備するものでしたが、メインは造成工事。辰巳から大井ふ頭あたりまでずっと埋め立て地の造成をする面白い仕事でした。造成後の植栽工事では、クスノキやタブの木などを鹿児島からトレーラーで運んで、すごい規模の植栽でした。今ではこんな工事はもうないと思います。

埋立地が一段落したら今度は、多摩ニュータウン。これも私が一番最初に取り掛かり、多摩美術大学の裏の方で山を調べ歩いて、移植して使える樹木をテーピングして、土木屋さんが造成をかけたところから採取した黒土をダンプに積んで持ってきて畑にして、仮植場を作ったりしました。

次にやったのが、多摩センター向かいの都の施設の下の崩壊のり面を修復する工事でした。櫻井さんが東京都の工事課長で、「君ね、この仕事は今まで土木に出ていたのが初めて造園に出た仕事だから、あなたがこの仕事をうまくやるかどうかで、今後、造園の仕事がどんどん増えるか、これで終わりか、そういう思いでやってくださいね」みたいなこと言われて、プレッシャーが大きかったです。福島からいつも来ていた出稼ぎの親方を連れて現場を見に行ったら、親方がビビッちゃって「こんな仕事、俺たちにできるんですかね」みたいなこと言うから、「そんなこと言うなよ、俺だってビクビクしているんだから」って（笑）。その時の都の監督が小口健藏さんでしたね。とにかくちゃんとやらなきゃならないから、まずは工期が遅れないように、早く着工するためには実行予算を組まないといけないので、いろいろ協力してもらいました。

仕事のほとんどは造成工事とのり面改修で、造成後にエキスパンドメタルを張って、山の土を被せて、植栽して最終仕上げ。多摩センター付近から始まって、南大沢の辺りまでずいぶん長くやりました。

南大沢をやっている頃に、富士植木の高城さんがすぐ隣の現場で頑張っていました。高城さんはその後、CSS を立ち上げ、大実業家になりましたね。

湾岸の埋め立て、多摩ニュータウン、そして、道路公団の仕事が全国で始まった頃で、公害防止事業団、国営公園もスタートして、これから造園の時代だと、産学官が一緒になって造園が熱くなってきた時代でした。特に道路公団、公害防止事業団は、北海道から沖縄まで全国にどんどん仕事が増えました。

この頃は公園というものが無い地方で、高速道路のインターチェンジとかサービスエリアに小中学生が遠足に来ていました。道路公団の緑地ってそれだけすごくて、それが全国にできるというのは、造園を広げるものすごい力になりました。

そして、（社）道路緑化保全協会では、そういう現場を対象に、大学の先生にも入ってもらって、産学官でいろいろな試み、研究をしました。その時に一生懸命にやってくれたのが亡くなった三沢先生、輿水先生、近藤先生でした。藤井先生も若手で、よくやってくださいました。先生たちも自分の研究分野のフィールドを提供してもらえるっていうので、助け合う部分がたくさんありました。

個人的には、加勢造園の社長になるまで、そんな感じで結構好きなように、動かせてもらっていました。

社長になるとその役割があるので、それまでとは違いましたね。一番気を使うのが安全で、事故を起こさないように神経を使わなきゃいけないし、経営に関しては自社だけでなく、下請けさんと、そこの職人さんのことも考えないとね。

社長になった後は、それまでの現場を駆けずり回っていた時とは全然違うし、一造会の会員向けの話とは、ちょっと違っちゃうので、社長は社長で大変なんだということも分かってもらえたらいいなと思います。

■技術者、設計者とのエピソード

面白いことがいっぱいありましたが、自社で言えば、２人の原さんですね。同じ原でも性格が正反対で、一人は秀才だけど、とにかく理屈っぽい。いろんな道路の曲線や滑り台まで、微積分、微分方程式で全部解いて図面にしちゃう。これを拡大すれば、このままできますよって大工さんに説明したりして。もう一人は、現場は体力だ、何をもたもたしているんだって、馬力で行くタイプ。まったく対照的な２人だけど、私は２人とも大好きですね。

あと、印象に残っているのは、岩田造園のみっちゃん、いくちゃんって。この２人もすごかった。泥だらけで、現場を駆けずり回って、職人を動かしながら、自分も重機のオペから型枠の作業もしていて、その頃は技術と技能っていうのは分かれていなくって、工期が迫っているときなんかは、ものすごい早さで仕事していたから、すごいなこの人たちと思っていました。そして、こういう人たちが富士植木さん、東光園さん、その他の造園屋さんにもたくさんいましたね。やっぱり現場の人って、監督さんが技能も職人に負けないぐらいのものを持っていて、現場では誰にも負けないって気概を持っていたんだと思います。それがすべてではないけれど、これも技術者のあり方だったんだと思います。

それと、東光園の島尻さん、箱根植木の大平さん、みなさん、「心は文化人、体は野蛮人」の面を持っていましたね。大平さんは英語もできて、海外の仕事もやって、一造会の会長になっていてもおかしくない人でした。

富士植木では権蛇さんが、関東甲信・一造会で会員を増やそうと大阪に行ったときに、まだものすごく大きかった携帯電話を風呂敷に包んで持ってきていて、「大変ですね」って言ったら、「すぐ連絡取れるからいいんだよ」って。「現場で何かあったらすぐ対応できる。時間が経つほど、あとの処置が面倒になるから、早く連絡もらって早く処置するのがなにより」って。私は、地方に出たときくらいは、そういうことから逃れたいって思っていたので、「この人はすごいな」って思いました。

設計者では、伊藤邦衛さんですね。多摩ニュータウンや茨城県で、いろんな仕事を一緒にさせていただきました。茨城の守谷市の仕事では、石切場へ材料選びによく２人で行きました。現場では図面のチェックと指図をし、こんな調子でやってくださいって、共に現場を進めるなかで、いろいろな話を聞くことができました。

多摩ニュータウンでの彫刻と階段との組み合わせも伊藤さんにいろいろ教わって、階段の蹴上の途中に石を長めに入れちゃったりするとつまずくのではと心配しちゃうと、「危ないってわかるのは、注意を促すことになるから、安全につながる」みたいなことも言われて、ただ、「役所と折衝するのは俺なんだけど」と何度か思ったこともありました。

役所は、図面ありきだから、景石も図面に描かれちゃうと、こっちはやりようがなくなるので、伊藤さんに描かなくてすむ方法はないかと相談したら、重さを設計、積算上の根拠にするということを編み出されて、台貫何トンで金額的にはクリアするようにして、設計書では「熟達した技術者と熟練の造園工で納得のいく石組みをして、目的を果たす」というような書き方をしたりもしました。

茨城で、御影の石積みで石段や水飲みなどの構造物も割りっぱなしの石材を使いましたが、ドリルの刃の跡が何本も残っているものがあって、検査の時に検査員に消してと言われると、「この石は、何億年、何万年の昔に炎のような溶岩の塊が大地の底で固まったもので、大地から人間がいただくときに、この爪痕が残った。この石のこの模様はそのとてつもない年月と人との出会いの証であり、その大切な痕を消そうなんて、そんな話があるもんか」って説明したら、検査員は納得したのか呆れたのか、不思議な顔をして検査が完了したことがありました。 とにかく思い出深い人でした。

小形研三さんは、加勢の親父と千葉大学の同じ研究室で、年齢も同じで良きライバルでした。小形さんは卒業した後、飯田十基さんに師事して、その後東京都の職員になって現場をやっているんです。私と同じように職安の失業者を連れて東京都の直営でいろんな現

場をやっていましたから、現場のことをよく知っています。自分で京央造園設計事務所と東京庭苑と２つの会社をやっていました。

東京庭苑は奥さんを社長にしていました。現場の積算をしろと言うと、京央造園は資料をくださいっていうけど、東京庭苑は自分で考えて積算をする。だから僕は東京庭苑の方が好きだと言っていたことがありました。

小形さんには、いろいろな話を聞かせてもらいました。当初見られるようにするために、多く植えて、その後、間引きをするということもそうです。萌芽更新もそうです。民家の庭で植木屋さんのやる手入れを同じように住宅団地でやるのはお金も掛かるし無理があります。お屋敷のお庭と高層住宅の緑地はスタイルが違うのだから、切っちゃうんですよと。 何年かおきにそこから芽を出させる薪炭林のつくり方ですよね。それを設計に取り入れればいいんだって。皆さん何故それをやらないかというと、仕上がった時の姿だけ考えて設計しているからで、10 年後、20 年後のことを考えて設計していないからだと。

完成した当初も見られるものにするために、これだけ植えますがあとで切りますって、最初にきちんと説明をして、間引き剪定をするんです。自然風なので 5 年、10 年で更新すれば、その間はほとんど手入れなしで大丈夫だっていう。図鑑を見ながら丸い樹冠だけ描いて樹種を書き入れるのは、造園の植栽設計じゃありません。後の手入れとともに設計しなきゃダメなんだと、しつこく言われていました。そういう造園の時間軸を含めた設計というものを小形さんから教わりました。

話は戻りますが、伊藤さんは広島の山奥、中国山地の農家で育ち、しょっちゅう大水が出て畑が流され､石が流されてくる。その石を畑や田んぼに積んで、「段々畑」や「棚田」がある美しい田園風景を作ってきた。民家の庭では、使わなくなった石臼を並べて延段にしたり､飛び石にしたりすることをしていました。

だから、造園は生活土木だというのが口癖でした。瀬戸内海の堤防も、青森の蔦川の造園砂防もそういう発想でつくられました。茨城の山に一緒に行って、稲田の石屋で大理石の破片を見たときには、破片屑に興味を持って、その端材を使った石張を思いついた。その時は屑だったので、タダでもいいよという材料を使った。その後も同じような設計をされて、石屋さんに行ったら屑はもうないからって言われて、製品を壊して端材を作るといわれて、見積もりが合わなくなっちゃって、何とか端材の値段でできるようにあちこち駆け回ったこともありました。

それと似たような発想でアスファルトの廃材を飛び石みたいに使ったりもしていました。大田区のタイヤ公園では、処理に困っていた古タイヤを使った公園をつくっていて、私は学生の頃に見に行きました。

そういう発想。これをこう並べたらこんなのもできる、あんなのもできるって。たぶん、子どもでも考えそうなことなんだけど、伊藤さんは育った環境に伝わる知恵とか、自分でいろいろと考えて、いろんな経験に基づいて､それを大人の鑑賞にも耐える風景にして、公共空間や海の護岸にまで応用してしまう。まさに生活土木っていう言葉がしっくりくる。後に「アートアンドクラフト」っていう少しおしゃれな言葉が出てきますが、それをずっとやってきた人でした。

イギリス人のバーナード・リーチという陶芸家でデザイナーの人がいて、彼と出会った濱田庄司さんたちが生活の芸術化、生活そのものの芸術化、普段使う日常品の器だとか瓶だとかに芸術の意味があると、柳宗悦の流れをうけた民藝運動をしていました。

クラッシック音楽とかになると、またちょっと違うところもあるけど、音楽でもリンゴ追分とか津軽なんとかだとか、民衆の文化や生活に根差しているものが多くあって、歌謡曲も日常の延長だったりするようなところがある。造園の分野にも、大名庭園みたいなものももちろんあるけれど、造園はアートアンドクラフトとか、伊藤さんの言う生活土木、普通に暮らす人たちとともにあるものだという感覚が私にもあります。

だから､イングリッシュガーデンが流行ったときも、ロンドンは産業革命で煤煙の街になっちゃったけど、同時に汽車ができて、空気の悪いロンドンに住まなくても、郊外から通勤できるようになった。ロンドンのアパートから離れて、郊外に戸建て住宅を建て、きれいな空気を吸って、自分で園芸を楽しむ。誰かに作ってもらうんじゃなくて、自分のこの手でやることに意味があるのが、ガーデニングの始まりでしょう。

庭師さんにお金を出してつくってもらうお庭とは別のアプローチでガーデニングがブームになったんだと思いますが、アートアンドクラフトの発想や伊藤さんの「造園は生活土木」というところには、繋がっている部分があるなって思っています。

話がちょっと逸れましたが、設計者だとそのほか、愛植物設計事務所の山本紀久さん。今も現役で活躍さ

伊藤邦衛氏の監修により、道路緑化保全協会関東支部が発行した書籍『創る－造園の心と技－』の表紙（左上）と一部
１つの石に着目し、その割った石の取り扱いを写真と短文で紹介し、伊藤邦衛氏の世界観を象徴的に示した内容になっている

れていますが、第一園芸の出身で施工経験も豊富で、現場もよく知っています。本物の造園設計者です。

■一造会会長として、やって楽しかったこと、やり残したこと

楽しかったことというか、良かったなと思うことは、いろんな人と濃い付き合いができたことが一番ですね。

造園業界の営業マン同士の、会社の枠を超えたつながりは、以前から緑営会というものがありましたが、現場の人には、そういったつながりはありませんでした。一造会設立当初の技術者同士の横のつながりは、本当に衝撃的でした。それまでなかったものができたわけです。横にいる富士植木の松本朗さんとの出会いも一造会だし、物林の梶井直和さんもそうですね。梶井さんは一造会でも、いろんなことを焚きつけるだけ焚きつけて、あとはお任せみたいなところがあるけど、梶井さんがいなかったら、何も始まっていなかったっていうことがいっぱいある。海外視察もバブル崩壊後は、そんな時代じゃないよみたいな感じでしたが、こういう時こそみたいに、梶井さんが焚きつけて一造会でタイや韓国、中国にいって、そこで交流が深まった人が何人もいます。

また、一造会だからそういうことができたというのもあると思います。韓国については、韓圭希さんにもとてもお世話になり、それがきっかけで「韓国一造会」もできて、今はちょっと停滞しているかもしれませんが、その後の交流にもつながりました。

やり残したことは、一造会設立のときの思いに繋がっているんだけど、歌舞伎を見に行ったり、演劇を見に行ったり、音楽の演奏会に行くなど、そういう文化的な活動ができませんでしたね。一部で絵画の鑑賞

くらいはしましたが、そこまででした。文化的活動を軌道に乗せるくらいのところまではしたかったですね。

私が現場に出ていた頃より、休日や休みははるかに多くなっていると思いますが、それでも皆さん忙しいですからね。何かきっかけがないと、なかなか新しいことや自分が思っていなかったことに時間は割けないものです。そういう意味でも焚きつけ役は大事です(笑)。

■一造会発足当時の想いと空気感

一造会発足に当たっては、昭和造園の前田さんが、土木施工管理技士の会ができたから、その造園版をつくろうと呼びかけました。建設業法の改正で、造園が土木から独立して日本造園建設業協会ができ、造園施工管理技士の資格ができて、技術者同士の交流を目的に一造会をつくったわけだけれども、私たちの意志だけでなく、世の中の状況が、そういう時期だったんだと思います。

それで、前田さんや当時の近藤次男(成家次男)さん、福成敬三さん、髙橋一輔さん、松田武彦さん、立山富士彦さん、卯之原昇さん、竹嶋正實さん、梶井直和さん、梅森雄治さん、津田紘一さん、権蛇次夫さんなどが集まって、なんかできないかという中で、引っ張ってくれたのが前田さん、近藤さん、福成さん、髙橋さんでした。その時私が一番思ったことが、「技術者を現場に埋没させるな」です。現場が始まっちゃうと半年とか1年、新聞も読めない、テレビも見ない、すべてが現場中心でほとんど休めない状況で、子どもを連れた母親が私たちを見て、「一生懸命勉強しないとああいうおじさんみたいになっちゃうよ」みたいな、そういう目で見られたり、言われたりするのは、何とかしなきゃって、心の底から思っていました。

茨城の守谷の現場に電車で通っている時、自衛隊の勧誘を3回ぐらいされたことがあります。「いい仕事があります」って。職安から職人を引っ張ってくるのが自分の仕事だったのに、その自分が「いい仕事があります」って声を掛けられるようじゃダメだろうと。人目を気にする必要なんてないと思っていたけれど、社会人として、世の中に認知されないレベルはダメだと思いましたね。確かにそういう風にみられるのは、自分たちの方にも問題がある訳で、現場の人だけじゃなくて、業界そのものが認められる必要があるって思いました。建設業界っていうのは、社会から外れたものの受け皿みたいな部分があって、田中角栄さんが総理大臣になってからも、土方内閣とか、そういう言い方されていましたけど、そういうのもよくないですよね。

でも、そういう認識をされている事実を受け止めながらも、「俺たちはちゃんとした仕事をやっていて、それは社会に必要なことで、生活を芸術化する美的な生活の場づくりをしているんだぜ」っていう思いがあって、それをどう実現したらいいかを考えてきました。

些細なことだけど、結婚式以来スーツを着たことがないとか、そんな人も現場の人には多くって、たまにはスーツを着て、普段いかないようなところにもいってみることも必要なのです。 現場に孤立しているだ

2022年6月29日、小石川後楽園「涵得亭」で行われた「一造会会員がもっとカッコよくなるセミナー」の収録の様子
(右から、加勢充晴一造会第4代会長、松本朗常任相談役、荻野淳司フェロー、金子隆行副会長、高橋光彦監事)

けでなく、いつの間にか社会から孤立しちゃっているんじゃないかって思ったりもしました。

今はそんなことは少ないと思いますが、現場で職人の人たちとやりあっていて、どんどん言葉が乱暴になってしまうとか、現場での立場や自分より年上の人や経験がある人を相手にしている日常から、下請けさんや職人の人たちから言わせると、「俺たちを相手に、先生みたいな言い方をして」って言われたりもしました。振り返ってみると、学校の先生の偉そうないい方は自分も好きではなかったけれど、そんな風になっていなかったかという反省も含めて、現場や普段の自分から離れてみるのも大切なことだと思います。

■これからの一造会に望むこと

技術と技能がごちゃ混ぜの時代と違って、真っ黒になって仕事をすることがすごいって思ったり、言われたりする時代ではなくなって、法令以外にもISOみたいな規格が入ってきたり、それこそ工事だけでなく、指定管理などで直接エンドユーザーと接したり、働き方改革なども含めて、私たちの仕事の内容も仕事の仕方も変わってきています。仕事がいっぱい出て、「とにかく間に合わせるのが一番」の時代は終わり、どんな技術が提案できるかで選ばれる時代です。

私たちの頃は、出てきた仕事に対して、仲間との交流で技術力を高め合ったり、舗装とか電気とか、造園以外の知識が必要になる中で、講習会や研修会をして、新しい知識を得て、それはすごくいい勉強になったし、海外研修も含めて、どんどん造園が発展する時代だったので、植木屋さん・庭師から造園・ランドスケープを目指して、みたいな、一造会に限らず、業界の大きな流れもありました。

これからの一造会はどうしたらいいのかって考えると、設立した時と本質は変わっていないと思うんですよ。厳しいコスト管理の中で、人も限られるので、現場の技術者はやっぱり孤立しがちだし、建設業界に対する社会の視線もそんなに変わったとも言えないし、新しい知識や技術が必要で、学んだ方がいいということも変わっていないと思います。

だから、一造会の初心を忘れないで欲しいっていう思いは変わらずあって、一造会は個人の会だけれども、所属先のオーナーや上司の理解を抜きにしては成り立ちません。

一造会の活動は、社員の勉強にもなるし、それが会社の力にもなるし、それらが業界の発展の大きな力にもなります。だから、オーナーにこびへつらうとかではなく、誰がみても大事なことをやっているんだから、それに協力しようって関係する人たちに思ってもらえるような活動をする団体、会員であって欲しいと思っています。

一造会の幹事の人たちには、会員全体のことを考えて、裾野を広げることが大事だって言ってきたつもりです。偉そうなことをいうつもりはなくて、そうしないと地方の会員の方々や幹事がいない会社の方々にきちんと伝わらないことがあるからです。

組織を運営する、いろんな人たちを引っ張っていくには、中核になる人たちがとても大事で、その人たちが育って、その人たちに影響を受けた人たちがいて、それが末端まで浸透していくというムーブメントにするというのがとても大事で、そのあたりの取り組みをさらに進めていってもらえたらと思っています。

私たちの時には、「技術報告集」がそれなりに効果があったと思っています。学術書のように、言葉遣いとか文章のつくり方がどうだとか、そういうところにこだわってしまうと、そこで止まってしまいます。乱暴な言い方をすると、物書きについては私たちはプロではなく、技術的には最先端ですごいことをしている訳だから、体裁はともかく、そういうのをどんどん取り上げていくことは、今でも価値があると思います。

プロ野球のスカウトで、制球力のあるできあがった選手より、まだまだだけどすごいスピードの球を投げるみたいな選手をスカウトするって聞いたことがありますが、そういう素質を持った人が造園業界にもいると思います。コントロールが悪ければ、それを修正していけばいいし、性格の悪さなんかも変えていくことができます。そういう人を一造会が見出だしていくようなこともできるのではないかと思います。

それと同時にまず自分たちが楽しくやっていないと、そういうことはできないし、だから竹嶋さんが言っていた「楽しくなければ造園じゃない」っていうところから、「造園楽し、一造会」なんていうキャッチフレーズが使われたりしていますが、これからの一造会に望むことと言えば、その辺を大事にしながら、「造園が楽しい、現場が楽しい」と、現場の人に誇りを持って欲しいですね。

■一造会の法人化について

法人化以前に、活動内容の充実と財務内容の充実、そして会員の結束だと思います。目標をバーンと掲げ

て、その活動体としての組織がしっかりしていることは大事です。でも、法人というのは器であって、中身がなければ意味がない。中身がないのに器だけっていうのでは、それこそ意味がないと思います。会社も同じだけど、身分相応が大事で、厳密にいうと法人か任意団体かというのは、中身とはまったく別の話なんだよね。服と一緒で中身のない人が過剰に立派な恰好だけしていても、正体が知られれば恥ずかしいことになるし、逆に中身があっても貧相過ぎるのは、印象が良くないですよね。身分相応で活動と財務内容に応じて、必要となった時に法人化すればいいことだと思います。法人化自体は難しいことじゃなく、いつでもできることだと思います。

■若手造園技術者への一言

前段が長くなってしまって、後半が駆け足ですが、最後の質問ですね。

「Don‘ t forget rose’s smell」

「常にバラの香りを忘れるな　いつでもどんな時でも　たとえ戦争の最中でも　人生は生きるに値する」というような詩があったと思うんだけど、そんな生きるに値する感動を与えるような仕事をできたら最高だなと思いますが、人生は生きるに値するってことを教えてくれるのが芸術で、それがなかったら芸術とは言えないと思っています。

フランスにエディット・ピアフっていうシャンソン歌手がいて、その人をテーマにした映画だったと思うんですが、子どもの頃に大変な生活をしてきて、それで有名になってもおんぼろのアパートに住んでいて、そこにプロデューサーが訪ねてきて、「もっといいところに住めばいいのに」と言うと、「私はここでいい、だって階段を下りてドア開けたらパリの街があるから」と答えました。これはすごいなって思いました。

ボロアパートに住んでも、この街に住みたいっていうまちづくりができたらこんなにすごいことってないと思います。でも、造園はそれを可能にする要素をいっぱい持っています。

一造会の事務局所在地にもなっている渋谷の造園会館は、公園通りに面していて、そこでは少し広めの歩道を使ってガーデンコンテストをしていますが、私からするととても残念なんです。なぜかというと、ガーデンというには狭いし、ディスプレイみたいに何かを並べたような感じになっていて、コンテストが終わっても撤去しません。１年中そのままです。それぞれが別々の作品だから、景観としてはバラバラです。

これがあるからここに住みたいとはならないと思います。道路って通行人が主役なんですよ。その空間を利用する人が快適で、その空間に価値があって、そういうものでまちができています。そういう空間を造園としてはつくりたいですね。

コンテストが悪いとも思わないし、浅草や丸の内でやっているのは、期間が限られて提案の場としているので、コンテスト終了後に撤去します。きれいに元に戻すならいいけれど、放っておくのはよくないと思っています。いろんな色の花がごちゃ混ぜになったプランターも飾られたりして華やかではありますが、スタイリッシュじゃないし、このまちに住みたいと思うようなまちにはほど遠いものになっています。

だから、造園が頑張らなきゃならない部分っていうのがいっぱいあるはずです。「人生は雪月花と酒と女で、人生にそれ以上大事なことはない、それ以外に生きていて何の価値があるか」って、ヨーロッパの詩人が言っていたけど、日本人も風流とか風情とかを大切にしてきた文化があって、私が新入社員の頃に、庭の手入れをやっていたら、職人の菊池さんが、「お前、それじゃだめだよ」って。

「ちゃんと剪定できていますよ。なんでダメなんですか」って聞いたら、「お前のやった剪定だと人は振り向かない」って。「上手な剪定っていうのは、女の人とすれ違った後に、ふと振り返るような、そういうものがないとプロの手入れにはならないんだよ。お前のはただ切っただけだ」って、言われました。こんな風に剪定ひとつ、突き詰めていくと奥が深いのが造園です。

こういう風情とか文化は奥が深くって、人間が存続していくためにとても必要なものです。

この文化を担っているのが造園で、生活土木という生活の用もなしている訳だから、私たちはそんなすごい仕事をしているんですよ。そういう夢と希望。この空間が好きだから、このまちが好きだから、ここに住んでいるって言われるようなまちをつくっていきたいし、それができる仕事なんです。そういう夢や希望をこれからの若手造園技術者に持ってもらえたら良いのではないかと思います。

これからの一造会の発展と会員の皆さんが夢と希望に向かって、進まれることを心から期待しています。

造園業における高所安全作業について

全国１級造園施工管理技士の会　教育訓練センター長
（一社）日本造園組合連合会　安全衛生委員会　森田 弘行

はじめに

近年、安全帯から墜落制止用器具へ変更されるなど、従来の方法や装備から国際的な規格に合わせようと変化が起きています。これらは高所作業での危険防止や、作業者の安全確保のために必要な措置であるといえます。

しかし、私たち造園業での高所作業というのは他の職種の高所作業と異なる部分があるため、仮に同じ対策を講じたとしても、必ずしもそれが安全なものであるとは限りません。

このようなことから、一造会・造園連では樹木に登り込んで作業する場合、墜落制止用器具の使用は推奨しておりません。

墜落した際の対策である墜落制止用器具（安全帯）を推し進めるのでなく、墜落しない様に安全に作業出来る対策を実施する事が必要ではないかと思います。

樹木に直接登って作業を行う必要がある際は作業者の安全を第一に考えたうえで、作業者と樹木にとってより良い安全な方法として「樹木作業におけるワークポジショニング」を優先したいと考えます。

今回の会報では、

1. 墜落制止用器具とはどのようなものか？
2. 造園業と他の職種の高所作業の違いとはなにか？
3. 造園業として行うべき安全対策
4. よくある質問と解説

ということをお伝えしたいと思います。私たちにとっての安全に作業を行うためにはどうすべきかを考え、実施するうえでのひとつの材料としてご参考ください。

造園業の死亡災害の６割が墜落・転落

安全帯（旧型）から墜落制止用器具に改正された背景は、墜落・転落による死亡災害は建設業全体の 4 割以上を占め、死亡災害は毎年 200 人以上、また休業 4 日以上労働災害は毎年 20,000 人以上で推移してきました。

また墜落災害では安全帯の不使用（95%）や

一造会の研修でロープワークを実演する森田弘行センター長

不適切な使用の方法（80%）も多くみられました。

造園業においても令和３年度の造園業死亡災害は 21 人で、このうち墜落・転落が 12 人となり、死亡災害の６割（57%）を占めています（造園連資料より）。

ここには、何か基本的な問題があると思われてなりません。

墜落した際の対策である墜落制止用器具（安全帯）を推し進めるのでなく、墜落しないように安全に作業できる対策を理解して、自らが実施することが必要ではないかと思います。

1. 墜落制止用器具とはどのようなものか？

安全帯（旧型）が墜落制止用器具に改正された背景

旧型安全帯は墜落制止時に内臓損傷や脊髄損傷、ベルトのずり上がりによる胸部圧迫、体が「くの字」に曲がり、逆さま姿勢になる、身体が抜け出して落下するおそれがあるなど、旧型安全帯に起因する死亡事故

も発生しています。

また、国際的には、安全性の観点から胴ベルト型のものは認められていません。

このようなことから、厚生労働省では国際基準のフォールアレストシステムを取り入れる検討が行われました。

ISO 規格(国際規格)や EN 規格(欧州規格)などでは、一般的な高所作業における安全確保技術が幾つかに分類されており、その中のひとつである「フォールアレストシステム」を取り入れ、安全帯から墜落制止用器具に変更されました。

墜落制止用器具とは、墜落した際に墜落を制止する機能を持つものです(≒フォールアレストシステム)。

フルハーネス型が原則ですが、これを着用した作業者が墜落して地面に到達するおそれがある場合(高さ 6.75 m以下)であれば、新規格の胴ベルト＋ 1 本吊りを使用することも可能となっています。

墜落制止用器具とは

①フルハーネス(フルボディハーネス)

身体に掛かる衝撃荷重を分散させて受け止めます。胸部または背部の D 環で接続されているため、墜落して宙づり状態になっても逆さま姿勢になるのを防ぎます。

②ランヤード(ショックアブソーバー付きランヤード)

フルハーネスと取付設備を連結し、墜落した際に地面に衝突するのを防ぎます。墜落を制止する時に生ずる衝撃を緩和するショックアブソーバー(エネルギーアブソーバー)付きのランヤードが必要です。

フルハーネスとランヤードの両方をワンセットで適切に使うことで「墜落制止用器具」としての機能を果たしますので、フルハーネスだけ着用する、ランヤードを胸部 / 背部以外に接続する等は危険に繋がります。

また、墜落制止時の衝撃荷重は作業者の身体だけでなく、ランヤードを取り付けた箇所にも掛かるため、それに十分に耐えうる堅固な場所に取り付けることが必要です。

堅固な取付設備とは

日本国内では、専用の取付金具(鉄骨の柱、梁等)溶接による取付けは全周溶接とし、11.5kN 以上の強度を確保できるもの(フルハーネス特別教育テキスト)とされています。

高所作業車の固縛(こばく)取付部は、引張り強さに達することなく、16kN の静荷重に耐えることができなくてはなりません(高所作業車 JIS 規格より)。

あるメーカーで販売されている H 鋼用フルハーネス取付金具の強度は 22.2kN 以上と明記されています(特殊墜落防止装置 H 鋼クランプ)。

欧州基準の EN 規格では、アンカー(支点)の強度は最低でも 12kN に耐えられるものとされています。

2. 造園業と他の職種の高所作業の違いとはなにか？

〈樹木での登り込み作業時に墜落制止用器具が推奨されない理由〉

一造会並びに造園連では、樹木に登り込んで作業する場合、墜落制止用器具の使用は推奨しないとしています。

その理由は、墜落した際、地面に衝突するのを防ぐためには衝撃荷重に耐えられる取付設備が必要です。

樹木で墜落制止用器具を使用するとしたら、木の幹や枝の股などにランヤードを取り付けるかもしれません。それらは墜落制止時の衝撃荷重に耐えられるものでしょうか。

幹や枝の形状はさまざまに異なります。外見から強度を判定することは容易ではありません。そのため万一の際、樹木が折れてしまう可能性も否定できないのではないかと考えます。

墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン(平成 30 年 6 月 22 日付け基発 0622 第 2 号)には、「墜落制止時の衝撃力に対し十分耐え得る堅固なものであること。取付設備の強度が判断できない場合には、フック等を取り付けないこと」とされています。

ガイドラインを踏まえたうえでも、自然物の樹木は構造物とは異なるため、ランヤードを取り付ける場所の強度保証が困難なため、樹木に登り込む作業では墜落制止用器具は推奨されないと考えます。

国際的な動向

ISO(国際標準化機構)においても、フォールアレストシステムは、樹木作業で行うことは適当でないとしています。

ISO10333-1　フォールアレストシステムにおいては、強度が確証されたアンカーにのみ接続(使用)が可能とされています。

ISO22846-1　ロープアクセスシステムにおいては

フォールアレストシステムを併用しますが、樹木作業（アボリカルチャー）での使用を目的としていません（樹木作業にはフォールアレストシステムは適当ではありません）。

このように国際的な動向を踏まえても、樹木には墜落制止用器具（フォールアレストシステム）が推奨されていません。

このことから、「私たち造園業での高所作業というのは他の職種の高所作業と異なる部分があるため、仮に同じ対策（墜落制止用器具）を講じたとしても、必ずしもそれが安全なものであるとは限りません」 としています。

これが一造会や造園連において樹木での登りこみ作業時に墜落制止用器具が推奨されない理由となります。

樹木に直接登って行う作業は他の職種の高所作業と異なる特殊な作業環境のため、「作業者と樹木にとってより良い安全な方法」を優先したいと考えています。

国際的には、「樹木作業におけるワークポジショニングシステム」が、樹木作業ではより良い安全な方法として採用されています。

3. 造園業として行うべき安全対策

労働安全衛生法では、それぞれの作業に合わせた危険防止措置を求めています。

……

労働安全衛生法　第 21 条

事業者は、掘削、採石、荷役、伐木等の業務における作業方法から生ずる危険を防止するため必要な措置を講じなければならない。

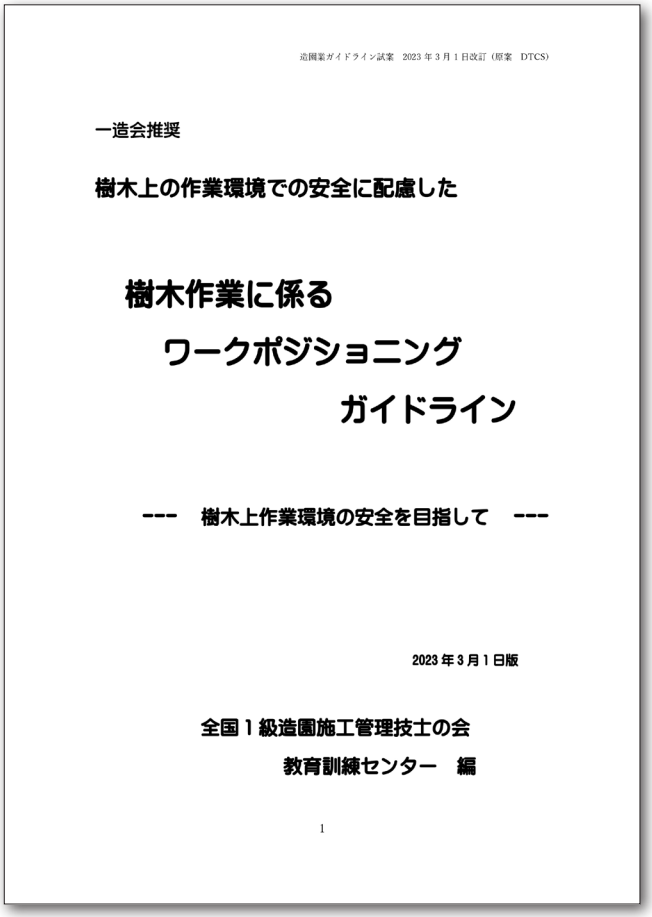
2　事業者は労働者が墜落するおそれのある場所、土砂等が崩壊するおそれのある場所等に係る危険を防止するため必要な措置を講じなければならない。

……

一造会・造園連においては、樹木での業務における作業方法から生ずる危険を防止するための必要な措置として「樹木作業に係るワークポジショニングのガイドライン」を発行し、作業者の安全を第一に考え、作業者と樹木にとってより良い安全な方法を推進しています。

これは一般的作業におけるワークポジショニングと同じ方法ではなく、樹木という特殊な作業環境を考慮したガイドラインとなっています。

造園業においては、樹木作業の専門家として立案された方法を参考に安全対策を講じていくことが大切であると考えています。


造園業ガイドライン試案　2023 年 3 月 1 日改訂（原案　DTCS）

一造会推奨

樹木上の作業環境での安全に配慮した

樹木作業に係る
ワークポジショニング
ガイドライン

---　樹木上作業環境の安全を目指して　---

2023 年 3 月 1 日版

全国 1 級造園施工管理技士の会
教育訓練センター　編

1

一樹木作業に係るワークポジショニングガイドライン

「樹木作業に係るワークポジショニングのガイドライン」の一部抜粋

第 1　趣旨

高さ 2 m以上の箇所で作業を行う場合には、作業床を設け、その作業床の端や開口部等には囲い、手すり、覆い等を設けて墜落自体を防止することが原則であるが、こうした措置が困難なときは、労働者に要求性能墜落制止用器具を使用させる等、墜落による労働者の危険を防止するための措置を講ずることが事業者に義務付けられている。

平成 28 年 1 月 1 日から施行された「ロープ高所作業における危険防止を図るための労働安全衛生規則の一部を改正」、平成 31 年 2 月 1 日から施行された「墜落による労働災害の防止を図るための労働安全衛生規則の一部を改正」と相まって、U 字つりで行うワークポジショニング作業における一層の安全対策の推進を図るため、重要なものを一体的に示すことを目的とし作成したものである。

事業者は、本ガイドラインに記載された事項を的確

に実施することに加え、より現場の実態に即した安全対策を講ずるよう努めるものとする。

第２　適用範囲

本ガイドラインは、ワークポジショニング用器具を使用して行う樹木に関する作業について適用する。

第４　作業システムの分類・選択

１　基本的な考え方

作業システムは、最も安全性の高いシステムを選択もしくは併用すること。木の股等の自然物をアンカーポイントとして使用する場合、強度保証が困難であるため自由落下距離を限りなくゼロにする（潜在的な墜落距離を抑える）システムが有効である。アンカーポイントに衝撃荷重が加わるシステムは原則として選択しない。

２　分類例

（別表）

一造会・造園連で皆さんにお伝えしていること

造園業における高所作業は、他の職種の高所作業とは異なる作業環境であることを理解することが大切です。

作業床として高所作業車等を使用し墜落自体を防止する方法で作業を行いましょう。

作業床等（高所作業車等）の措置が困難であり、樹木に登りこんで作業する場合、墜落制止用器具の使用は推奨されません。

樹木に登る際は樹木上の作業環境での安全に配慮した「樹木作業に係るワークポジショニングガイドライン」に則した作業の方法が安全性が高く、作業効率が良いと考えます。

より現場の実態に即した安全対策を講じて安全作業に努めましょう。

4.　良くある質問と解説

〈よくある質問　1〉

Ｑフルハーネスの着用が義務化されたため、フルハーネスの購入を検討していますが、造園業界でもフルハーネスが基準でしょうか？

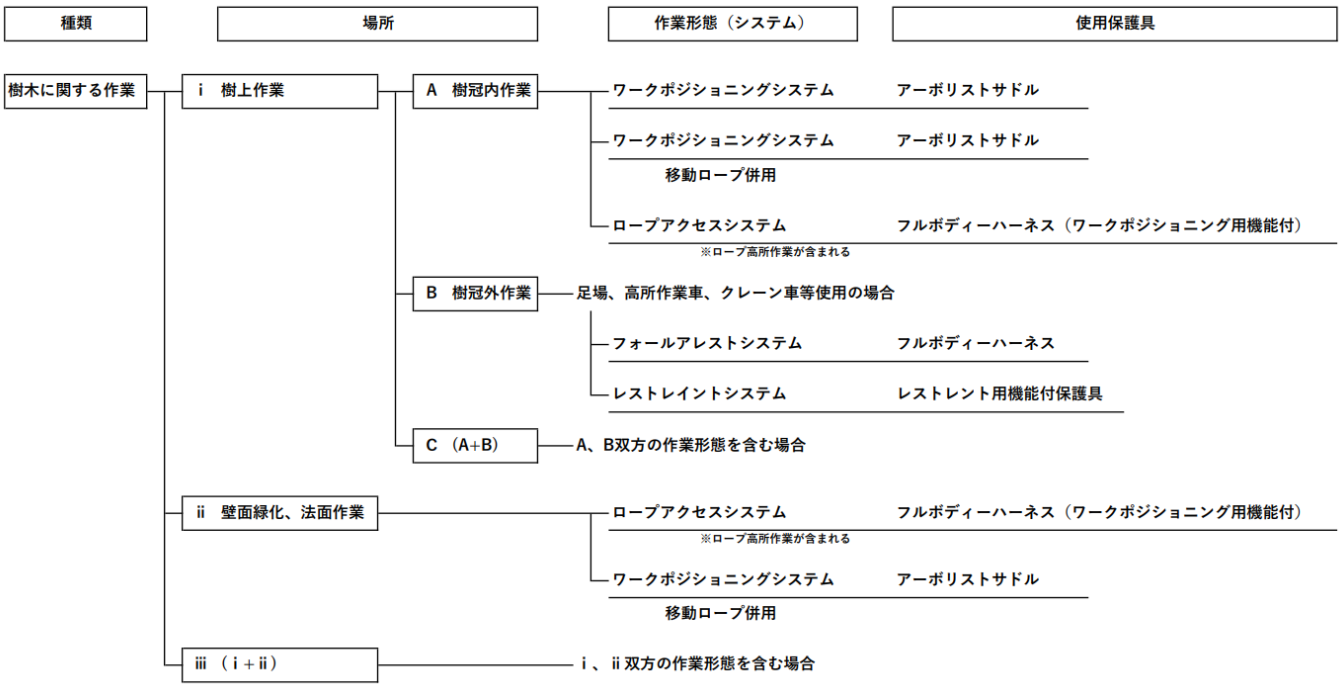
【解説】

通常フルハーネス（フルボディハーネス）が必要なのは、墜落制止用器具（フォールアレスト）の場合に必要になります。

フォールアレストシステムは､取付け部（アンカー）の強度が不明確である樹木では適用すべきではありません。また、墜落制止用器具（フォールアレストシステム）は高所から墜落した際の対策です。

高所での安全は、労働安全衛生法にも記載があるように、まずは落ちないように対策を行って作業することが必要です。

もし、樹木作業に係るワークポジショニングシステムなどの対策を行わない場合は、樹木に登ると落ちる可能性があるために、国内法では落ちた際の対策として、墜落制止用器具を使用することを義務付けています。



分類例

ロープワークを使った高木の剪定作業の様子

この対策はフルハーネス（フルボディハーネス）を用いた墜落制止用器具（フォールアレストシステム）と言うことになります。

ただし、国内法でも墜落制止用器具は、強度の不明な所には取付けないこととされています。

樹木の枝等は強度が明確ではありません。よってISOでも世界のアーボリスト達も、樹木ではフォールアレストシステムを使用していません。

樹木に直接登っての作業にフルハーネス（フルボディハーネス）を使用しない理由です。

国内では安全帯が墜落制止用器具に変わりました。安全帯は落ちた際の対策です。新規格の墜落制止用器具も落ちたときの対策です。

墜落制止用器具を使用する人は、フルハーネスにする必要があります。

高所作業では全ての作業でフルハーネスにするように法律が変わったと、誤った理解をしている方が多くいます。

まずは作業に合った適切で安全な方法で作業を行うことが必要です。

具体的に説明すると、適切で安全な方法で作業を行わない場合は、樹木には適さないけれどフルハーネスを使用した墜落制止用器具での作業を行うということになります。

〈よくある質問　2〉

Q「高さ２ｍ以上の箇所で作業する時は、全員フルハーネスを使用すること」と法律が改正され、義務付けられたのではないですか？

【解説】

2019年の法令改正に伴い、墜落制止用器具の使用義務の範囲が変更されたわけではありません。

これまで「安全帯」の使用を義務付けていた作業について、「安全帯」に代わり「要求性能墜落制止用器具」の使用が義務付けられることとなったのです。

（厚生労働省「墜落制止用器具に係る質疑応集」より）

労働基準監督署にも同上の多くの質問があるそうです。

労働基準監督署安全衛生課長の方が造園業界の安全講話で解説していただき、『どのような場合でもフルハーネスを使用する、ということではありません。作業の内容に合わせた墜落防止措置を行うことが必要です。造園連のホームページに、「樹木作業におけるワークポジショニング」という、造園専門のガイドラインが掲載されていました。皆さんもこれを参考に安全な作業を行ってください』と話されていました。

「樹木作業におけるワークポジショニングガイドライン」は、一造会HPにも掲載されています。

おわりに

以上のことから、造園業においては樹木という特殊な場所においては、適切で安全な作業方法を選択して作業を行うことが必要となります。

一造会会員の皆様だけでなく、樹木に関わる全ての皆様が安全に作業し、「造園楽し！」となることを願っています。

事業報告

日仏技術者交流

知られざるフランスの造園・ランドスケープを学び
現地の技術者と交流　歴史・人・文化の深淵に迫る

フランスの日本庭園でフランス人庭園管理者と交流する旅～腰道具必須です！

まず初めに、本海外研修を実施するにあたり、フランス地元自治体や関連諸団体との調整および移動手段や宿泊所の確保などにご協力いただいた欧州日本庭園協会会長ジャン＝ピエール・シャバッシュー氏と水眞洋子氏に感謝申し上げます。また､コロナ禍において、刻々と変化する社会情勢の中、懐深く開催に向けて理解を示してくださいました一造会関係者の皆様にも御礼を申し上げます。

さて、2021 年 5 月 28 日～ 6 月 5 日（7 泊 9 日）でフランスに技術者交流を目的に海外研修を実施しました。企画自体は新型コロナウィルス流行前からあったものの、社会情勢や補助金申請など様々に壁が多く実現が叶わなかったものでした。

この海外研修の目的のうち大きなものの一つは、欧州日本庭園協会設立会議に合わせて実施されるワークショップに参加することでした。欧州日本庭園協会会長ジャン＝ピエール・シャバッシュー氏、同協会の設立において多大な貢献をされた水眞洋子氏からの依頼によるものでした。

旅程は、ほぼ水眞氏によって調整していただきましたが、内容が濃く多くの学びを得ることができました。日本人の造園技術の特質とは何か、フランスの日本庭園を介して考えることができました。また、フランス人造園技術者とのワークショップでは、技術を言葉で表現することの重要性を確認させられました。フランスと日本の造園・ランドスケープにおける技術や考え方の違いやフランスの日本庭園や緑地・オープンスペースの特徴については、本会報とは別冊で特集を組んでおりますのでそちらをご参照ください。

また、12 月～ 3 月にかけて計 4 回に分けて本研修会のオンライン報告会を実施しました。改めて振り返りながら新しい気づきがありました。欧州日本庭園協会とは協定締結の運びとなり日本庭園を通じた日仏の交流が発展することを期待しています。

5 月 29 日 ベルサイユ宮殿（撮影：小杉 左岐 氏）

旅　程

5 月 28 日	日本・羽田発　フランス・CDG 着	パリ市内ホテル宿泊
5 月 29 日	ルーブル美術館－チュイルリー公園－エトワール凱旋門視察 ベルサイユ宮殿・大庭園視察	パリ→ベルサイユ ベルサイユ市内ホテル宿泊
5 月 30 日	ベルサイユ宮殿大庭園管理者 プチトリアノン庭園管理者 視察・技術交流 モレブリエ東洋公園ワークショップ打ち合わせ	ベルサイユ→モレブリエ モレブリエ コルベール城宿泊
5 月 31 日	欧州日本庭園協会設立ワークショップ 石庭の日仏共同作庭・透かし剪定ワークショップ	モレブリエ コルベール城宿泊
6 月 1 日	欧州日本庭園協会設立会議参加 ナント市植物園・ナント市内視察	モレブリエ→ナント→ショレ ショレ市内ホテル宿泊
6 月 2 日	ナント市街路樹のマツ剪定ワークショップ ナント・ベルサイユ島日本庭園管理ワークショップ	ショレ→ナント→パリ パリ市内ホテル宿泊
6 月 3 日	アルベルカーン庭園透かし剪定ワークショップ 緑の里現地検討会	パリ市内ホテル宿泊
6 月 4 日	自由行動 フランス・CDG 空港発　日本・羽田空港着	帰国

参加者

氏　　名	備　考
団長　石井　匡志	アゴラ造園㈱
Andreas Hamacher	小杉造園㈱
石井　隆真	石井造園㈱
今西　良共	岐阜県立国際園芸アカデミー
小杉　左岐	小杉造園㈱

関口　知昭	アゴラ造園㈱
曽根　将郎	㈱曽根造園
野上　一志	㈱野上緑化
藤井　英二郎	一造会顧問・千葉大学名誉教授
吉岡　賢人	㈱吉岡緑地

スタッフの皆様

氏　　名	備　考
水眞　洋子	欧州日本庭園協会
遠藤　浩子	庭園文化研究家、MCJP 日本庭園入門講座講師
秋田　典子	千葉大学園芸学部教授

欧州日本庭園ネットワーク設立会議に出席。元フランス首相ジャン＝マーク・エロー氏、伊原純一日本大使が出席。日本からも国土交通省湯浅氏、日本庭園研究者の鈴木誠先生らがオンライン参加した

ナント市内での日本庭園管理に関するワークショップ。見通しによる日本庭園の遠近感を出す手法を説明しながら、繁茂した笹刈りを実施

景石のワークショップ。主石の考え方、捉え方を説明。公園スタッフと日本からの造園技術者の共同作業で 1 石ずつ据える

（一造会幹事長、フランス研修団長　石井 匡志）

事業報告

第17回「一造会大賞」授賞式、受賞者発表会を開催

CLAと合同開催　大賞1作品、優秀賞2作品、特別賞3作品を表彰

CLA賞、一造会賞受賞者と金清ＣＬＡ会長（中央下）、南波一造会会長（中央上）で記念撮影

第17回「一造会大賞」授賞式・受賞者発表会は10月14日㈮、東京都港区高輪のビジョンセンター品川305会議室を配信会場にオンライン会議形式で開催した。

授賞式・受賞者発表会は第13回より、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会の「CLA賞」と合同で開催し、当日は狩谷達之CLA事務局長の総合司会で、CLA賞、一造会大賞の表彰式を行った。

発表会は、南波拓哉一造会会長が「本日、受賞される皆様方、誠におめでとうございます。また、惜しくも受賞されなかった方々におかれましては、来年もぜひご応募いただき、受賞されることを祈念しています。

2022年　第17回　一造会大賞

【一造会大賞（最優秀賞）】

地域との繋がりを目指した取り組みと施工にあたる課題対策と小さな工夫

武内 将司（㈱石勝エクステリア）

【優秀賞】

公園を中心に広がる地域連携　～町田薬師池公園四季彩の杜　西園～

額谷 悠夏、園田 理恵、林 康司、佐藤 寛恵、小林 ひかる、山下 得男

（㈱富士植木（NEST　Machida共同事業体代表企業））

富山県空港スポーツ緑地における障害者福祉の取り組み～公園が共生社会のまちづくりを担う～

長谷川　暁信、神田 津希、野上 一志（㈱野上緑化）

【特別賞】

国営公園内日本庭園改修工事における伝統技術の活用と環境配慮への取り組み

北村 優衣、大久保 導和、榔野 遼介、齋藤 桃、阿部 庸介（西武造園㈱）

浜離宮恩賜庭園における江戸時代の庭園景色復元に向けた修景整備工事

渡邊 美央、益野 洋一、山中 啓史、加藤 岳大、磯部 紗江（㈱富士植木）

吾妻の大自然で、一年間に及ぶ森林復旧作業

堀金 哲也、小川 雄一、杉村 泰、阿部 晃治、晝間 晴喜（㈱山梅）

藤井英二郎
「一造会大賞」選考委員長

篠沢　健太
「CLA 賞」選考委員長

「一造会大賞」は南波会長から受賞者に表彰状などが手渡された

一造会の応募については、首都圏からの応募が多く、今回それ以外では富山県からの応募にとどまりました。北国ではこうした施工をした、南の方ではこんな方法を取り入れたなど、地域に応じた施工・管理などもあると思いますので、そういったものが次回寄せられることを期待しています。また、CLA さんと合同での開催は今回で５回目となりますが、昨年の CLA 賞受賞発表を聞いてから、現地を見に行ったところ、発表を聞いていたのでとても参考になったとの話も聞き、合同で開催する意義はこうしたところにもあると思っています。今日もいろいろな発表が聞けると思います。設計者の方々の想いをお聞きし、施工・管理の現場に生かすことができたらと思っています」と、あいさつ。その後、一造会大賞の表彰式を実施。諸井泰

開会のあいさつをする南波拓哉会長

武内 将司氏（㈱石勝エクステリア）

額谷 悠夏氏（㈱富士植木）

長谷川　暁信氏（㈱野上緑化）

北村 優衣氏（西武造園㈱）

渡邊 美央氏、磯部 紗江氏（㈱富士植木）

堀金哲也氏（㈱山梅）

受賞者の発表画面

司技術部会長の進行で、受賞者に南波拓哉会長から賞状と盾、副賞などを授与。次いで CLA 賞の表彰式が行われ、両賞の受賞者で記念撮影を行った。

受賞者発表会は、CLA 賞の講評に始まり、選考委員長の篠沢健太工学院大学教授が講評を述べ、CLA 賞最優秀賞「大手町ビル　SKYLAB」について、 飯沼安裕氏､荒井拓州氏（㈱三菱地所設計）が発表した。

一造会大賞は、一造会大賞選考委員長の藤井英二郎千葉大学名誉教授が講評を行い（次頁、審査委員長総評参照)、応募者への御礼を述べた。

次いで、最優秀賞である「一造会大賞」を受賞した武内将司氏（㈱石勝エクステリア）が、受賞作「地域との繋がりを目指した取り組みと施工にあたる課題対策と小さな工夫」について、会場やオンライン参加者に向けて発表を行った。

その後、一造会大賞の優秀賞については、「公園を中心に広がる地域連携　～町田薬師池公園四季彩の杜西園～」額谷悠夏氏（㈱富士植木（NEST　Machida 共同事業体代表企業))、「富山県空港スポーツ緑地における障害者福祉の取り組み　～公園が共生社会のまちづくりを担う～」長谷川暁信氏（㈱野上緑化)、特別賞の「国営公園内日本庭園改修工事における伝統技術の活用と環境配慮への取り組み」北村優衣氏（西武造園㈱)、「浜離宮恩賜庭園における江戸時代の庭園景色復元に向けた修景整備工事」渡邊美央氏、磯部紗江氏（㈱富士植木）の発表が行われた。

休憩の後は、CLA 賞の優秀賞、特別賞の発表が行われ、最後に CLA 賞、一造会賞全体の質疑応答の後、閉会にあたり、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会（CLA）の金子隆行副会長があいさつ、終了となった。

閉会挨拶をする金子隆行 CLA 副会長

第 17 回「一造会大賞」講評

選考委員長総評

ハード・ソフト両面で快適性と美しさを具体化できる技術を

藤井 英二郎　（千葉大学名誉教授、一造会 顧問）

第17回一造会大賞に多くの方々が応募して下さり、ありがとうございました。選考は、東北支部と関西支部それぞれの審査委員の評価を集約した支部代表選考委員と本部選考委員７人の評価をもとに審議し、大賞１点、優秀賞２点、特別賞３点となりました。

大賞の「地域との繋がりを目指した取り組みと施工課題対策と工夫」は、民間企業の研修・宿泊施設の庭園設計・施工で流れ・池や植栽の構成・施工技術が高く評価されました。設計・施工一体が優れた空間整備に重要であることを再確認できました。

優秀賞の「公園を中心に広がる地域連携 - 町田薬師池公園四季彩の杜･西園」は地元の飲食･コンベンション運営企業と連携した指定管理における市民と連携したイベント運営が、「富山県空港スポーツ緑地における障害者福祉の取り組み」は障害者による緑地管理とイベント参加等によって緑地福祉を展開したことが、それぞれ高く評価されました。

特別賞の「国営公園内日本庭園改修工事における伝統技術活用と環境配慮」は庭園建築の荒木田土間や聚楽壁の再施工、竹繊維舗装等の施工管理が、「浜離宮恩賜庭園における江戸時代の庭園景色復元に向けた修景整備」は発掘や委員会での検討にもとづく植栽復元過程が、「吾妻の大自然で１年間に及ぶ森林復旧作業」は調査に基づく植栽基盤改良や苗木準備と環境順化等の着実な緑化技術が、それぞれ評価されました。

造園技術は形容詞やはやりのカタカナではなく具体的・客観的に説明しなければなりません。また、対象地の周囲に遮蔽して景観が改善できる事物があれば、敷地内で遮蔽する工夫をしなければなりません。

公園の指定管理が増え経営的判断も重要ではあるが、利用者の行動を読み解きながらハード・ソフト両面で快適性と美しさを具体化できる技術が求められます。

選考委員講評

日頃の成果を発信しましょう！

金子 隆行　（一造会 副会長・一造会大賞選考委員会副委員長、㈱ライフ計画事務所）

一造会大賞の各賞受賞者の皆さま、おめでとうございます。

選考会は９月９日㈮に藤井英二郎委員長（千葉大学名誉教授）以下昨年度と同様な選考委員で開催されました。

特に東北・北海道支部の石出支部長にもご出席いただき、色々とご意見等をいただきました。委員の方々からは「今年の応募作品はだいぶレベルが上がっている」とのお言葉をいただきました。また、施工現場と指定管理等の管理運営についての応募作品も多く出していただきました。

応募作品は 13 点で、選考会は２時間ほどで、会議室と web の併用で開催しました。

欠席の方が３名おられましたが、事前に評価をいただいており、出席の選考委員の方々ほぼ同じようなご意見だったため、比較的高得点の作品と選考委員が高得点をつけた作品に絞り込み、その中から最高点を大賞とさせていただきました。その他、僅差の作品を優秀賞、特別賞とさせていただきました。

昨年より、CLA 賞との合同表彰式・発表会に公益社団法人日本造園学会にご後援をいただいておりますが、造園学会の「技術報告集」が「ランドスケープ技術報告集」とスタイルを変えることとなりました。

委員会の審査はありますが、今までのような査読はなくなり、審査後はカラー版で学会ホームページに公開され、J-STAGE に登録され公開されます。投稿期間も年３回になりました。原稿は未発表のものとされていますが、その後の実施結果の加筆や進展が認められるものは投稿可能です。今回の対象者も含め、会員皆様是非ご検討ください。詳しくは学会ホームページをご覧ください。

「第２回　すてきな造園空間 施工管理技術 作品コンクール」をはじめ、色々な場面で皆様の活躍を発表する機会があります。今後も是非、日頃の成果を発信しましょう！

新しい価値創出、社会課題解決に向かう造園・ランドスケープにエールを送りたい

町田　誠（(一社）公園財団常務理事、
横浜市立大学大学院都市社会文化研究科客員教授）

一造会大賞、優秀賞、特別賞を受賞された 6 作品の皆様、受賞誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

受賞されたみなさまの個々の作品についてはコメント控えますが、キーワードを並べてみると、「クリエイティブなオペレーション」「社会福祉への向き合い方」「ミティゲーション－自然再生技術－」「風景復元－積極的な植物のコントロール－」「デジタルトランスフォーメーション」等が浮かび上がってくるように思います。

少々乱暴に纏めてしまうと「これまであまりやってこなかったことにチャレンジして、あるいはそれらをフィーチャリングして、新しい価値創出、社会課題解決に向かっていく」ということなのだと思います。そうしたことが社会のすべての分野に求められているというのが今の時代の読み方だ、ということなのではないかという問題提起です。

公園や庭園、緑を基調としたオープンスペースが果たしてきた機能は全方位的で、全ての世代、人々にとって等しく有用なものであると思います。しかし、社会はどんどん変わっていく。例えば公園という社会資本のメインユーザーを「お父（母）さん、公園行こうよ」と言われる世代までと仮定するなら、それらの世代の人口（実数）は 1975 年のピーク 7,300 万人から現在 4,800 万人に減少している。同期間に 65 歳以上の人口は 890 万人から 3,600 万人にも増加している。たった一つの「年齢階層別人口構成」の変化を見るだけでも、これだけ日本の経済社会は変化していて、まだしばらく変化は続きます。

少子高齢化という見慣れた言葉からでは感じられないリアリティをもって、これから私たちは何を為すべきか、ということを考えていかなくてはいけないと思っています。「これまでやってきたことじゃないこと」をもっと強く意識したり、本質的根源的（プリミティブ）な人間の欲求にもっと近づいていくことなど、色々なことに思いを巡らせて行きたいと思います。みんなで頑張っていきましょう。

年々資料の表現が向上、課題の検討経緯や対応策の選定理由なども整理した作品が多数に

石井 ちはる（(一社）ランドスケープコンサルタンツ
協会理事・技術委員長、㈱総合設計研究所）

第 17 回「一造会大賞」各賞を受賞された皆様、おめでとうございます。応募された皆様、ありがとうございました。

年々応募作品の傾向が多様化しており、今回は、公園再整備、団地環境整備、日本庭園改修、研修施設の庭園整備、斜面地保全、森林整備、DX 活用、参加型育成管理、公園等の管理運営というように多分野にわたる 13 作品の応募があり、その中でも管理運営に関する作品の割合が増えていることが特徴であるといえます。

受賞作品のうち、「地域との繋がりを目指した取り組みと施工にあたる課題対策と小さな工夫」は、奈良市の民間研修施設の植栽空間において、奈良らしさの表現と曲水、万葉植物、遺構といった知見に基づくデザインと施工を実施し、社会的動向であるグリーンインフラの導入やドローン技術による測量と竣工図作成など、総合力に優れた、まさに大賞にふさわしい作品でした。

その他、特に印象に残った作品は、優秀賞の「富山県空港スポーツ緑地における障害者福祉の取り組み」です。近年、障がい者が公園緑地の管理に関わることが注目されています。この作品が広く発信されることで、各地で障がい者や障がいを抱えた児童が活躍する場が増えることを期待しています。

経年で応募作品を拝見していますが、年々資料の表現が向上しており、今回は課題に対する検討経緯や対応策の選定理由などが整理された、わかりやすい作品が多く見られました。一方で、作品の対象範囲や応募者の役割などが不明であるなど、説明不足で惜しい作品もあり、次回に期待したいと思います。

一造会大賞の受賞者発表会は、(一社）ランドスケープコンサルタンツ協会の CLA 賞と合同で開催されます。幅広い分野の発表を聞くことができる貴重な機会ですので、ぜひ参考にしてください。

みなさんの職域、造園会社の社会的使命を もっと広く捉え、新しい分野へ

韓　圭希　（(公財）都市緑化機構嘱託、URBANICS 共同代表、釜山大学・鮮文大学客員教授）

受賞者のみなさま、おめでとうございます。

一造会大賞は 17 回目、私が審査に関わるのも 9 回目になりました。造園施工管理技士のみなさんの職域、造園会社の社会的使命をもっと広く捉えて積極的に新しい分野に関わっていただきたいという思いを抱きつつ審査や評価をしてきました。応募作にも造園会社の仕事とは思えないような作品や現場が毎年いくつか混じるようになりまして、嬉しく思います。

優秀賞となった「町田薬師池公園四季彩の杜 西園」、選外となりましたが「東京ポートシティ竹芝オフィスタワー」での役割を造園会社が果たすことができる、あるいは一造会の会員のみなさんがこういった取り組みをこなすことができるようになるなら、これは素晴らしいことではないでしょうか。

こういった思いとは別に、今回は「浜離宮恩賜庭園における江戸時代の庭園景色復元」に感心いたしました。庭園というものは長い歴史を経るなかで時代の価値観を反映して幾度も手を入れられて変貌していくものです。そんな中、こんにちの価値観とは相容れない作業もあったようですが有識者の方々をサポートしつつ竣工に辿り着いた様子がよく伝わってきました。実際に目にするのが楽しみです。

大賞となった奈良の研修施設は稀にみる力作かと思います。ぜひ見学したいものです。その他の応募資料も一造会のみなさんの実力の高さを再認識させていただきました。次回もより多くの応募、ご意見を頂ければと思っております。ありがとうございました。

造園技術者の視点、考え方に自信を持って、 ますますのご活躍を！

福成 敬三（一造会 フェロー、フォーサイト緑地環境研究所代表）

第 17 回一造会大賞、優秀賞、特別賞を受賞された皆様、本当におめでとうございます。そしてすばらしい作品を多数応募して下さった皆様に敬意を表します。

今回の作品群についても資料作成のレベルがさらに向上したかと思います。17 回目ということで、このような体裁にまとめていくことがいいのだというお手本や講評の蓄積が正に功を奏したのであろうと思います。逆にどれもが同じように見えてしまい、表現の個性が見えなくなっているかもなどと思わず過大な期待をしてしまうほどでした。

内容的にも評価に大きな差を付けるのは私にとっては困難でした。選考委員の皆様の講評等によって様々なコメントがなされていると思います。私は選考委員会でのエピソードをご披露したいと思います。一つは選外の作品についてもどこに問題があったのかをきちんとお伝えして行こうという方針が確定したことです。落選された方たちは、せっかく時間を割いて応募したのにという思いが残ると思いますし、一般的には落選の通知さえ届かない場合が多いかと思います。短いコメントに過ぎないかも知れませんが、こういうところがうまく説明できていなかったのか、また応募しよう、私も応募してみようという気持ちに繋がって下さればと思います。

また余談かも知れませんが、評価委員の方達は作品を大切に汲み取りながら様々な視点から見解を述べられるわけですが、今さらのお話しをさせていただきます。藤井委員長の造園に対する思い入れのすごいこと、応募された皆様に造園技術者の視点にもっと自信を持って仕事をしてほしいという気持ちがひしひしと伝わってくる委員会でした。

私事ですが、前回第 16 回の講評に選考委員を退任したいと書きながら再登場してしまいました。長年あまりの体調等の悪さにご迷惑をおかけしてはと考えたからなのですが、ひょっとしたらと自ら専門外来を訪ねたところ「重症」との診断で、治療器具を着け始めてから体調が少しずつ回復に向かっているので選考委員を受諾させていただきました。

もっともっと多くの地域からの エントリーをお待ちします

松本　朗（一造会 常任相談役、㈱富士植木 取締役）

第 17 回一造会大賞の選考を行わせていただきました。

ますます「図面通りに施工する」という事より「土地や風景のポテンシャルを活かす」というより造園的な作品や、時代を象徴するような「障害者福祉の

取り組み」など従来我々施工管理技士が求められてきた以外の要素がクローズアップされ、評価されるようになってきたと感じます。

自分が思うにより造園らしくなってきて、公共工事において造園のスタートが土木だった事を考えると、その差異がより顕著となっていると思います。

一方「造園土木」と言われる分野も大切で、この部分をおおろそかにしてしまってはいけません。その意味においても我々技術者がより多くの事を学び、社会に還元しなければなりません。

今回富山からのエントリーがありましたが、もっともっと多くの地域からのエントリーをお待ちします。

エントリー数も今回 13 件　まだまだ少ないです。

もっと自信をもってご自身の仕事をアピールしませんか？

「造園楽し！一造会！！」ますます造園を楽しみましょう。

大賞をはじめ、各種受賞作品とも“課題に対する取り組み”を評価

髙橋 正敏（一造会幹事 関西支部、関西造園土木㈱ 常務取締役）

第 17 回一造会大賞に応募された皆様、ありがとうございました。一造会大賞・優秀賞・特別賞を受賞された皆様、おめでとうございます。今回も関西支部から選考委員として審査に携わらせていただきました。

応募作品を評価基準に照らし合わせ、作品選考を行うのは毎回大変な作業で何度か読み返しながら、応募者された方の思いを推測しながら審査させて頂きました。

今回の一造会大賞、「地域との繋がりを目指した取り組みと施工にあたる課題対策と小さな工夫」は、3つのゾーンに分け、共通点としては、奈良らしさの演出と多数の人が関わるプロジェクトでのイメージの共有が課題ではなかったかと思います。

水系エリアは、完成形のイメージを共有するためにモックアップを作成されたことが重要なポイントであり、奈良時代の「曲水」の底石の見え方もモックアップを作成することで、完成形のイメージを視覚化された事での課題解決、多数の人が関わるプロジェクトになればなるほど考えられる共有に対するリスクを排除するための、イメージのすり合わせ等を行った事。奈良らしさを演出する事の思いが明確な分、課題に対しても妥協せず一つひとつ検討を重ね、最善の方法を検討され、施工中も、「曲水」の水量、管理道、流れ部の外部施設との遮断等、その他のエリアも細部まで臨機応変に対応されていたと思いました。

結果、大変困難な現場も目的を達成して完成させた事が、造園技術者としても高く評価された点だと思います。

その他の各種受賞作品も課題に対する取り組みが評価されたと思います。忙しい業務の中、応募いただいた皆様ほんとうにありがとうございました。

「こんなこともやってるの」「頑張っているなあ、楽しそうだな」という作品が増えることを期待

石出 慎一郎（一造会幹事 東北・北海道支部長、東洋緑化㈱ 代表取締役）

受賞された方々おめでとうございます。今回は 13 点の応募があり、内訳は造園工事 9 件、管理業務 2 件、その他 2 件のジャンルとなっていました。

本来は造園工事が多くて当たり前ですが、工事そのものが官庁民間含めて減少しており、特に地方は物件自体が無いというのが現状です。

逆に、造園業の領域は年々広がっており求められることも変わってきています。そんな実情を踏まえて、管理業務や、指定管理や PFI 事業、地域・社会貢献、街づくりなどの事例発表があると時代にマッチした造園の世界になると思います。

昨今の応募全体に感じることですが、1 作品の全体を説明する内容できれいに纏まってしまって特徴が見えてこない。もっと特筆する工夫や努力した内容に絞って深みのある発表なり、失敗したようなことも書くことで苦労が見えると思います。

今後は単に事例として発表するに留まらず、一造会・業界に示すもの、地方ならではのものや地道な活動など自社内だけでなく、おおいに陽の目を浴びさせて欲しいものです。

「こんなこともやってるの」、「頑張っているなあ、楽しそうだな」という作品が増えることを期待しています。

また、来春の都市緑化仙台フェアにもいらして日本一の街路樹もぜひ堪能してください。

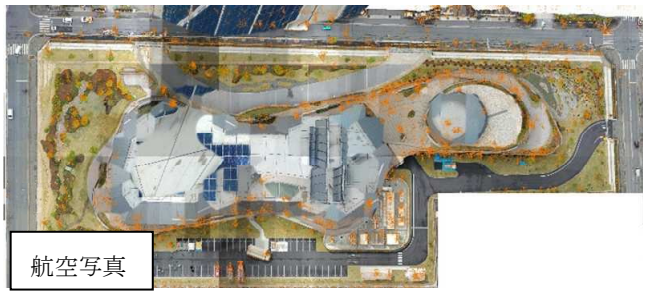
全国1級造園施工管理技士の会
一造会大賞
大賞

地域との繋がりを目指した取り組みと施工にあたる課題対策と小さな工夫

武内 将司（㈱石勝エクステリア）

1．工事概要

本工事は奈良県奈良市で計画された某企業の研修施設であり、人材育成の場および関連企業及び地域交流を目的とし宿泊施設も兼ねた施設である。当社は植栽計画の設計協力と植栽工事を請負い、施設利用者に高品質な庭園による癒し・休息を提供できる空間造りを目指した。工期の余裕がなく、建築及び外構工事業者と調整及び工夫を重ね工事を行った。


航空写真

2．　奈良らしさと繋がり

当施設の植栽計画として「奈良らしさ」を演出する為に万葉集に登場する植物「万葉植物」を使用し計画され、3つにゾーニングし計画を行った。①北側 水系エリア ②東側 エントランスエリア ③南側 万葉の森エリア

①　水系エリア

視点場からの目線の高さに滝口が見えるように配置し、滝口からは「曲水」と「ながれ」に分流し手前の池に落ちるように計画され、特に「曲水」は平城京内に残る日本庭園の祖とも言われる「東院庭園」の曲水を模して造り、底石のサイズ感や組み方はモックアップを作成し検討を重ね施工した。「曲水」は実際に曲水宴が可能な調整を行い、外周は住宅地遮蔽を目的とし高木を配植した。

モックアップ

曲水

遮蔽状況

池底から滝口のGLまで3ｍ程度高低差があり、滝口背面は急傾斜の為、景石を配置し地形の緩和を図った。

②　万葉の森エリア

建物内は食堂や休憩スペースが設けられ、そこから多くの人が観賞する空間である。　築山には高中木を配植し、デザイン性を担った目隠し植栽として配置を行った。また、単幹を2本以上組み合わせて株立ちに見せる配置をし、高額な樹木を使用しないで済むように、コスト面においても工夫を行った。また、1本辺りの樹木の重量や大きさを下げる事で中型の移動式クレーンでの施工や、0.12BH程度で施工できるので、施工性が上がり工期短縮にもつながった。

単幹の組合わせ

枯山水

3．奈良の土質

一部のエリアで樹木の生育不良が散見され枯死するものもあり、原因の調査を行った。長谷川式簡易透水試験を行い調査を行った結果、枯死箇所付近では不良の判定であった。土質の透水性が良すぎる為に保水性向上の改良を行ったが、一部のエリアで透水性が実際は悪い箇所が散見された。対策として高中木を高植になるように配植し直し、再配置した高木の周りも築山造形し高植をデザインの中に組み込む仕上げを行い、窪地では根鉢底に暗渠を設け排水改善を行った。

4．ドローンを用いた竣工図の作成

現地の雰囲気やニュアンス等により築山造形は現地で細部まで調整を行ったため、竣工図の作成において出来高測量の大きな労務が想定された。そのため、ドローンを用いて竣工図作成を行い変更修正を容易に行うことができた。

測量写真

測量図化

5．竣工を経て

施工を行っていると計画段階では想定しきれなかった地域特有の課題や問題点が散見される事がある。そういった問題や課題は多くの現場で日々発生し、各々がその問題に対し真摯に向き合って技術や知識が積み重なって今日の造園技術が成り立っている。不要な事は省略化し、品質向上の為に必要な「手間を掛ける」事を惜しまず、人々の感性に訴えかける事が造園の職能ではないのかと考える。　その結果、限られた予算・時間の中で地域や歴史、技術等、時代に順応した創意工夫を加えながら造園という職能を少しでも発展できたらと考える。

全国1級造園施工管理技士の会
一造会大賞
優秀賞

公園を中心に広がる地域連携　～町田薬師池公園四季彩の杜　西園～

額谷 悠夏、園田 理恵、林 康司、佐藤 寛恵、小林 ひかる、山下 得男（㈱富士植木（NEST　Machida 共同事業体代表企業））

1. はじめに

町田薬師池公園四季彩の杜西園（以下、西園）は、町田市北部にある四季彩の杜エリアの玄関口として、2020 年 4 月にオープンしました。四季彩の杜エリアには、薬師池公園・えびね苑・りす園など計 9 施設が点在しています。

当社が代表企業を務める NEST　Machida は、地元飲食企業とコンベンション運営企業の 3 社による共同事業体で、2020 年より西園の指定管理者を担っています。

2. 地域とつくるイベントの開催

初年度の 2020 年は新型コロナウィルス感染症拡大のため、地域へのアプローチが難しい状況でしたが、市民講師による講座がきっかけになり、地域を巻き込んだイベントの開催へ繋がっていきました。

2021 年の初め、市民と指定管理者が一緒につくる大型イベントを計画し、地元の農家、アトリエ主催者、大学、文化系財団、酒屋、地元店舗など計 6 団体が実行委員として参画しました。約 5 か月の準備期間を経て、2021 年 10 月 30 日～11 月 14 日でパークミュージアム 894（やくし）として、西園全体をミュージアムに見立てたイベントを開催しました。期間中の延べ来園者人数は、53,847 人。地域のことをよく知っていて西園が好きな実行委員の企画だったことで、西園らしいイベントになり盛況に終わりました。

3. 繋がっていく輪

これまでの取り組みを通して、今まで来園者としてお客様の立場だった市民の方がホスト側になって指定管理者と一緒に新しい来園者を迎える、そういった循環が定着し始めました。

2022 年、パークミュージアム 894 はパークフェスト 894 へ名称を変更して実行委員会を立ち上げ、2021 年度に関わっていただいた方に加え、新たに地域で活動されている方々が加わりました。また、地域に住んでいる大学生や主婦の方が畑のインターンとして活躍し、収穫体験イベントなどの開催が頻繁に行われています。更に、初年度から開催をしている市民講師の講座もほぼ毎日開催している状態になりました。2020 年 8 月、たった 3 つの講座から始まりましたが、2021 年では 268 講座、延べ 2358 人の方が参加されるまでになりました。

これまでに市民と開催したイベントの様子

4. 大切にしていること

私たちは西園のデザインやコンセプト、来園者ニーズを重視して維持管理運営をしてきました。

イベントの運営がスムーズにいくよう、景観にマッチした掲示板や案内板の整備やベンチやテーブルなどの配置、夜は暗くなるためライトの増設、普段立ち入り禁止の場所を休憩スペースとして開放するなどの取り組みを行っています。建物周りは雑木林と芝生の管理を重点的に行い、目を楽しませる花の補植を行っています。農園側は畑が広がる里山の四季折々の風景をつくるため、刈り残しや選択除草、ササ刈りなどを行っています。

四季折々の表情を魅せる西園

このように働いている指定管理者のスタッフが「西園らしさ」の心意気をもつことで、イベントの作り方や市民の巻き込み方が違っていきます。地域に親しまれる公園とは、遊びに来た方々が楽しむことも勿論ですが、地域が一緒になって空間を作り、管理者と一緒になってこの公園で楽しませたい・心地よい空間をつくりたいと思う気持ちを醸成することなのではないかと思います。

全国1級造園施工管理技士の会
一造会大賞
優秀賞

富山県空港スポーツ緑地における障害者福祉の取り組み ~公園が共生社会のまちづくりを担う~

長谷川 暁信、神田 津希、野上 一志（㈱野上緑化）

1. はじめに

弊社は平成21年度より、富山県空港スポーツ緑地の指定管理者として、「笑顔と活気を発信する地域のコミュニティステーション」をテーマに掲げ、公園や地域全体の活性化だけでなく、地域課題の解決に寄与できる活動を推進している。多様性や社会的弱者を尊重する社会的背景のもと、公共施設である公園が率先して、共生社会の構築を推進すべきだと考え、様々な取り組みを実践している。

2. 障害者就労支援

⑴障害者雇用の推進

公園維持管理作業員として、中度知的障害や発達障害を持つ2名を雇用している。当初はコミュニケーションの図り方、作業効率等で課題があった。そこで指揮命令者がジョブコーチ（企業在籍型職場適応援助者）の資格を取得し、作業の切り出し、適正配置を行うことで技能取得に繋げた。

視野が狭くなりがちな方は、芝刈では作業範囲が明確な場所を選定し、細かな作業を得意とする方には、剪定作業の補佐を行う等の役割分担を明確にしている。障害を持つ方と一緒に働くことで、他の作業員も障害理解を深めるとともに、作業工程の最適化や効率化を重視する意識改革の向上に繋がった。

⑵実習訓練と職場体験の提供

平成21年より就労継続支援Ｂ型事業所と協働し、週1回の除草や清掃等の軽作業を実施している。社会的自立や生活環境の改善を図ることが目的である。平成28年からは就労移行支援事業所と協働し、週1回の施設外実習（企業内訓練）を行っている。労働への意欲を高め、就労に必要な知識と技能の習得により一般就労を目指している。

⑶トイレ清掃の業務委託

平成31年より就労継続支援 Ａ 型･Ｂ 型事業所にトイレ清掃を委託し、就労の場を提供している。清掃マニュアルは障害特性に配慮したものとし、業務の実効性を確保している。

3. 園芸福祉と地域コミュニティの創出

平成30年より生活介護･就労継続支援 Ｂ 型事業所と協働で花壇管理を行い、会話や笑顔の絶えない活動を目指している。綺麗な花や感触を楽しめる葉、匂いのする草花等は、コミュニケーションを苦手とする方との会話の糸口になり、また園内の活動が、来園する地域住民との交流の機会を創出している。

4. イベント事業を介した障害児支援

公園内の夏まつりイベントを平成30年より障害児通所支援事業所と協働して実施しており、児童が接客や料金徴収等の就労を体験するとともに、地域住民との交流を図っている。

令和元年より県内の障害児通所支援事業所と連携し、普通学級では実施困難な障害や特性に配慮した運動会を開催している。議員や大学教員、支援者等で構成した実行委員会（事務局は公園管理事務所）で運営し、児童の健全な育成と地域の幅広い支援体制の構築を目指している。

5. インクルーシブパークへの取り組み

障害の有無や年齢等を問わず誰もが一緒に遊べるインクルーシブ遊具の導入が、全国的に推進されている。弊社の提案がきっかけとなり、令和3年に富山県が遊具の試行設置を実施した。県民のニーズや安全性等の把握、導入に向けた検証を行い、令和4年の本格的な設置が決定した。地域住民や教育福祉関係者からは、公園からインクルーシブ教育の概念が普及することや多様な児童の交流が発展することを期待されている。

6. 都市公園と障害者福祉の可能性

近年、全国各地で農福連携を推進しているが、「公園×障害者福祉」や「造園業×障害者福祉」の取り組みは事例が少ない。公園の価値を高め、今後の新しい連携手法として、全国的な展開を期待したい。

共生社会の実現に向け、障害者と健常者との垣根をなくさなくてはならない。ただ公園施設のバリアフリー化等によるアクセシビリティの改善だけでは、その実現は難しい。施設だけが先行するのではなく、全ての方が相互理解を深め、積極的に支えあう「心のバリアフリー」が伴ってこそ、真のインクルーシブパークになると考えている。

全国1級造園施工管理技士の会
一造会大賞
特別賞

国営公園内日本庭園改修工事における伝統技術の活用と環境配慮への取り組み

北村 優衣、大久保 導和、梛野 遼介、齋藤 桃、阿部 庸介（西武造園㈱）

1．工事概要

国営昭和記念公園は、東京都立川市・昭島市に位置する国営公園である。1997 年に開園した日本庭園では、日本の自然観を凝縮させた池泉回遊式庭園と日本建築建築が楽しめる。一方、開園から年月が経ち施設の老朽化が進んでおり、本工事にて日本庭園の数寄屋建築「歓楓亭」と盆栽展示施設「盆栽苑」の改修を行った。

本工事は日本庭園の工事ということを意識し、伝統技術を活用した庭園と調和した施工、および公園施設や利用者への影響を最小限に抑える施工を目指した。

2．左官技術の活用

①荒木田土間舗装（盆栽苑、讃樹亭）

荒木田土間は「土」「消石灰」「にがり」の 3 種の自然素材を原料とした伝統的な三和土（たたき）土間である。

伝統工法の再現と既存建築の保存のため人力施工を行った。また撤去材を下地に再利用することで廃棄による環境負荷とコスト低減をはかった。敷均した材料を木の板を用いて人力にて叩いて締固め、金鏝で灰汁を出し、左官仕上げにて表面を滑らかに仕上げた。

自然材料で十分な品質を確保するため、試験施工を行い配合・施工方法を工夫することで品質向上をはかった。乾燥収縮の抑制のため山砂とビリ砂利を混ぜ込み、既設部との活着向上にラス網を敷設した。

②聚楽土壁（歓楓亭）

主原料の聚楽土は希少土であり、撤去材を下塗り材として再利用し採掘・廃棄による環境負荷とコストを低減した。

土壁は自然材料のみで仕上げるため、施工・養生時の乾燥に注意し品質管理に努めた。公園管理者の協力を得て、施工後 2 週間はエアコンの使用を停止、その後も最小限の使用とすることで、十分な養生期間と品質が確保できた。

③竹繊維舗装

人力施工で一日の施工量が想定しにいため、小袋で搬入し使用する必要量だけを撹拌した。その結果、余剰材料が硬化し無駄になることがなく廃棄物削減につながった。

3．現場環境・周辺景観を意識した施工

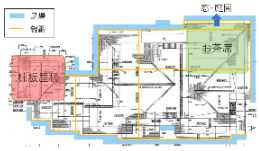
①安全対策

屋根作業時の安全対策として足場に親綱を張り、建物を傷めずに墜落制止用器具を使用できるよう工夫した。また冬季は凍結で屋根の上が滑りやすいため、毎朝注意喚起を行い、凍結する時間帯は屋根には登らず足場の上から作業を行うことで転倒・転落事故防止に努めた。

②環境・景観への配慮

当初計画では建物の外周に全工事期間中足場を設置する予定だったが、複数回に分けて足場組立を行い、足場設置期間を短縮した。また庭園への影響を配慮し石段・景石等の付近は避けて施工した。

また公園管理者からお茶席の眺望を確保したいという要望があった。そこで工程を調整しお茶席付近の足場作業を集中して行い、足場設置期間 75 日間のうち、お茶席前の設置期間を 17 日に短縮した。



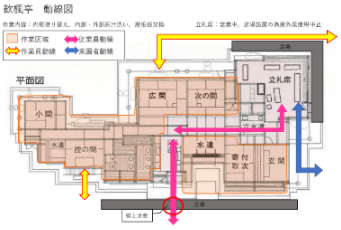
4．公園利用者・管理者に対する配慮

①環境調査（設計照査）

本工事の設計図面は建築当初（25 年前）のものを利用しており、現況が十分反映されていなかった。着手前に現況調査を実施し、設備等の仕様・形状を図面に落とす事で、設計者、監理者との打ち合わせを円滑に進めるとともに、施工時の手待ち、手戻りを防止することができた。

②搬出入・公園関係者動線の分離

歓楓亭は公園管理者の出入りが多く、工事作業員と公園管理者・利用者の接触事故を防ぐため作業動線の分離を計画した。また、お茶席の営業中は館内の公園管理者の通行が多くなるため、公園管理者の動線となるエントランス・廊下部分の施工を先行して行うことで、公園管理者動線と作業区域の分離を図った。



全国1級造園施工管理技士の会
一造会大賞
特別賞

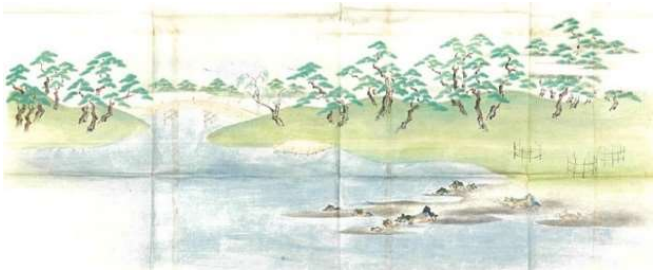
浜離宮恩賜庭園における江戸時代の庭園景色復元に向けた修景整備工事

渡邊 美央、益野 洋一、山中 啓史、加藤 岳大、磯部 紗江（㈱富士植木）

1．はじめに

本工事は、浜離宮恩賜庭園において庭園の見所である「大泉水」周辺の修景整備工事である。本庭園の歴史は古く 18 世紀初頭 11 代将軍家斉の時代に完成したと言われている。幾度の災害により建造物等が損傷したが、近年の復元工事によって当時の景色を再現する試みが行われている。

本工事は、これら復元工事の一環として当時の資料等を基に行われた。有識者の先生方や中央区教育委員会の方にもご指導いただき、樹種の選択、樹木の配置、形状等の協議を行いながら植栽の復元工事を進めた。本庭園は特別史跡・特別名勝であることから、施工条件として ①20cm 以上の掘削の際には遺構調査が必要であること。②景観や来場者に配慮した施工方法であること。以上を留意して作業を進めなければならなかった。



参考絵図「浜御庭図（模写）」1842 年 狩野雅信(模写)

2．伐採工

資料によると、江戸時代の景色は、芝とマツが主体であった。現在は、明治～大正にかけて植えられたスダジイ、タブノキ、モミジ等が混在している。伐採するにあたり、事前に現地で有識者の先生方からご意見を伺い、園路からの眺望を妨げる樹木や建造物を阻害している樹木について協議を重ね、伐採木を決定した。

有識者の方との現地確認状況

山の稜線を阻害するハゼノキ

→　伐採後、山の姿を確認できる

3．植栽工

3-1 遺構調査

前述の通り、20cm 以上の掘削の際は事前に遺構調査が必要であった。高木 1 本につき深さ 75cm、幅口140cm の植穴掘削する設計であり、スコップや移植ゴテ等を用いて慎重に掘り進めた。遺物が発掘された際は、随時中央区教育委員会に報告し、保存の場合は植穴をずらして拡張掘削する必要があった。調査の結果、御茶屋周辺で多くの遺物が発掘され、陶器や排水路のような遺構も確認された。また、近年の復元工事の際に盛土した荒木田土の層も確認できた。(参照写真 1)

参照写真 1　御茶屋周辺の遺構

中央区教育委員会による確認状況

3-2 材料・植付け

伐採と同様に植付けの配置や樹木の形状についても有識者の先生方のご意見を参考に協議を重ねた。特にウメについては設計者の強い要望があり、①小ぶり②年始頃に花が咲く③芳香がある、という条件であった。関東圏内で探した結果、寒紅梅(赤)、冬至梅(白)、緑がく梅(白・枝垂れ)の 3 品種に決定した。植付けの際には、発注者・設計者立会のもと、樹木の向きや傾きを確認しながら植付けを行った。

植付け状況

4．景観や来場者に配慮した工夫

本工事は約 1 年という長期間であったため、施工中のバリケードにはよしずで目隠しをし、イメージアップ効果として工事で出た廃材等を使い日本の結び文化を紹介する飾りを作成した。

全国1級造園施工管理技士の会
一造会大賞
特別賞

吾妻の大自然で、一年間に及ぶ森林復旧作業

堀金 哲也、小川 雄一、杉村 泰、阿部 晃治、畫間 晴喜（㈱山梅）

１．はじめに（工事概要）

当工事では、八ッ場ダム建設に伴い、建設に必要な砕石資材調達のために切り崩された山間部（標高約 900m、面積約 12,000m2）に森林復旧を行う工事である。ダム建設直後、一度、植樹されたものの、そのほとんどが衰弱・枯死していたことから、国土交通省より相談があり施工に至った。原因究明から設計施工を、発注者と検討を重ね、一年間に及ぶ復旧作業となった。

２．原因調査究明

（１）施工当初の状況

当初植樹された樹種はコナラ・ミズナラの 2 種で、規格は樹高 1.0m、数は約 3,000 本。施工は 10～11 月の秋季で、材料の大半は温暖地域から集められていた。

（２）植生環境調査（植生管理士）

（一社）日本植木協会の植生調査委員会協力のもと、植生管理士の資格保有者とともに現場調査を実施。枯死木の発根状況からは、大部分が根付く前に枯死したと推測された。温暖地域で生育した苗を休眠に入る前に寒冷地に植樹した為、越冬できず枯死したと考えられる。また、越冬できたものも、衰弱状態であった。

（３）植栽基盤調査（植栽基盤診断士）

植栽基盤調査を行ったところ、土性は埴土であるが、地中には固結層（軟岩層）が確認され、現場透水試験結果は「不良」であった。排水不良による根腐れなどが生育に支障をきたしたことが考えられた。

（４）　動物調査

苗木は、複数個体で枝が途中で千切られたような跡があり、シカによる食害を疑った。森林管理署が行った動物調査を確認したところ、シカの生息が確認できた。

３．再整備方法の検討

（１）　施工時期の検討と苗木の材料調達方法

施工時期は 4～6 月の春季に行うことが良いと判断した。苗の数は約 3,000 本と大量で、温暖地域からの収集も必要であった為、現場環境に近い圃場（長野県安曇野市）を定め、施工 1 ヶ月前には圃場に集め、類似環境に慣れさせる対策をとった。

（２）　モックアップによる植栽基盤改良の検証

現場採取土と各種改良資材の配合比率を変え、12 検体を用意して透水性改良を検証。結果、現場土に対し、黒曜石パーライトを 10%、バーク堆肥を 10%ずつ混ぜる案が、コスト・工期の点も、適していると判断した。また、現場地中には軟岩層があり、浸透した地下水の排水確保の為、暗渠排水管の設置を検討した。

（３）　シカの食害対策

シカの食害から苗木を守る為、害獣侵入防止柵の設置検討をした。柵の形状や材質も考慮し、安価で使用後の処分が容易な樹脂ネットも検討したが、シカの角が絡まり、死に至らせる可能性もあった為、材料コストはかかるものの、亜鉛メッキ製のものを採用した。

４．施工

（１）土壌改良

土壌改良をより均一に確実なものとするため、現場に 10m 四方の四角を描き、100m2 毎に改良材を量って施工した。検討した暗渠排水管についても全体に行き渡るよう敷設した。品質管理として、施工前後で土壌断面が均一に攪拌されているかの目視確認、施工後の透水試験により、透水性の改良結果の確認を実施しながら施工した。

（２）植樹

コナラ・ミズナラを主に採用したが、今後の継続した森林復旧の為、その他 13 種の苗木を試験施工として植樹。今後の生育を確認し、この地に適した樹種を見定められるように行った。

（３）害獣侵入防止柵

植栽範囲全体を囲うように、亜鉛メッキ製の侵入防止柵を施工した。柵は 2mの高さとするほか、地上部を折り返し、地中からの侵入防止も行った。

さいごに

植樹完了後、現在は国土交通省にて維持管理を行っている。夏季をはさむ為、潅水は念入りに行ってもらい、約半年経過した現在も順調に生育をしている。

第2回「すてきな造園空間コンクール」応募24作品

「いぶし瓦を用いたエントランス前庭」が金賞を受賞

受賞者と近江選考委員長、南波会長らで記念撮影

第２回「すてきな造園空間施工管理技術作品コンクール」（すてきな造園空間コンクール）は、2022年11月16日の選考委員会の結果、応募24作品から別表の通り、8作品を入賞作として選考し、12月2日に東京・渋谷の東郷記念館で表彰式を開催した。

多くの造園技術者が日々活躍されている中で「すてきな造園空間コンクール」は令和３年度に創設。「一造会大賞」には応募しにくい方や内容であっても、優れた技術や創意工夫を発揮して仕事をした造園技術者をもっと取り上げて欲しいと提唱されて、基金の提供を申し出られ、自らもかつては㈱富士植木で造園技術者として活躍された㈱CSS技術開発の創業者・元社長の高城雄三氏の協力、一造会の主催で実施しているものである。

具体的な目的は、以下の３点である。

（1）一造会会員がその施工技術を発揮して創造したすてきな造園空間、手入れ等により育成し完成した美しいみどりの空間、創意工夫による管理運営でより魅力的になった公園緑地など、一造会会員が施工や管理に携わりエンドユーザーにとって価値が向上した造園空間を発見し、その功績や努力を称え、認めること。

（2）一造会会員が当コンクールの作品成果を共有したうえで、「おさまり」や「出来栄え」をさらに意識して新たな造園の仕事に取り組むこと。

（3）一造会会員が取り組んだ造園としてのすばらしい仕事を広く社会に発信すること。

作品の募集にあたっては、“すてきな造園空間の発見”をテーマに、一造会会員が携わった造園工事、公園緑地等の管理運営において、その技術を発揮して作ったおさまりのよい現場や苦労して作り上げた現場、出来栄えのよい現場、創意工夫により価値を向上させた造園空間など、自分が携わった仕事をわかりやすく写真に撮り、解説文、アピール文とともに応募していただくこととした。

この結果、8月1日から10月14日までの募集期間中に、24作品の応募があり 、一造会ホームページ上でのオンラインによる「いいね！投票」を実施。選考委員会では、こうした投票も勘案し、選考を行い今回の結果となった。

また、受賞者の表彰や発表についても、賞の目的か

2022年　第2回　すてきな造園空間 施工管理技術　作品コンクール

【金賞】

いぶし瓦を用いたエントランス前庭（区分：造園工事）

諸井 泰司、伊藤 隆之（㈱アティ）

【銀賞】

氷川神社直会殿（なおらいでん）広場工事（区分：造園工事）

鈴木 きみ、保永 博文、藤本 健夫（箱根植木㈱）

地元で生産された花「サンパチェンス」を使った水上花壇による涼空間の創造（区分：みどり・公園管理）

松浦 強、橋本 理（㈱富士植木）

【銅賞】

地域の原風景である雑木林の再生と継承を目指した公園整備工事（区分：造園工事）

宮原 一道、矢島 大士、栗田 啓介（西武造園㈱）

新川崎駅周辺の屋上広場改修 ～人工芝を用いた改修で素敵な憩いの場に～（区分：造園工事）

根布屋 辰之助、三村 佑美佳、綱島 文彦、川﨑 純一、田島 凪朝（㈱石勝エクステリア）

奥行きを意識した和の庭（区分：造園工事）

波多 主税、出島 森央、上野 澪、齋藤 奈那（アゴラ造園㈱）

【特別賞】

地域のサクラを残すために（区分：造園工事）

西上 陽子、故・西泉 重宏（㈱西泉）、山本 浩陽（㈲山本造園）

【奨励賞】

夏に咲くスキー場（区分：造園工事）

西 芳幸、山本 裕美、中平 貴晴（林業笠原造園㈱）

ら、できるだけ多くの方にお聞きいただきたかったものの新型コロナウイルスの感染防止のため、一造会の顧問、相談役、フェローの方々をはじめ、一造会幹事・監事の集う事業報告会に合わせて、12月2日に表彰式を開催し、南波拓哉会長から受賞者に楯と副賞を授与。選考委員長の近江慶光千葉大学助教よりご講評をいただいた。

なお第3回コンクールはスケジュールを変更し、来年1月から3月までを作品募集期間とします。今まで通り「いいね！投票」などを行い、選考委員会は来年6月、表彰式は続いて7月に行います。1級造園施工管理技士としての技術や現場での苦労、創意工夫をよりわかりやすく伝えていただくために、応募作品フォームの写真1には自分が作り上げた造園空間のアピールしたい箇所を含む「仕上がり全景の写真」を、写真2には「施工前の写真」、もしくは写真1のすてきな造園空間を作り上げるために取り組んだ技術や苦労、工夫等がわかる「施工中の写真」を、写真3と4には写真2と同様に技術や苦労、工夫等がわかる「施工中の写真」を貼り付けてご応募ください。入賞された場合はもちろん、作品を応募されるだけでも造園CPDの単位を取得できます。第3回からは金賞、銀賞、銅賞に入選された方にはいくつかの選択肢からご希望の副賞をひとつお選びいただけるようにしたいと思います。

選考委員長・近江慶光千葉大学助教からご講評をいただいた

全国の一造会正会員の皆様、自分の仕事を写真に撮り、作品としてまとめ、奮ってご応募ください。またこの応募を機に1級造園施工管理技士の方が新たに一造会正会員に入会されることも大歓迎です。

金賞：諸井泰司氏、伊藤隆之氏（㈱アティ）
賞金５万円と副賞（ビール１年分）を贈呈

銀賞：鈴木きみ氏ほか代理・藤本氏（箱根植木㈱）
賞金３万円と副賞（お米１年分）を贈呈

銀賞：松浦強氏（㈱富士植木）
賞金３万円と副賞（お米１年分）を贈呈

銅賞：宮原一道氏、矢島大士氏（西武造園㈱）
賞金１万円と副賞（日本茶１年分）を贈呈

銅賞：根布屋辰之助氏、三村 佑美佳氏
（㈱石勝エクステリア）
賞金１万円と副賞（日本茶１年分）を贈呈

銅賞：波多主税氏、上野澪氏
（アゴラ造園㈱）
賞金１万円と副賞（日本茶１年分）を贈呈

特別賞：西上 陽子氏（㈱西泉）
山本浩陽氏（㈲山本造園）
賞金５千円を贈呈

受賞者による概要説明の様子（諸井泰司氏）

表彰式の様子

第２回「すてきな造園空間コンクール」講評

金賞、銀賞について

選考委員長
近江 慶光
（千葉大学 助教）

【金　賞】
いぶし瓦を用いたエントランス前庭

今回の作品コンクールは、前回にも増して委員の評点が割れ、選考が難航した。どの作品も美しく、また技術提案もわかりやすく、素晴らしいものばかりであったが、その中でも本作品は、全ての委員から技術的工夫、出来栄えの美しさが高く評価され、金賞とされた。

西新井大師に近く景観形成基準が定められている地域での施工ということで、その難しさは想像できるところですが、さらに団地のエントランスということで制約の多い中、様々な工夫がみられた。

特に本作品のタイトルともなっている「いぶし瓦」は施工時に特注で発注されたものであり、本作品の構成上、景観上重要な要素となっており、色合い・質感に対するこだわり・工夫がわかる。

また設計段階では 5mm となっていた門柱目地の幅を 15mm と変更するなど、施工段階での工夫もみられ、門柱・ベンチ、園路舗装の統一感がはかられ、さらに色彩的に建物や周辺施設とも調和のとれた美しい景観となっている。

こうした技術的工夫、作品の美しさが委員に高く評価され、金賞となった。

【銀　賞】
氷川神社直会殿（なおらいでん）広場工事

本作品は、隣接する式場の解体にともない、新たな会食施設とイベント対応の広場を神社内に整備したものである。当該地域の原風景である里山の明るい雑木林をイメージして、この地域の代表的植生であるクヌギーコナラ群集を基本に設計されている。

施工にあたっては、神社や川越の街並みになじむ樹種選定、記憶や思いを継承する様に配慮した移植工事をはじめ、雨落ち水や表面排水・透水処理などと植栽との関係性など、様々な技術的工夫が高く評価された。

さらに建物脇へのシンボルツリーの設置や既存の大径木の移植時に環状剥皮を実施、さらに建物と広場の間の遮蔽植栽は築山状の植栽地に高さや品種の異なる中低木をランダムに配置し有機的な境界を演出するなど、様々な工夫がみられる。また、今後、植物の生長にともない益々美しい景観となることが予見された。

以上、様々な技術的工夫が高く評価され、銀賞とされた。

【銀　賞】
地元で生産された花「サンパチェンス」を使った水上花壇による涼空間の創造

サンパチェンスは近年開発された品種であり、花色が豊富で、開花期が長く、過酷な環境にも耐えうるもので、本作品の水上花壇の設置にあたり、その特性がよく活かされている。

水上花壇も北アルプスからの天然水を引き込めるという立地を活かしたものであり、花壇への灌水を水の演出として涼しげな空間を創りだすことが出来る様に花壇の形状、灌水方法を検討しているなど、技術的工夫が随所にみられる。

デッキ部分を視点場として、そこからの俯瞰を来園者の撮影スポットとし「SNS 映え」を狙った花の配色や花壇を構成する単管パイプの構造の工夫など、利用者の満足度の高い施工となっている。

以上の技術的工夫が高く評価されたが、さらに、花苗についても地元で生産したものをバックヤードで２ヶ月間養生し、水上花壇に定植時に緩効性肥料を与えるなど、管理面でもシステムが確立しており、継続性の面でも高く評価され、銀賞とされた。

銅賞について

選考委員
金澤 弓子
（東京農業大学 准教授）

【銅　賞】

地域の原風景である雑木林の再生と継承を目指した公園整備工事

本作品は、長年積極的な利用がされてこなかった場所を、既存の樹木等を資源として活用し、希少な植物種を保護しながら地域の原風景として再生するとともに、新たな空間を創出するという、地域の将来像を意識しながら、自然を生かし、人々が利用しやすい空間を実現した技術が評価されました。

空間づくりの目標設定は、写真やアピール文からもわかりやすく示されており、現場の状況に合わせた発生材や間伐材の利用、適切な間伐間隔の検討等が造園施工管理技術の観点から高く評価され、今回の銅賞受賞となりました。

【銅　賞】

新川崎駅周辺の屋上広場改修 ～人工芝を用いた改修で素敵な憩いの場に～

本作品は植栽が難しい屋上広場という現場条件の中で、人々の望ましい憩いの場をいかに創出するかという課題に対し、人工芝の活用を工夫することで、造園施工管理技術を発揮した意欲作として高く評価されました。

また、本作品は、作品紹介の施工前後の空間改修の様子から、本コンクールのテーマである「すてきな造園空間」として、利用者に必要とされる満足度の高い空間へと変化し、その場の雰囲気が心地よいものに改善されたことがわかりやすく示されており、今回の銅賞の評価となりました。

【銅　賞】

奥行きを意識した和の庭

本作品は、敷地は決して広くはありませんが、造園空間作品としての完成度が高く、既存の空間や素材を生かした美しい作品であり、周辺環境の魅力も高めている点が高く評価されました。作品紹介の写真は絵画のようでもあり、完成作品をより美しく見せる工夫が見る人に強い印象を残します。表題にあるように、植栽や石材の使い方で狭さを感じさせない工夫が見られ、まとまりのある空間になっていると評価されました。

職人技が光る一方、造園施工管理技術のアピールが弱いという意見もありました。技術によって空間がより素晴らしくなることを、意識して表現していただければと思います。

特別賞について

選考副委員長
藤本 加奈子
（一造会 副会長）

地域のサクラを残すために

新しく住宅地として造成されてしまう土地に存在していたサクラを地域のシンボルとして残すには技術者の残すべきだという想い、それを事業者に受け入れてもらう提案力、確かな移植の技術力全てを駆使してこそできることだと思います。この作品からはなくしてしまうことは簡単ですが、時間や労力をかけてでもなくしてはならないものは残し、地域に根ざした価値を高めていくのだ、という強い想いが感じ取れました。そしてそれは今回の応募作品のなかで群を抜いていました。

「いいね！投票」でも多くの票を獲得しました。投票くださった皆様にも敬意を表したいと思います。

今後このサクラが順調に生育し、新規施設や植栽と調和すること、そして人々を繋ぐ地域のシンボルになっていくことを期待しています。

奨励賞について

選考委員
芦田 浩史
（独立行政法人都市再生機構）

夏に咲くスキー場

本作品の施工管理技術としての評価ポイントは二点あります。それは、地元の山野草 600 種の少量多品種の混植により、植物同士の相互作用を活用し無農薬での維持管理を可能にした点と、植物各々の特性を把握し、総体としてロケーションに馴染む景観として成立させた点です。公園のテーマとして掲げられた「持続可能な共生」を感じる作品となっています。

これからの時代に、より求められる環境負荷の低減という観点からも、自生種の採用により遺伝子ストックの攪乱を抑制することや、浅間石等地元の資源を活用することにより資材運搬に係る化石燃料使用量の低減が図られたことなどが評価でき、未来志向の造園計画でありつつ、土地の風土に寄り添った計画は、その土地に馴化する丈夫で華やかな庭という、補助説明文にあったコメント通り、本来のランドスケープ的であると感じました。

加えて、施設運営の面でも夏季のスキー場の営業に寄与する可能性を示し、山野草の育苗にあたっては地元の農家に委託し、雇用喚起とまでは言わずとも周辺地域への波及効果が見られ、他の地方都市や、季節により人流に変動のある観光地における、地域経済に貢献するグリーンインフラとして、今後の造園業の貢献のあり方としてのヒントとなる作品である点も評価され、奨励賞への選出となりました。

次回応募される方々へ

選考委員
松本　朗
（一造会 常任相談役）

ご応募いただいた皆様ありがとうございました。また受賞者の皆様おめでとうございます。

すてきな造園空間コンクールの審査を終えて次年度以降応募される方々へお伝えしたいことは以下の 3 点です。

1. 当コンクールは造園技術者の「技術」を称える賞であることを念頭にご応募ください。「技能」を称えるのでなく「技術」を称えます。「これは技能を誇っているのでは？」と見受けられる作品は写真メインの当コンクールではアピールしづらいような気がします。このような作品は文章でアピールできる「一造会大賞」の応募が良いような気がします。「一造会大賞」では作り手の「想い」などを文章と写真でアピールしやすいです。また、「すてきな造園空間コンクール」では「素材をアピール」するコンクールでもないことを併せてお考えください。素材選びからこだわったことをアピールする場合も「一造会大賞」が優位です。写真では素材をこだわったのが応募者なのか？発注者なのか？他社の設計者なのか？が判明せず評価しづらいです。「すてきな造園空間コンクール」は例えばきれいな連続した曲線が作品として残されている現場など写真でアピールしやすいものが評価されやすい賞です。

2. 工夫したり、苦労したり、努力したりした舞台裏の写真は補助説明資料の 4 枚の枠も使って詳細にご説明いただくほうがより評価しやすいです。

3. 地方からのご応募をいっぱい待っています。写真だけで応募可能ですので、是非、是非多くのご応募を期待します。「全国 1 級造園施工管理技士の会」です。「全国」からのご応募をお待ちします。

第２回　全国１級造園施工管理技士の会
すてきな造園空間　施工管理技術　作品コンクール

作品名　いぶし瓦を用いたエントランス前庭

金賞

応募者1	諸井　泰司（現場代理人）
応募者2	伊藤　隆之（現場主任）
その他応募者	
施工・管理運営時期	2019 年 10 月 ～ 2020 年 6 月
現場の所在地	東京都 足立区
撮影日	2020 年 6 月

地域の歴史と文化に合わせたいぶし瓦の門柱

いぶし瓦の門柱とベンチ

瓦屋根の和風エントランス前の景観

いぶし瓦舗装

アピールポイント：関東三大師の一つである西新井大師から徒歩2分という立地で周辺地区は、景観形成基準が存在しており、「和風」の意匠を意識した街並みとなっています。そこで、瓦は兵庫県南あわじ市で生産されている「いぶし瓦」を特注で発注し当団地のイメージに寄り添う色合いや質感を実現した。門柱の目地幅に関しては、設計では5㎜となっていたが、瓦とのバランスを考え15㎜としたため周囲と調和がとれた空間となった。

部門：☑ 造園工事　☐ みどり・公園管理　☐ 工法等改善

第２回　全国１級造園施工管理技士の会
すてきな造園空間　施工管理技術　作品コンクール

作品名　氷川神社直会殿（なおらいでん）広場工事

銀賞

応募者1	鈴木　きみ（　設計者　）
応募者2	保永　博文（　監理技術者　）
その他応募者	藤本　健夫（現場代理人）
施工・管理運営時期	2020 年 6 月 ～ 2021 年 3 月
現場の所在地	埼玉県 川越市
撮影日	2020 年 10 月 3・7 日

半年後の現地写真。シンボルツリーであるのびやかな2本のカツラは、旧式場の会場名により選定。

軒下の植栽地には雨落ちの水に加え、通路面の表面排水を集めるよう、舗装面の水勾配を計画。花壇縁石に数カ所集水口を設け、土中に水を浸透させるよう透水管を設置した。

建物側と広場を緩やかに遮蔽するよう配慮した植栽地。築山状の植栽地に、高さや品種をランダムに配置した中低木で、有機的な境界を演出した。

既存オリーブ大径木移植。6月から環状剥皮による発根促進作業に取り組み、より活着率を上げるよう工夫して、10月に移植を行った。

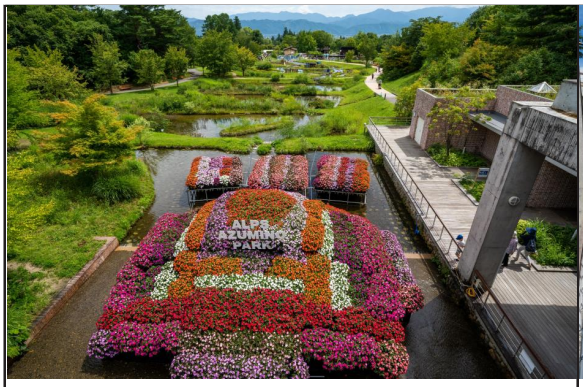
アピールポイント：隣接する氷川神社の式場解体に伴い、新たな会食施設と、イベント対応の広場として整備。原風景である里山の明るい雑木林をイメージし、この地域の代表的植生であるクヌギ-コナラ群集を基本に、神社や川越の街並みになじむ樹種を選定しています。また、解体された旧式場のオリーブを移植する、部屋名に使用されていた5つの樹種を用いる、など記憶や思いを継承するよう配慮しています。観光地との新たな接点の場として、より洗練された空間を演出した広場は、祭りの山車の待機場や神社イベントの利用時を検討して樹木を配置し、人々の集いの場として利用されています。

部門：☑ 造園工事　☐ みどり・公園管理　☐ 工法等改善

第2回 全国1級造園施工管理技士の会
すてきな造園空間 施工管理技術 作品コンクール

作品名 地元で生産された花「サンパチェンス」を使った水上花壇による涼空間の創造

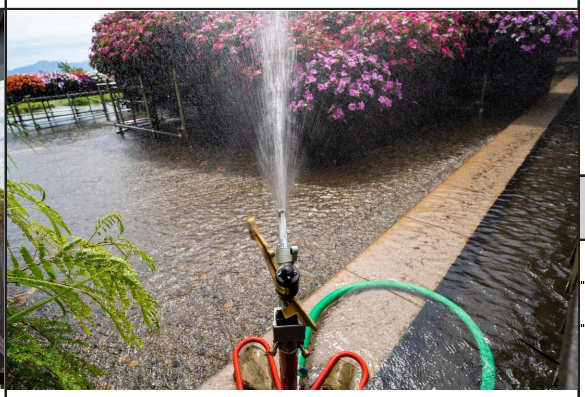
銀賞



700株10色のサンパチェンスを使い色鮮やかな花壇を作成した。
色の配置や構造を考案する際は上のデッキから見下ろした時の見栄も意識して施工した。

単管パイプを使い高さを3mまで上げて施工した水上花壇。
花をピラミッド型に配置して360°どこから鑑賞しても綺麗に見えるようにした。

『ALPS AZUMINO PARK』の文字を設置して公園の撮影スポットにした。
来園者に花壇の撮影した写真をSNSにあげてもらい『SNS映え』を狙った。



北アルプスの山々から流れる天然水が公園に引き込まれており、灌水の水源として利用した。
スプリンクラー等で水に動きをだしながら涼しさを演出し、来園者に楽しんでもらえる空間を作った。

応募者1	松浦 強（現場代理人）
応募者2	橋本 理（施工主任）
その他応募者	
施工・管理運営時期	2022 年 3 月 ～ 2023 年 3 月
現場の所在地	長野県 安曇野市
撮影日	2022年8月

アピールポイント：サンパチェンスの生育には水管理が必要です。国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区では北アルプスの山々から流れる天然水を公園に引き込んでいるので水上に花壇を設置して散水を兼ねた水の演出を行い、来園者に色とりどりの花を見ながらスプリンクラーなどの演出で涼しげな空間を楽しんでいただけるように花壇の形や灌水方法を考え施工しました。

部門：☐ 造園工事 ☑ みどり・公園管理 ☐ 工法等改善

第2回 全国1級造園施工管理技士の会
すてきな造園空間 施工管理技術 作品コンクール

作品名 地域の原風景である雑木林の再生と継承を目指した公園整備工事

銅賞

写真1（全景）

写真2（明るい空間になった公園の雑木林）

写真3（保護した希少種植物のキンラン）

写真4（発生材によるガレ山（左）と間伐木の枝を使用した粗朶山（右））

応募者1	宮原 一道（監理技術者）
応募者2	矢島 大士（現場代理人）
その他応募者	栗田 啓介（現場担当）
施工・管理運営時期	2018 年 12 月 ～ 2019 年 9 月
現場の所在地	東京都 東久留米市
撮影日	2019 年 9 月

アピールポイント：長年閉鎖され、樹木の管理がされていない状態であった従前の団地内広場をかつての雑木林を再生・継承し、またアクティブな利用を促進する公園として整備するため、雑木林の再生や既存樹木・希少種植物の保護という課題に対し施工者の立場で向き合いました。既存樹木は健全度調査の上、高切り剪定による萌芽更新や間伐を行い雑木林の再生を図りました。また、積極的な提案により希少種植物であるキンラン等の調査・保護・移植や工事による発生材を活用した粗朶山やガレ山による生き物の生息場所の確保に取り組みました。

部門：☑ 造園工事 ☐ みどり・公園管理 ☐ 工法等改善

第2回 全国1級造園施工管理技士の会
すてきな造園空間 施工管理技術 作品コンクール

作品名 新川崎駅周辺の屋上広場改修 ～人工芝を用いた改修で素敵な憩いの場に～

銅賞

施工後(憩いのベンチ、人工芝、照明設置等)

施工前

施工後

施工前

応募者1	根布屋 辰之助（現場代理人）
応募者2	三村 佑美佳（主任技術者）
その他応募者	綱島 文彦（品質管理） 川崎 純一（安全管理） 田島 凪朝（現場主任）
施工・管理運営時期	2021 年 9 月 ～ 2021 年 10 月
現場の所在地	神奈川県 川崎市
撮影日	2021 年 10 月

アピールポイント：新川崎周辺マンションの大規模修繕に併せて広場の改修工事を請け負いました。屋上広場で植栽も難しい状況の中、人工芝と風合いの良いベンチを設置することによってやわらかい印象の広場に改修しました。工事中も水や施肥などをして既存の樹木をできるだけ良い状態で残せるよう努力しました。施工前は固い印象のため人もあまり集っておりませんでしたが、竣工後区画開放と同時に人々がなだれ込むように利用するのを見た際は胸が熱くなりました。

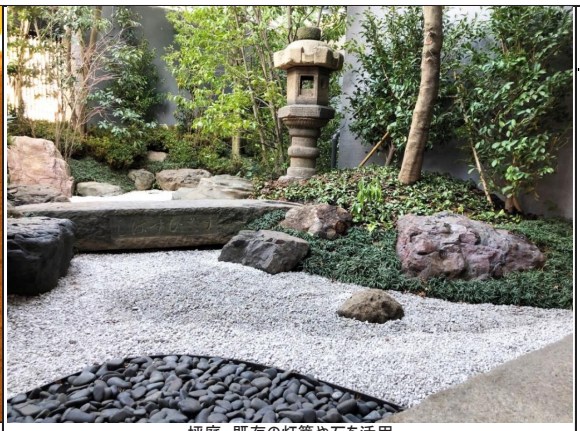
部門：☑ 造園工事 ☐ みどり・公園管理 ☐ 工法等改善

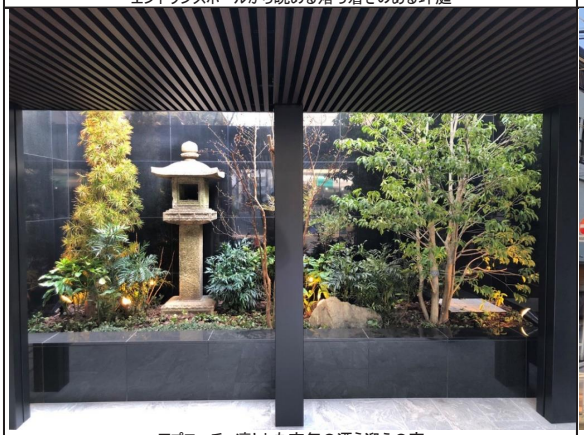
第2回 全国1級造園施工管理技士の会
すてきな造園空間 施工管理技術 作品コンクール

作品名 奥行きを意識した和の庭

銅賞

エントランスホールから眺める落ち着きのある坪庭


坪庭 既存の灯篭や石を活用


アプローチ 凛とした空気の漂う迎えの庭

沿道部 格子の隙間から坪庭が見え隠れし、中への期待感をもたせる

応募者1	波多 主税（ 設計者 ）
応募者2	出島 森央（ 作業主任者 ）
その他応募者	上野 澪（設計従事者） 齋藤 奈那（設計従事者）
施工・管理運営時期	2020 年 11 月 ～ 2020 年 12 月
現場の所在地	東京都 台東区
撮影日	2021 年 1 月

アピールポイント：料亭であった土地の記憶の継承と、浅草の街並みに相応しい情緒あふれる景観を念頭に計画しました。
料亭で使われてた石材の再利用：とくに地権者様の思い入れの強い景石は坪庭のよく目に入る位置に配置しました。
狭小な植栽地：決して広くない植栽地ですが石や植栽を組合せて動きを出し、住まう人・道行く人が心地よく感じるよう計画しました。
奥行きを感じさせる工夫：幹の太い樹木を手前に配置する、始点を見せない砂利ラインや起伏の計画などにより奥行きを創出しました。

部門：☑ 造園工事 ☐ みどり・公園管理 ☐ 工法等改善

第2回　全国1級造園施工管理技士の会
すてきな造園空間　施工管理技術　作品コンクール

作品名

地域のサクラを残すために

2021年9月　施工前のサクラ

2022年9月　移植後のサクラ

2021年9月　根回しを行う

2022年6月　サクラの根巻きを行う

特別賞

応募者1	西上 陽子（主任技術者）
応募者2	故 西泉 重宏（現場代理人）
その他応募者	山本 浩陽（現場作業員）
施工・管理運営時期	2021 年 9 月 ～ 2022 年 6 月
現場の所在地	千葉県 八千代市
撮影日	2021 年 9 月、2022 年 6 月

アピールポイント

もともと某会社の社宅跡地にあったサクラを、新しく住宅地に生まれ変わるこの土地のシンボルツリーとして残すプロジェクトとして始まりました。周囲での社宅解体、造成工事の進捗による工程変更や、住宅地内の狭い道路にラフターを誘導する困難、移植先の土壌は排水性が悪く、急遽土壌改良材を調達することになる等、至難の連続でしたが、無事に移植することが出来ました。

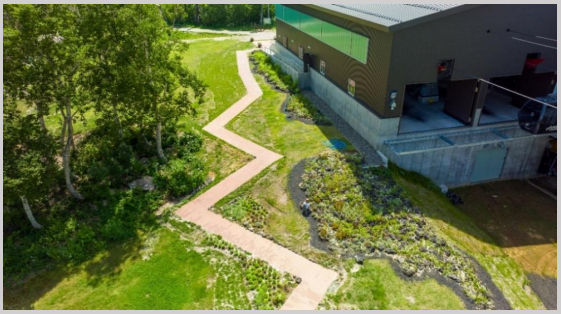
部門

- ☑ 造園工事
- ☐ みどり・公園管理
- ☐ 工法等改善

第2回　全国1級造園施工管理技士の会
すてきな造園空間　施工管理技術　作品コンクール

作品名

夏に咲くスキー場



ゴンドラ降り場を彩る山野草とスロープ。車いすやベビーカーでも歩きやすい構造に。

長野県産浅間石を使用。浅間石の黒と、鮮やかな山野草のコントラストを意識した。

テンニンソウの黄葉などカラーリーフの山野草を集めて華やかさを演出。

レストハウス周辺の寄せ植え。現地スタッフと共同で制作。

奨励賞

応募者1	西　芳幸（統括監督）
応募者2	山本　裕美（作業主任）
その他応募者	中平　貴晴（広報）
施工・管理運営時期	2020 年 6 月 ～ 2022 年 6 月
現場の所在地	長野県 野沢温泉村
撮影日	2022 年 8 月

アピールポイント

この公園のテーマは「持続可能な共生」。約600種の山野草を、少量多品種で混植しました。これにより害虫の発生が抑えられ、無農薬での維持管理に成功しています。山野草は地元に自生した草花から種を採取し育て、ロックガーデンには長野県産の浅間石を使用しました。地元の資源を使い、その地に馴染む庭を意識しました。夏季のスキー場の管理は大変な手間がかかり有効な活用法が模索されていますが、今回の施工にあたり自然への負荷を可能な限り減らし、サスティナブルで山と一体となった空間を造ることができました。

部門

- ☑ 造園工事
- ☐ みどり・公園管理
- ☐ 工法等改善

2022 年度　若手造園技術者交流会を開催

千葉市蘇我スポーツ公園に 41 名が参加

2022 年 5 月 18 日㈬、13 時から独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部、同東日本賃貸住宅本部（UR）、一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会、同関東支部（CLA）、千葉市との共催で一造会としては第５回「若手技術者交流会」を開催いたしました。

折原夏志 UR 担当部長

赤埴文子 UR 担当課長

南波拓哉一造会会長

佐川裕之㈱千葉マリンスタジアム統括責任者

植木崇夫千葉市課長

コロナ渦で延期していましたが、南波会長が関わられ、前年に「新会長の現場を見学しよう！」と開催した「千葉市蘇我スポーツ公園」において、事業者、施工者、指定管理者、公園管理者の方々からご講演いただき、UR10 名、CLA10 名、千葉市 10 名、一造会 11 名、計 41 名の参加者に５つのグループに分かれていただき、現地見学、グループ討議を行いました。今までは、UR・CLA・一造会の３者でしたが、千葉市さんにも

スタジアムでの集合写真

多目的グラウンド付近での現地説明

円形野球場付近での現地説明

みどりの丘付近での現地説明

青グループのミーティング

加わっていただき、指定管理者（SSP UNITED）さんと共に会場設営等にもご協力いただきました。ありがとうございました。

日頃、多くの会員の発注者でもある UR や千葉市等との企画は、甲と乙とか、営業的な付き合いではなく、技術者間の交流の場を持つという大切な企画です。皆様同じ造園技術者として対応してくださっています。

グループ討議の様子

参加者にアンケートをお願いしたところ参加者の約 8 割の方からご回答をいただき、9 割以上の方から「また参加したい」との事で、「実際に現場の方から直接お話が聞けて良かった。」「コロナもあり、日頃現場に出られなかったので、楽しかった。」「企画・設計・施工・管理に関わる方々と話してモチベーションが上がった」「グループ討議で自分には思いつかない意見を聞けて良かった。」「同世代でも普段お会いする機会がない方と意見交換ができて良かった。」「設計の人の話が聞けて良かった。」「もう少し時間があればよかった」などの感想をいただきました。

その他、当日の写真やグループ討議の様子は HP でご覧になれます。企画にご協力くださった 20 名近い方々もありがとうございました。

今後ともワクワクして刺激ある若手技術者交流を企画していきたいと思いますで、ご期待ください。

（一造会副会長、CLA 副会長　金子 隆行）

公開座談会　「街路樹の現状とこれからの街路樹を語る」

海外の管理事例、仙台市の取り組みなど４氏が話題提供

公開座談会の様子

全国１級造園施工管理技士の会（一造会）は、令和４年５月20日㈮、東京都江東区の清澄庭園・大正記念館で「街路樹の現状とこれからの街路樹を語る」をテーマとする公開座談会を開催した。

近年多くの課題が指摘されている日本の街路樹について、街路樹がおかれている現状を再確認するとともに、海外や国内の好事例を紹介したうえで、改めて街路樹の現状とこれからについて考えるきっかけづくりとすべく実施した。

関係者以外はZOOMでの開催とし、103名の方に参加していただいた。

始めに主催者を代表して南波拓哉会長より、「現場に関わる中で街路樹が様々な問題を抱えていると感じており、今回の座談会を通してさらに知見を深めたい。また昨年から一造会では街路樹甲子園と銘打って、全国の街路樹の写真の収集を行っているので、併せて盛り上げていただきたい」と挨拶があった。

座談会は登壇者４名、コーディネーター１名の計５名で行われた。登壇者は㈱庭樹園代表取締役の當内匡氏、東洋緑化㈱代表取締役の石出慎一郎氏、仙台市建設局百年の杜推進部公園管理課施設管理係長の降幡賢太郎氏、東邦レオ㈱一倉瑞穂氏の４名、コーディネーターは一造会技術部会の西上が務めた。

まず登壇者４名からそれぞれ街路樹に関する話題提供をしていただき、その後意見交換、最後にまとめという構成で進めた。

最初に當内氏から話題提供があった。當内氏は2021年に「街路樹は問いかける」という書籍を共同で書かれており、そちらの書籍の内容を中心にアーバンフォレストの取り組みや街路樹の価値の定量化など海外の街路樹管理の好事例の発表があった。

次に話題提供をいただいた石出氏からは、国内街路樹の好事例として度々紹介される仙台市の街路樹について、造園会社の立場から街路樹管理の歴史や現在の取り組み内容について発表があった。引き続き降幡氏からは同じく仙台市の街路樹について、行政としての街路樹管理の考え方や街路樹を通してまちの魅力を向上させるという街路樹マネジメント方針についての説明があった。

最後に一倉氏からは2021年度の一造会大賞で特別賞を受賞された「住民と共に取り組んだ30年後も誇れる桜並木の改善維持管理」の中から、街路樹の保全における住民との合意形成の取り組みについての発表があった。

話題提供の後、コーディネーターの進行で意見交換を行い、最後に次回の全国都市緑化フェアの会場である仙台市で再会することを約束し閉会となった。

（一造会技術部会副部会長　西上 大輔）

事業報告

技術発表会「現場実演　効率アップ機器」

３年ぶりの開催　多摩中央公園を会場に実施

技術発表会の冒頭、あいさつする南波会長

全国１級造園施工管理技士の会（一造会）は令和４年９月26日㈪に、東京都多摩市の多摩中央公園にて「現場実演　効率アップ機器」をテーマとする技術発表会を開催した。

コロナ禍により３年ぶりの開催となった技術発表会は、屋外での現場実演を中心とし、感染対策を施した中での開催となった。

建設業の人手不足解消・安全性向上を反映した技術

近年は、職人の高齢化、若手の人材不足を中心に建設業のさらなる人手不足が深刻な問題となっている。また安全に対する意識の向上は、さらなる高まりを見せており、安全の確保は必須事項である。

今回の発表会では、様々な機器を活用し、現場の人手不足を解消、また安全を確保するような技術を現場実演にて学び、意見交換を行うべく実施した。

発表会は、南波拓哉一造会会長の開会の挨拶から始まり、㈱サイニチ様より製品説明をしていただいた後、現場での実演となった。

㈱サイニチ様のご担当者の方々

前半の座学による発表会の様子

㈱サイニチ様による効率アップ機器のご紹介

（1）ラジコン草刈り機

ラジコン草刈り機は、170 mまでの遠隔操作が可能で、最大作業角度は 45 度まで対応。夏場の酷暑地での熱中症対策や法面作業での転倒･転落事故の防止、草地作業での害虫による被害の軽減等が期待される。

（2）根こそぎ切るソー

根こそぎ切るソーは、バックホーに取り付け伐根作業を行う機器。街路樹など狭小地での作業効率アップ、省人化によるコスト削減が見込まれる。

（3）切り株カッター

切り株カッターは、切株を伐根することなく処理でき、短時間での切り株処理が可能となる。根こそぎ切るソー同様、街路樹など狭小地での作業効率アップ、省人化によるコスト削減が見込まれる。

（4）温水除草システム

温水除草システムは､植物の根元に高温水を散布し、植物の育成障害を発生させることで除草作業を行う。水のみを使用するため環境にやさしく、天候に左右されない作業が可能。

現場実演では、参加者が実際にラジコン草刈り機を操作し、動きなどを確認。現場実演の後の質疑応答の場では数々の質問が飛び交った。参加者の現場での作業効率化に対する関心の高さを再認識し、閉会となった。

（一造会技術部会副部会長　渡邊 健幸）

事業報告

第４回舗装研修会　㈱ NIPPO 大宮総合技術センターで開催

公園での特殊舗装の新設時とメンテナンスの注意点を学ぶ

2022 年 10 月 28 日㈮に㈱ NIPPO 大宮総合技術センターで第 4 回舗装研修会を開催しました。当日は、㈱ NIPPO 営業部長の山本真司氏、技術部長の村上浩氏、試験所所長の吉田満氏ほかからご説明をいただき、一造会の参加者は 8 名でした。午後 1 時から座学、プラントの見学、簡易補修材の施工体験をさせていただき、さらに 1 級土木施工管理技士試験の過去問解説をしていただきました。

まず、座学では舗装の基礎、環境関連舗装、特殊舗装の新設時とメンテナンス時の注意点（木質系、ゴムチップ系、洗い出し豆砂利系など）についてサンプルを見たり手に取ったりしながら学びました。

続いて、プラントに移動し、骨材の貯蔵や運搬について説明を受けました。試験室では現物を前にして密度試験などの品質管理の話も伺いました。

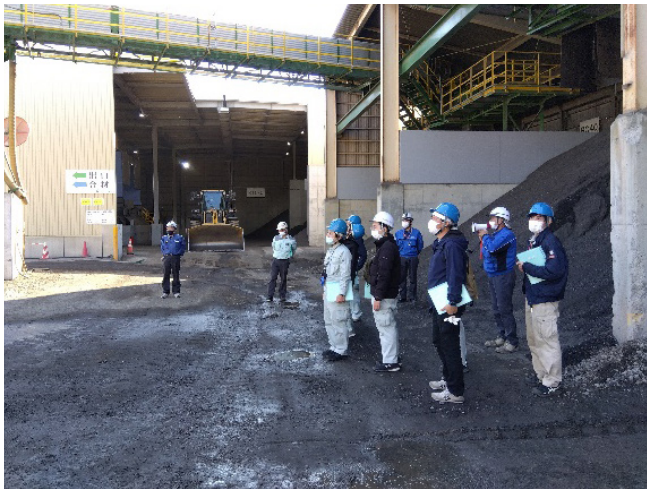
施工体験では、構造物の欠けやへこみをすばやく直す補修材や、常温合材を使った舗装のへこみやひび割れを短時間で補修する充填材の施工を体験させていただきました。

最後に、2022 年度の 1 級土木施工管理技士試験問題の舗装に関する問題をとても分かりやすく解説していただきました。

コロナ禍の影響で数年ぶりの開催でしたが、今後も継続して開催していきますのでご期待ください。

（一造会副幹事長　田上　貴）

座学の様子



プラント見学の様子

試験室の様子

補修材の施工体験の様子

現場見学会「深川ギャザリアを歩いて」

『一造会大賞の受賞現場に見学に行こう』との目的で開催

壁面緑化の前で集合写真

「一造会大賞の受賞現場に見学に行こう」という目的のもと、令和4年11月29日㈫に現場見学会をオンライン併用で開催しました。

南波会長のあいさつでスタート

今回は第15回一造会大賞を受賞した東京都江東区にある深川ギャザリアに行きました。現地参加者20名、オンライン参加者40名でスタートし、施工から管理まで一貫して行っている㈱富士植木職員による説明を受けながら、ガーデンコート・センタープラザ・ビオガーデンという3つのエリアを見学しました。

ガーデンコート見学の様子

ビオガーデン見学の様子

最初に見学したセンタープラザは名の通りギャザリアの中心となる広場で、床の荷重条件や利用客の導線確保など施工時に苦労した場所です。大賞を受賞したガーデンコートは深川ギャザリアのメイン通路に位置するイングリッシュガーデンで、ここでは職員による日常管理の方法、利用客に楽しんでもらうための様々な工夫等についてパネル等を利用して説明を受けました。ビオガーデンはビオトープに庭園要素を加えた場所で、多数の生き物が生息できるよう自然感を大切にした管理方法の説明を受けました。

オンライン参加の方への説明・質問への対応等の反省点もありますが、コロナ禍が落ち着くまで、オンライン併用の現場見学会を行っていきたいと思います。

（一造会研修部会長　角幡 大亮）

事業報告

地蔵山ロッジセミナー「立曳移植」

堀之内北八幡神社のイチョウの大木を守った人々から当時の想いと実際の施工を聞く

あいさつする浅見芳雄理事長（中央）と、進行と立曳工法の特徴や課題を説明した山本幹雄氏（左）

全国 1 級造園施工管理技士の会（一造会）は 11 月 26 日㈯、NPO 緑の大地会の第 2 回地蔵山ロッジセミナー「北八幡神社 大イチョウ 立曳移植工事」のオンライン・会場併催を共催。会場約 20 名、オンライン約 50 名が参加・視聴した。

セミナーは、全国 1 級造園施工管理技士の会常任相談役で NPO 緑の大地会理事の松本朗氏が企画。30 年ほど前の多摩ニュータウン開発が盛んな頃、八王子市堀之内北八幡神社のイチョウの大木が開発に掛かることとなった。このため関係者が知恵を出し、立曳移植という古来の移植方法でイチョウの大木を残した。

当時の開発側は住宅都市整備公団で、仕掛けたのは樹木医の大石武朗氏で、当時の神社の総代が地蔵山ロッジオーナー鈴木秀男氏のお父様。施工は富士植木で、責任者は初代多摩支店長の田辺瑞穂氏、職長は苑友造園をサポートしている中野雄一氏であった。

セミナーは、まず松本朗氏が開催経緯を説明、進行の山本幹雄氏にバトンタッチし、開会に当たり浅見芳雄理事長のあいさつの後、第 1 部「まちを育む " 地域の宝（リソース）" と樹木移植工事」として、大石武朗氏がニュータウンづくりと移植工事の発案などについて説明し、鈴木秀男氏が北八幡神社の歴史と地域のかかわりなどを紹介。次いで、田辺瑞穂氏が立曳工法を用いた大イチョウの移植工事の紹介を行った。

さらに、この事業を踏まえ、細野助博中央大学名誉教授が " 地域の宝（リソース）" としての神社・社叢林についての見解を経済学の視点を含めて、まちづくり、まちおこしへの効用について概説した。

休憩を挟んだ第 2 部「伝統技術を育む " 立曳工法のさらなるブラッシュアップ "」として、当日の進行役であり、立曳の研究をされた元日本大学講師の山本幹雄氏が、" 立曳工法 " の特徴をはじめ、技術的工法として・新たな時代への対応としての " 立曳工法 " の課題について解説を行った。

松本朗氏　大石武朗氏　鈴木秀男氏　田辺瑞穂氏　細野助博氏　中野雄一氏

第 10 回　植生観察研修　高尾山を歩く

常緑広葉樹林と落葉広葉樹林　異なる植生を観察

初の日帰り　第 10 回目観察会

今回で 10 回目となる植生観察会は、9 回目が台風の襲来で中止、その後はコロナ禍での見合わせが続き 4 年ぶりの開催となった。過去 8 回は 1 泊以上、といってもしっかり登山する山小屋泊ではなくハイキングコースの日帰りや植物園の視察などを組み合わせたものだったが、土日を丸々使ってのスケジュール。今回は趣向を変えて気軽に参加しやすい日帰り、しかも高尾山というメジャーなハイキングコースで新たな参加者の獲得も模索した。

結果は期待通り、初参加が 10 名以上、定員の 20 名を超える応募をいただいた。

事前勉強会

植生観察会では 3 回目から東京農業大学の鈴木伸一教授を講師にお招きし、平日夕方から座学にて植生の基礎と題した事前勉強会を行っている。10 月 27 日に造園会館緑の会議室で行われた事前勉強会には 17 名が出席し、植生の成り立ち、分布の特徴や気候との関係について知識を深めた。

植生観察会

11 月 13 日に総勢 21 名が参加し、快晴の午前 8 時半から植生観察会を開始した。登りは高尾山口駅から南側稜線の稲荷山コースへ。

参加者

名前	所属
中村　仁美	アゴラ造園㈱
加藤　晃司	㈱アティ
田上　貴	㈱大利根造園
高橋　光彦	加勢造園㈱
佐々木良典	JR 東日本コンサルタンツ㈱
田端　誠子	西武造園㈱
西上　大輔	
藤森　由紀	
沖　三奈絵	
菅　将人	東邦レオ㈱
松本　知美	

名前	所属
宮田みづき	東邦レオ㈱
梶川　昭則	
河嶋　道子	中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京㈱
中村　友美	
西上　陽子	西泉㈱
河村　智子	箱根植木㈱
藤本加奈子	
松本　栞	
野林　淑恵	㈱富士植木
松本　朗	
江藤　直美	
鈴木ひかり	

シラカシ、アラカシ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹に交じり、針葉樹ではモミ、カヤ、イヌガヤが見られた。道中、この針葉樹 3 種の見分け方や、落葉広葉樹はシデ類の異なる垂直分布についてやモミジ類の見分け方、低木ではウツギ類やトウゴクミツバツツジなどを観察した。また、造園では馴染みの薄い落葉樹のアサダの葉のもこもことした触感も体験した。

山頂は想像以上の人込みのため、記念撮影後は各自小グループで昼食をとった。

午後からは雨の予報が出ており風が強まっていたため早めに再集合し、後は喧騒を離れた北側の 4 号路へ。落葉広葉樹が主体となる斜面地のため、見通しが良く明るい。イヌブナやチドリノキの黄葉を楽しみつつ、

事前勉強会の様子

植生観察会の様子

ミヤマシキミの蕾や果実を間近に観察した。

その後 1 号路に入った。ケーブルカー乗り場近くのブナの大木からは殻斗が大量に落下していたが、粃（しいな）ばかりで不稔であった。高尾で見られる「太平洋型ブナ」は、近年凶作や無結実の年が長期間続いていることがわかっているが、今後ブナの幼樹が生育できない場合は高尾からブナが消えてしまう可能性もあるとの解説を受けた。

1 号路は舗装路で軽快に進み雨に降られることなく下山できた。懇親会までは近接の 599 ミュージアム見学や高尾温泉入浴の自由時間とした。懇親会は 11 名が参加した。

落葉広葉樹主体の 4 号路

おわりに

コロナの感染者が増え始め第 8 波の予兆が見え始める中での開催となったが、何よりまずは観察会を原因とした感染者が出なかったことに参加者の皆様の感染対策と行動にお礼申し上げたい。

高尾山は 11 月が観光シーズンのピークであり、想像以上の人出であった。観察会は時に立ち止まってレクチャーを受けるので他の観光客への配慮や聞き取りやすさのために、今回は初の試みとしてイヤホンガイドを使用した。今回の取り組みで歩きながらレクチャーを受けたり、道を譲るためのアナウンスを行うことができたりとメリットが多いことがわかったため、今後も使用していきたい。講師は「独り言まですべて聞かれてしまうことを除いては、声を張り上げる必要がないため登りでも話しやすい」ということだった。

一方、観察会後のアンケートでは「受講者から質問がしにくい」、「受講者同士の会話がしにくい」という意見があった。今回の高尾山の植生観察会では、モミ、カヤ、イヌガヤの識別についての関心が最も高かった。また、「今後の開催希望地は、日帰りできる都市圏の里山や明治神宮外苑、海岸部、川沿い、植生再生地、都市公園」などの希望が多かったが、「本格登山になる栂見新道、高山植物の宝庫・礼文島など離島やどこへでも行く」という有難いファンまで多様な要望が挙がった。

今後は、例年参加者を悩ませていた？対象樹種 1 人 1 種を割り当てられた報告書作成は、当日回収のアンケート提出に変更する予定である。皆さんも気軽に自然の中の樹木の姿、植物などを観察しに参加していただきたい。

（一造会副会長、植生観察会幹事　藤本 加奈子）

高尾山山頂での集合写真

月１回　金曜ほっとライン　継続中

２年目を迎え、延べ参加ゲストは 40 名を超える

令和３年 10 月からスタートした金曜ほっとラインは、技術者の交流を目的にオンライン（ZOOM）で行われる月１回１時間程度の意見交換会である。一造会幹事（主に 40 代）が持ち回りで進行役を務め、毎回異なるゲスト（主に 20・30 代の会員）が次のゲストを推薦する方式だ。幹事、ゲスト共３名程度ずつの６名程度で行われてきた。

どこからでもいつでも繋がることができるオンラインの特性を活かし、社内だけでなく現場事務所や車中から参加した会員もいた。みな自己紹介は慣れたものといった様子で、社員の顔、時に個人の顔を覗かせながらリラックスして話している。仕事やプライベートも含め今気になっている「ホット」なこと、情報が少ないことで生じる不安や迷いなどを共有して肩の荷を下ろしたり、一歩踏み出す活力になったり、「ほっと」できる時間になっている。

テーマは気軽に話せるような内容を進行役が設定するが、ゲストからの持ち込み、脱線は大歓迎。少しお節介な幹事たちの望むところだ。「中堅として部下からの仕事の愚痴や相談をどのように上司に伝えれば良いか」という相談には「上司に伝えることが必要か、聞いてあげるだけでも解決する場合もある」、「伝え方をアドバイスすることもできる」、「相談者自身が疲弊しないようリフレッシュもして」、などいろいろな意見があがった。また、「残業を減らす工夫」では、「企業として DX 化」、「業務の細分化で効率をあげること」、「移動時間の有効活用」などの一方で、「時間をかけてでも個人がやりがいをもって追及することも大切」、「前のめりになりすぎて次の日でも良いことをやっていないか洗い出すことも必要」といった意見が出された。「激辛の麻婆豆腐が出されたらどうするか」というお題では「出されたからには食べる」、「食べずにほかのものを食べる」、「注文した人に責任を持って食べてもらう」、「ほかの人に勧める」、「みんなで食べる」などの回答があがると、「麻婆豆腐を重圧のかかる仕事、嫌いな客先などに置き換えても同じ回答か」といった切り返しで深層心理テストの様相で、置き換えても答えは同じの人が多く、一同の笑いを誘った。

回 / 月日	テーマ	進行役
第８回 ５月 27 日	造園楽し！と思った出来事／これからやってみたいこと 他社の同世代に聞いてみたいこと	諸井
第９回 ６月 17 日	社会人になって楽しかったこと 仕事をする上で大切にしていること 残業を減らす工夫　／　女性の作業服	綱島
第 10 回 ７月 15 日	仕事以外で興味を持っていること 尊敬する先輩や上司はいますか／社員同士　仲が良いか	西上（大）
第 11 回 ８月 26 日	自分が大切にしていること・もの／興味を持っていること こんなふうになれたらいいなといった夢	黒子
第 12 回 ９月 16 日	どうして造園の世界に入ったか 今はまっていることややってみたいこと 聞いて欲しいこと（相談でも失敗談でも笑い話でも）	角幡
第 13 回 10 月 21 日	ON と OFF の切り替え方 仕事の楽しいところ　／　残業を減らす工夫	藤本
第 14 回 11 月 18 日	激辛の麻婆豆腐が出されたらどうする 今日のお昼ご飯を教えてください	石井
第 15 回 １月 20 日	去年掲げた抱負を覚えていますか？叶えましたか？ 今年こそはって思うことはありますか？ 業務で何をしているとき（瞬間）が楽しいですか？ こんな時、他の会社の人はどうしているだろうと思うことはありますか？	南波

金曜ほっとラインの画面（参加者了解済）

議事録はメモ程度とし、誰が何を話したかが特定される形で公にされることはない。勿論、常識のある方々の節度ある発言なので経営陣や上司の方々もご安心いただきたい。むしろ仕事で大切にしていること、今後の夢などを知ったら感動して涙するかも。

ゲストからは、「同業であっても交流する機会が少ない昨今、他社に同世代の仲間がいることで安心した」、「諸先輩方も含めどのような業務内容、働き方、ポテンシャルやスタンスで仕事に臨んでいるかを知ることができ新たな刺激を得られた」、「造園に関わる職種として感じ方や考え方がとても近いものがあるように感じた」、「参加された方々ともっと話したい」といった声があった。今後はゲストの所属会社を増やし地域を全国に拡大していくとともにコロナ禍前には実施していた U39 のような対面での交流会も実施したい。

（一造会副会長、担当幹事　藤本 加奈子）

事業報告

東京都若手職員の資格取得支援で講師務める

～造園施工管理技士について　プロフェッショナルな造園人を目指すために～

令和４年６月30日㈭、東京都の若手職員（入社３年目位まで）を対象に、造園施工管理技士の資格取得に向けてのきっかけとなることを目的とし「東京都若手職員に向けた資格取得支援～造園施工管理技士について　プロフェッショナルな造園人を目指すために～」と題して講義を行った。

東京都から一造会へ講師派遣要請があったことから、南波拓哉会長自らがこれに対応し、講師を務めた。

東京都職員の実務研修については、これまでも（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会（CLA）とともに、都の若手造園職の方に設計、施工について、具体的な事例をもとにした研修の講師派遣やグループ討議のファシリテーターの派遣をしていたが、今回は新型コロナウイルスの感染予防のため、対面での実施ではなく、オンラインでの講義となった。

講義内容としては、資格内容の説明からはじめ、資格取得の意義と意味を語り、総勢52名の参加をいただいた。

来年度以降も、造園の魅力・楽しさを広く発信していくため、一造会ではこうした要請に応えていくこととしている。

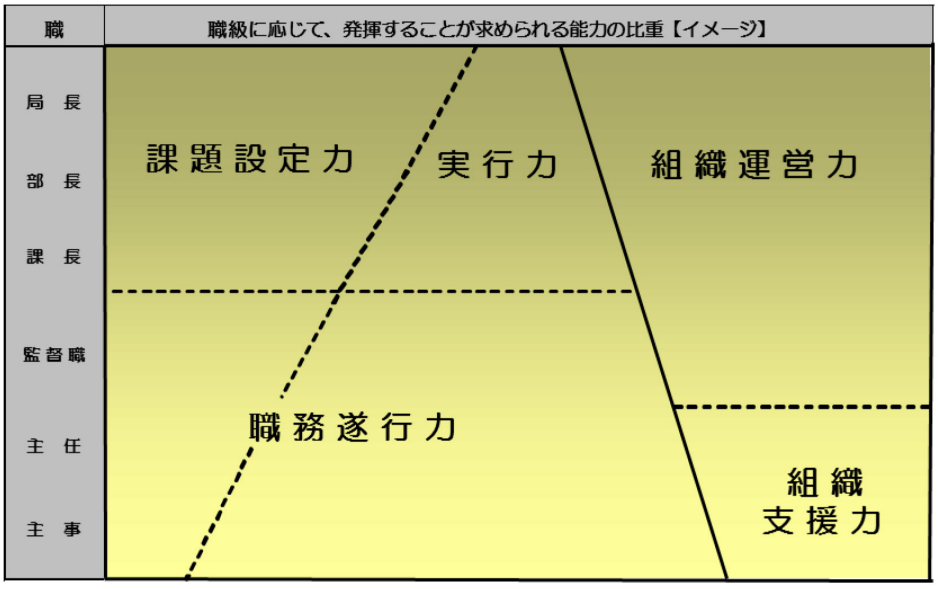


図１　職員に求められる能力の比重（イメージ）

東京都は、グローバル化が進む世界経済、第４次産業革命のうねり、気候変動がもたらす持続可能性の危機、そして少子高齢化・人口減少社会の進行など、大きく社会構造が変化するとともに、コロナ禍においてこれまでの価値観までもが大きく転換していく中においても、都民のQOLを高め、「成長」と「成熟」が両立し、「人」が輝く明るい「未来の東京」を創り上げていくためには、都庁自らが大きく変貌を遂げ、都庁職員一人ひとりが、都民ニーズをくみ取った新たな政策やサービスを創出できるイノベーティブな存在となり、自らの職務の課題や展望について自信を持って語れる「スペシャリティ」を備える必要があるとして、人材育成施策を進めている。

また、東京都職員人材育成基本方針において、職員に求められる能力を明らかにし（図１）、各職場において「知識・スキル・能力一覧表」を作成し、職務遂行上求められる知識・スキル・能力等を明確化している。

「東京都職員人材育成基本方針」より

「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会

公園緑地関連三賞 " 今年のNo.１はこれだ "　一造会大賞を発表

「ひろげよう　育てよう　みどりの都市」全国大会の第一部「事例発表」の様子

都市の緑の保全・創出に対する意識の高揚を図り、緑豊かな美しいまちづくりを展開することを目的に、全国各地で行われている都市緑化月間の催しを締めくくる中心的行事の「ひろげよう　育てよう　みどりの都市」全国大会が令和４年 10 月 28 日㈮、東京都千代田区の日本教育会館で開催された。

大会の第一部で実施された事例発表会「公園緑地関連三賞受賞作品発表会 " 今年のNo.１はこれだ "」は、(一社）ランドスケープコンサルタンツ協会の狩谷達之事務局長が進行を務め、主催者の高梨雅明（一社）日本公園緑地協会会長のあいさつの後、（一社）日本公園緑地協会の「都市公園コンクール」、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会の「ランドスケープコンサルタンツ協会賞」（CLA 賞）とともに、「一造会大賞」を受賞した武内将司氏（㈱石勝エクステリア）が「地域との繋がりを目指した取り組みと施工にあたる課題対策と小さな工夫」について発表を行った。

また、会場のエントランスには、第 17 回「一造会大賞」の受賞作品をパネル展示し、来場者に一造会の取り組みをアピールした。

全国大会の第二部は、高梨雅明会長のあいさつに次いで、藤井直樹国土交通事務次官が斉藤鉄夫国土交通大臣のご祝辞を代読。「令和 ４ 年度都市緑化及び都市公園等整備・保全・美化運動における都市緑化功労者国土交通大臣表彰」など、各賞の表彰が行われ、その後、受賞者の報告と池邊このみ千葉大学大学院教授が「ポストコロナのランドスケープ業界の展望～今、私たちのなすべきこと～」と題し、世界各地の先進事例を紹介した。

事例発表を行う武内将司氏

全国大会会場のエントランスに掲示された一造会大賞受賞作のパネル

事業報告

令和４年度通常総会を開催

南波会長を再任、副会長 荻野氏から佐藤氏へ　事業計画など５議案を審議・承認

南波拓哉会長を議長に行われた総会の様子

令和４年度の通常総会は５月 20 日㈮、午後２時から東京都江東区の清澄庭園「大正記念館」を会場に、対面・オンラインの併催で開催した。

総会は冒頭、南波拓哉会長のあいさつの後、第１号議案 令和３年度の事業報告について、第２号議案 令和３年度の収支決算について、第３号議案 令和４年度の事業計画（案）について、第４号議案 令和４年度の収支予算（案）について、第５号議案 役員の改選についての５議案を審議・承認した。

事業報告では、一造会の会員数は令和３年度末で 1,036 となり微増し、新型コロナウイルス感染防止のため、例年実施していた事業が相次ぎ、縮小・中止となる中、実施可能な屋外での見学会を開催したほか、オンラインによる技術者の交流として「金曜ほっとライン」を新規事業として実施したほか、顕彰事業としての「一造会大賞」を例年通り実施したほか、新たに「すてきな造園空間施工管理技術作品コンクール」を開催したことなどを概説。新年度事業については、感染症対策を踏まえ、オンラインを活用するなどして、23 事業に取り組むこととした。

幹事・監事の改選では、荻野淳司副会長、坂上信明氏、鈴木好次氏、竹下知良氏、西山治氏、益田昌昭氏の幹事、原孝昭監事が退任。岡島信之氏（東武緑地㈱）、楠本文彦氏（東武緑地㈱）、山田耕三氏（花豊造園㈱）、橋本潤氏（加勢造園㈱）が新たに幹事となった。

役員では、会長に南波拓哉氏を再任、副会長には金子隆行氏、藤本加奈子氏を再任したほか、新たに佐藤英介氏が副会長に就任。幹事長・石井匡志氏、副幹事長・西上陽子氏、田上貴氏が就任。幹事長だった高橋光彦氏が新たに監事となった。

当日は、総会終了後に公開座談会「街路樹の現状とこれからの街路樹を語る」を開催（48 頁参照）し、その後、交流会を実施した。

交流会の様子

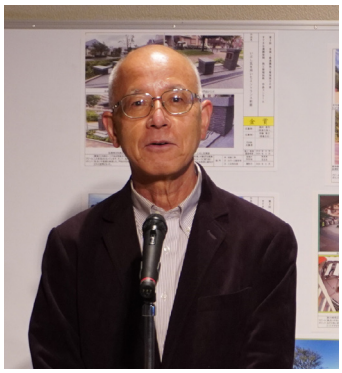
一造会「事業報告会」を３年ぶりに開催

東郷記念館を会場に顧問、相談役、フェローの方々集う

事業報告会であいさつする南波拓哉会長

熊谷洋一顧問

涌井史郎顧問



藤井英二郎顧問

鈴木　誠顧問

令和４年度事業報告会は 12 月２日㈮、午後６時から東京都渋谷区神宮前の東郷記念館で、石井匡志幹事長の進行で開催した。

事業報告会は冒頭、南波拓哉会長が「３年ぶりの事業報告会となり、私が会長になってから初めてで、大先輩の方々を目の前にしてのあいさつになるので緊張しながらになりますが、とにかくこの間、新型コロナウイルス対応からさまざまな事業が中止となりました。しかし、できることを積極的にということで、外でできる現場見学会やオンラインでの『金曜ほっとライン』を開始し、来春にはコロナも終息に向かうとのことから、一造会では初めてとなる全国都市緑化フェアの開催地での総会開催ということで仙台での実施を現在計画しているほか、関西や東北での研修も実施に向けて準備をしているところで、こうした活動については後ほど担当者からご報告させていただきます。本日お集りの皆様方におかれましては、今後もお力添えをよろしくお願いいたします」とあいさつ。

乾杯のごあいさつでは、一造会顧問の熊谷洋一東京大学名誉教授が「一造会はお亡くなりになられた前田宗正さんが、当時、『学は研究に熱心だが、業との連携はあまりなく、官と民の技術者が交流できる場がないことから、そうした技術者の交流の場を設けたい』との熱い志があり、私はその志に感銘をいたしました。そして、実際に会の設立に尽力したのが、前田さんが『福ちゃん』と親しみを込めて呼んでいた福成敬三さんで、今日も会場にいらっしゃいます。設立から 30 余年となり、当時の皆さんは高齢になって欠席される人も出てくるようになっていますが、私はこの会は皆勤で、ここまできたら意地でも皆勤を続けようと思っています。感染症が深刻な時期もありましたが、久方ぶりの会であり、着座だけでなく、ぜひお集りの方々で交流を深め、今後の有意義な活動に繋げていただければと思います」との旨を述べ、乾杯を発声、久しぶ

東北・北海道支部　石出慎一郎幹事

関西支部　山田耕三幹事

角幡大亮研修部会長

黒子典彦広報部会長

技術部会（左から）諸井泰司部会長　田村賢二氏　橋本潤氏　山本実氏　渡邊健幸氏　西上大輔氏　綱島文彦氏

金子隆行副会長

藤本加奈子副会長

石井匡志幹事長

森田弘行センター長

泉地善雄会計幹事

加勢充晴相談役

福成敬三フェロー

梶井直和フェロー

荻野淳司フェロー

西上陽子副幹事長

りの祝杯となった。

次いで、一造会顧問の方々からご祝辞をいただき、涌井史郎東京都市大学特別教授は、「ちょうど昨日、パリで開催された BIE の会議で、2027 年国際園芸博覧会が議決され、国際条約に基づいて、日本国が開催する国際博覧会に正式に認められました。BIE に先立ち AIPI ではすでに正式決定しておりましたので、皆様ご承知のこととは思いますが、造園に世界の風が吹いているので、力を合わせて一緒に開催に向けて取り組んでいきたいと思いますので、ご協力をいただきたい」と述べた。

藤井英二郎千葉大学名誉教授は、「『世界の風が造園に』という話がありましたが、5 月、6 月にフランスにおり、そこでは日本より強い風が造園に吹いていました。日本は 1970 年頃に比べ、風の勢いが落ちているように感じているので、再興する必要があると思っています。公園など、みどりに関する世界の取り組みがさらに活発化する中で、日本においてこれを担える技術者団体は、一造会のほかにないと思っています。ぜひ皆さん、心を一つに頑張っていただきたい」と述べた。

鈴木誠東京農業大学名誉教授は、「感染防止で皆さんとお会いできない間に現役をリタイアし、現在は東京農業大学グリーンアカデミーの校長として、シニア

世代を対象にした人材育成を行っています。これからの日本造園については、『都市緑化技術』の最新号に、「世界にはばたけ日本の造園！」的なことを寄稿したので、機会があればぜひ目を通していただければと思います。日本には、日本庭園に関する博物館がありません。まだまだ、私たちのやることはたくさんあるので、ぜひ頑張ってまいりましょう」と述べた。

また報告会では、一造会の事業に関して、関西支部からは研修「京都庭園巡り」、東北・北海道支部からは「仙台フェア」とこれにあわせた一造会の総会案内のほか、各部会から各事業の報告を行い、途中、第 2 回「すてきな造園空間施工管理技術作品コンクール」の表彰式も行われ、華やかな席となった。

また、加勢充晴相談役は「技術者を現場に孤立させない、社外の技術者と交流して仲間を得る。さらに、スーツを着て芸術を鑑賞したり、そういうことを一造会はやってきました。当時の現場技術者は休日もなく、そういうことは考えられない状況でしたが、『造園は総合芸術』ともいえるもので、自分の感性以上のものはつくれないから、感性を磨くことは不可欠で、当時と現在は環境が違いますが本質は変わっていないので、一造会の皆さんは感性を磨いて素晴らしい風景、空間を生み出し、育てていただきたい」。また、福成敬三フェローは、今回は参加できなかった佐藤岳三相談役から「皆さんに知っていただきたい」と託されたご自身の寄稿を配布（別掲）。梶井直和フェロー、副会長を退任し新たにフェローとなった荻野淳司氏からは、一造会への期待のことばが述べられた。

事業報告会は最後に、恒例の「一造会のテーマ」を南波会長のリードで合唱、盛会のうち、終了となった。

造園工事の建設システムの課題と解決に向けて（要約）

事業報告会当日に、福成フェローがかつて書かれた記事が佐藤岳三相談役からの「皆さんの役に立つはずだからぜひ読んでいただきたい」とのご提案によって参加者に配られた。これは 2000 年にマルモ出版のランドスケープデザイン誌に寄稿された「造園工事の建設システムの課題と解決に向けて」と題された記事で、22 年を経過した今、その重要性がより増しているといえるのではないだろうか。

以下、この記事の概要を紹介したい。なお図表の入った原文は一造会 HP をご参照いただきたい。

1. 建設業としての造園の歩み

・わが国における造園の歴史は千年を越え、世界に誇る作庭技術が受け継がれてきたが、造園にとってこの 30 年は技術的には大きな問題を抱えてしまった時期のように思える。

・その問題とは、昭和 46 年に造園が造園工事業として建設業の一業種となり、土木の範疇となったために、今まで民間の造園会社が一貫して行っていた設計と施工が分離されてしまったこと。

・昭和 50 年に造園施工管理技術検定制度が始まり、その教本としてまとめられた造園施工管理技術編（日本公園緑地協会発行）で、施工管理に関するほとんどが土木のテキストの引用となってしまったこと。

2. 土木と造園の相違

・土木の根幹はもの作りであり、力学的構造計算を根拠とするミリ単位の図面と経済性、安全性にあると言っていいのではないだろうか。施工はどの施工業者がやっても同じものができるという前提で行われ、品質管理としては厚みなどの規格と数量が重視される。

・それに対して造園では不定形の材料なども用いてもの作り、配置を行いながら快適性などが求められる人の心に関わる空間を創造すること、生き物である植物を扱うことなどまったく異なる価値観や状況がある。

・公共造園は造園の特性を反映した施工管理よりも数量と規格を重視したものとなってしまったために、民間の造園に比べて空間の質やおさまりといった造園本来の価値に関して劣ってきてしまっている面が見られる。

・建築の付帯工事として建築の設計監理者のもとで行われる造園に比べて、専門家である造園業者が単独で行った公園工事などでしまりにかけている場合が見られる。

・さらに質的要求がなされず評価もされないために、公共工事では結果として質を大切にする本質的造園技術が低下し、本来の技能の発揮もなされなくなってしまった。

3. 造園空間の品質向上のための方策

・造園の独特の価値、特性として 2 点に絞って行った解決の試みについて紹介すると、ひとつは空間としての品質向上であり、もうひとつは成長する生き物を扱うという点。

・ひとつ目については、現行システムの中で空間の質を上げていく方策として設計表現の見直しを行おうとした。

・造園の場合は不定形で立体的なものでは現場あわせをせざるを得ないために図示には限界があり、また設計監理が現実的でない中、設計者としては施工者の技量にある程度委ねるほうが合理的である。

・解決するためには、最終的な造園空間を仕上げる施工者に設計者の意図を少しでも的確に伝え、造園独自のこだわりを伝える必要がある。

・企画責任者の一人として参画した日本造園学会関東支部技術部会で、当時の住宅・都市整備公団と日本道路公団に、

造園設計表現の見直しのための研究の企画書を提出したところ、それぞれから日本造園学会に委託研究が出され、それぞれに調査研究報告書が提出された。

4. 造園設計表現の見直し

・日本道路公団への報告書では、敷地周辺との関係などを示した景観計画図、機能などを表現した計画コンセプト図、空間の特性などを表現した空間イメージ図、納まりなどを伝える部分解説図などが新たに提案された。
・またこれら図面だけでなく、施工者に渡すための計画概要書を作成することになった。計画概要書には基本方針や設計内容が設計図やイメージスケッチ、空間イメージ図、部分解説図とともに解説されている。
・住宅・都市整備公団への報告書では、特記仕様書、従来の図面の表現の部分的見直しと、従来一般的にはなかった計画・設計趣旨説明書、植栽将来目標図、植栽機能図、配植要領図、埋設施設重ね図、植物管理計画図などが提案された。
・さらに発注者、設計者、施工者が一堂に会し、背景や設計趣旨を確認し合う設計説明会の開催などが提案された。
・業態として設計と施工が分離する中で設計説明会が開かれたり計画概要書が作成されたりするようになったことは造園にとって大変望ましく、また画期的なことだ。

5. 成長する生き物を扱うこと

・造園は、植物という形状・寸法が変化していく素材を扱う唯一の建設業である。その造園工事では工事完了時には未完成であることが多いにも関わらず、従来の実施設計図書には生育後の目標となる状態は示されることがなかった。
・そのため引き渡された管理担当者は、意図された目標状態を知ることなく管理作業を発注せざるを得なく、迷走してしまうことになる。
・また工事完了時の見栄えに対する要求から密度高く植栽され、時間と共に薮と化したり、強引な剪定で無残な姿となったりしている例が見られる。このような好ましくない実態は、造園界が自らすみやかに解決する必要がある。

6. 誘導管理と計画的密度管理

・造園は他の建設業とは異なり、工事が終わっても完成していないことが一般的である。すなわちある完成を目標とした誘導管理の過程を確立することが必要だと考えられる。
・誘導管理段階では活着のための養生管理と目標状態に向けての育成管理が主体となる。そのとき少なくとも養生管理は施工時の状況がわかっている施工者が引き続き行うシステムとすべきである。
・目標状態に達した後は維持管理段階となり、ここでは抑制管理と密度管理が主体となる。
・成長を期待する植栽計画、建設、管理においては、①目標状態を設定する。②植栽時は若木のため、まばらな空間である。③まばらな空間のバランスをとるため、将来撤去を予定する樹木による補助植栽を設定する。④計画的な撤去と適切な管理によって誘導していく。⑤目標状態に達したら適切な維持管理を行う、という手順を明確に意識すること、確実に実施することが必要だと言える。

7. 造園における管理の重要さ

・誘導管理は目標とする空間を完成させるための非常に重要なプロセスとして考えなければならない。その実現のためには空間のバランス等を意識した誘導管理計画が必要である。そしてその内容を数十年にわたって管理担当者に継承していく必要がある。
・管理台帳の適切な整備のために、都市基盤整備公団には従来の情報のほかに団地の植栽の個別の役割、目標状態、目標寸法、現在の管理段階（育成、抑制、再生）、優先度などを記入した台帳を作成することを提案し、試行されつつある。
・樹木を目標に向けて適切に成長させ、抑制し、場合によっては再生させるために樹種特有の樹形、萌芽力、枝の出方、剪定が与える影響などについて新たな視点で把握し、剪定技法と併せて改めて体系化する必要がある。
・本来あったすばらしい伝統的剪定技術を発揮することができれば、世界から注目される質の高い緑あふれる街の実現は決して夢ではない。

8. 性能規定化について

・建築基準法が改正となり性能規定が導入されることとなった。造園界でも早晩発注システムの見直しが検討されることになるだろう。移植について性能的表現をすれば、「樹形を保ちつつ 1 年後に健全な状態にある移植を行う」といったものになり、根鉢の取り方などは施工者の判断に任せるということになるだろう。
・またデザイン的要素のある造園においては、建築と同じようにデザイン的部分について責任をもって判断する設計者または発注者的立場の長けた人が意匠管理者として存在することが必要であろう。
・そして本質的なところをはずさないように性能規定と仕様規定をうまく組み合わせたシステムとすることが望まれる。

9. おわりに

・造園建設にかかわる個別の技術も大切であるが、それらが適切に発揮できるシステムや評価があってこそ生き生きと仕事をし、結果としてより望ましい空間の提供ができるようになるのではないだろうか。

（一造会広報部会長、執筆担当　黒子 典彦）

２０２３年の一造会総会は「仙台」です！

～第４０回全国都市緑化仙台フェア開催～

1.　仙台フェアの概要

今年、2023 年 4 月 26 日㈬から、6 月 18 日㈰まで 54 日間にわたり、「第 40 回全国都市緑化仙台フェア」が開催されます。

全国都市緑化フェアは、緑化知識の普及や啓発を通じ、市民と行政の協力により、幅広い都市緑化の推進を図ることを目的として、1983 年に大阪府で第 1 回が開催され、仙台市での開催は第 7 回目の 1989 年以来 2 回目となります。

今回の「仙台フェア」では、愛称を「未来の杜せんだい 2023 ～ Feel　green ！」とし、仙台市と公益財団法人都市緑化機構の主催で開催されます。

メイン会場は、伊達政宗像が建つ（2023 年 1 月現在、修復中）仙台城址の下で、昨年度に再整備された「①青葉山公園追廻地区会場」、今年度の河川工事で川に近づける遊歩道も整備予定の「②広瀬川地区会場」、そして対岸で、同様に昨年度から整備されている「③西公園南側地区会場」の 3 か所です。

また、まちなか会場として「仙台駅ペデストリアンデッキ、定禅寺通、青葉通、宮城野通」、東部エリア会場、連携会場等があります。

仙台フェアは、開催 3 年前の 2020 年 6 月に「全国都市緑化仙台フェア基本構想検討資料作成業務委託」のプロポーザルが行われ、仙台市内の造園コンサルである㈱環研と千葉、山形、群馬、東京の緑化フェア設計の実績を持つ㈱ライフ計画事務所の JV が選定されました。基本構想では、涌井史郎委員長（東京都市大学特別教授、一造会顧問）のもと 3 回の検討会が開催され、翌年の基本計画を経て 2021 年に同実施設計のプロポーザルが行われ、引き続き同 JV が選定されました。

また、2021 年 5 月には、宮城県造園芸協同組合、㈱仙花、（一社）宮城県造園建設業協会、宮城県鉢物

仙台フェア ロゴマーク

仙台フェアメイン会場の鳥瞰図（イメージ）
仙台フェア HP より　https://sendai-feelgreen.jp

仙台城址から臨む追廻会場（整備中）

市民による球根播き

植え付け 2022.11.19

生産組合、（一社）日本造園建設業協会宮城県支部からなる「全国都市緑化仙台フェア植物調達協議会」（石出慎一郎理事長、一造会東北・北海道支部長）が設立され、フェアで使用する花卉を中心とした植物の生産委託、調達、施工等を行っています。

植物調達は、通常の緑化フェアでは、園芸関係の組合関係者で調達協議会を形成されますが、仙台は、市場や施工関係の方も合同の協議会を作られました。

2.　会場の概要

メイン会場の青葉山公園追廻地区会場には、片倉小十郎屋敷跡に建つ公園センターの機能を持つ仙臺緑彩館（建築面積約2600㎡）が昨年３月に新設されており、緑化フェア時は総合案内や屋外出展・展示室として利用されます。また、外構の「もりの庭園ゾーン」も公園整備として作られたものですので、まだ整備したばかりですが、仙台市博物館にある仙台市指定有形文化財の残月亭（旧姉歯家茶室）を移築したほか、雨庭等も工夫されています。

緑化フェア会場整備としては、公園の再整備計画に基づき、芝生広場や園路、駐車場を活用したゾーニングを計画し、緑化フェアとしての様々な機能、展示、修景等を配しています。

「杜のリビングガーデンゾーン」は、仙台に今でも残っている居久根（イグネ）を５つの庭園で展開し、「イグネのある暮らし～みどりの幸せライフスタイル～」をテーマとし、地元の造園関係の方々を中心に設計・施工していただきました。

その隣の大きな花壇は、仙台の七夕をイメージした大花壇「はなばた飾り」です。11 月に市民の方に球根播きに参加していただき、一部は花苗も植えていただきました。春も４月１日に市民の方々に植え付けをお願いする予定です。

その奥には、「人が輝くグリーンライフゾーン」として、市民や企業の方々、自治体の方々による出展庭園・花壇があります。園路が少し複雑な形をしていますが、仙台フェアのロゴマークを模して作ったもので、その中に庭園や花壇を配置しています。

この会場は仙台城址の下ですので、仙台城址から見ていただくと写真のように眺めることができます。「はなばた飾り」や「人が輝くグリーンライフゾーン」はぜひ上からご覧ください。石出支部長がドローンで途中経過を撮影していますが、ここではあえて掲載しません。実物をご覧ください（残念ながら行けない方は、HP 等参照です）。

また、広瀬川対岸の西公園には「水辺のテラスゾーン」と「グリーンアクティビティゾーン」があります。グリーンアクティビティゾーンは、もりのアスレチックとしてフォレストアドベンチャーが設置されますが、この一角で、ツリークライミングを行います。金子が最初に現地に行ったとき、森田一造会教育訓練センター長に即電し、写メを送って相談させていただきました。

3.　2023 年　一造会総会会場

まちなか会場の西側寄りにせんだいメディアテーク（伊東豊雄氏設計）があり、会議室にて総会が開催されます。建物から定禅寺通を眺めていただくと、ケヤキ並木と緑化フェアで装飾された花々が新緑に彩を添えています。今まで、渋谷周辺やエコグリーンテック、日比谷公園等での市民交流会と重ねて開催してきた総会ですが、今年は仙台で開催します。そして、石出東北・北海道支部長はじめ、仙台市の会員の方々が頑張っている全国都市緑化仙台フェアを是非ご覧ください。

（一造会副会長　金子 隆行）

令和４年秋の黄綬褒章受章おめでとうございます

一造会から卯之原昇フェローと久郷愼治広報副部会長が受章

令和４年秋の褒章受賞者が令和４年10月21日の閣議で決定され、大臣官房人事課より令和４年11月３日付けでプレスリリースされました。国土交通省関連では70名・11団体の受章が決まりました。

我が一造会の関係者では、フェローの卯之原昇氏と広報副部会長の久郷愼治氏がめでたく黄綬褒章を受章されました。一造会としても誠に喜ばしいことであり、心よりお祝い申し上げます。受章者概要は下記のとおりです。

令和４年秋の褒章受章者概要（一造会関係者のみ）

	氏　名	年齢	主要経歴	功績概要
黄綬褒章	卯之原 昇	73	㈱昭和造園 代表取締役社長 （一社）日本造園建設業協会 理事	業務精励 (造園工事業)
黄綬褒章	久郷 愼治	69	㈱久郷一樹園 代表取締役社長 （一社）日本造園建設業協会 理事	業務精励 (造園工事業)

受章後、お二方からそれぞれごあいさつ文をいただきましたので掲載いたします。

卯之原 昇 氏（一造会 フェロー、株式会社昭和造園 代表取締役社長）

この度、一般社団法人日本造園建設業協会の推薦をいただき、令和４年秋の褒章において、「黄綬褒章」をいただくことが出来ました。これもひとえに、長年にわたり私を支えていただいた造園関連業界・協会関係者の皆様のお陰と感謝し御礼申し上げます。

一造会とのかかわりは、昭和63年の設立当時から幹事として活動に参加したことが始まりです。当時、発注者と一緒に開催した研修会や講習会で学んだ知識や技術のレベルは高く、自分の未熟さを痛切に感じたことを思い出します。苦い思いをした一方で、多くの技術者仲間との交流は、大変楽しいひと時でもありました。第１回「米国西海岸の都市と造園事情」（参加者39名、10日間）と第６回「米国南部の都市開発と造園事情」（参加者20名、10日間）の両視察研修会に参加し、初めてのアメリカで、見るもの聞くものがすべて珍しく、収穫の多い忘れられない研修となりました。帰国後も長年にわたり参加者が集い、当時の思い出を語る会も行われた有意義な研修でした。

一造会は、官民の垣根を超え「1級造園施工管理技士」であれば全国の誰でも入会が出来、会員の決定で様々な活動が無限に出来る魅力的な会です。今後も、全国造園技術者の会として、技術の研鑽や地位の向上とともに業界他団体との連携を深め、会員相互の交流、情報交換の輪を広げ発展していくことに期待しております。

久郷 愼治 氏（一造会 広報副部会長、株式会社久郷一樹園 代表取締役社長）

この度、はからずも2022年秋の褒章において、黄綬褒章を受章させて頂きました。県内の造園業界を代表して10年ぶりに頂いたものであり、同業の皆様と共に喜びを分かち合える事が何より嬉しく思います。

顧みますと造園工事業に従事し45年余り経ちますが、この間多くの諸先輩や同業の皆様に永年にわたり温かいご指導とご支援を頂いたお蔭と深く感謝しております。これからもこの受章の栄誉に恥じることのなきように、日々精進して参りたいと考えております。

何より育てて頂いた業界への恩返しでもありませんが、様々な機会を通じ、技術や技能の伝承や若手育成に力を尽くしたいと思います。現在も富山市にある大工や庭師を育てる全国でも珍しい専門学校「職芸学院」で、1996年の設立当初より教授として庭師の育成にあたっています。また、職人の高齢化や若手入職者の減少は地方では特に深刻で、数年前より地元の農業高校へ出前授業を行っています。高校で造園だけでなく農業や園芸を学ぶ生徒にも造園の仕事と魅力を紹介し、職業選択の一つとなる様に働きかけています。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

お知らせ

「2023 年今年期待の造園人」に武内将司氏

総合力において今後活躍が期待できると選出

2020 年から実施され、「新年造園人の集い」で発表される「今年期待の造園人」は、2022 年 12 月 20 日に行われた選出委員会で、2023 年として 7 名の造園人を選出した。

新型コロナウイルス感染拡大防止から、一昨年に引き続き中止となった「新年造園人の集い」での発表はできなかったものの「2023 年今年期待の造園人選出事務局」の設置された（一財）日本造園修景協会のホームページ（http://www.j-la.jp/sinnenzouenjin/index.html）で概要が紹介されている。

なお、「今年期待の造園人」の対象者は 45 歳以下で、造園人に関係する緑・公園関係団体等をはじめ、広く公募され、選出委員による第一次、第二次選定によって選出された。

2023 年今年期待の造園人

氏名	業績等（武内将司氏以外は抜粋）	勤務先（所在地）
武内　将司 （たけうち　まさし）	令和 4 年「一造会大賞」において、「地域との繋がりを目指した取り組みと施工にあたる課題対策と小さな工夫」により最優秀賞である大賞を受賞した優れた造園技術者である。また施工技術が高いだけでなく、多くの課題解決、多数の人が関わりながら考えられるリスクを排除するための擦り合わせなどを行い、妥協せず最善の方法を検討し、施工中も細部まで臨機応変に対応されるなど、大変困難な現場においても強い意志の下、目的を達成し完工させたことが高く評価されるなど、今後活躍が期待できる造園人である。	㈱石勝エクステリア （東京都世田谷区）
井野　貴文 （いの　たかふみ）	造園学及び建築学を学んだ後に造園設計事務所へ入社し、クライアントや建築家、各種専門家との関係づくり、協働に取り組み、高い評価を得ている。造園学会サマースタジオ、ＣＬＡにおける技術委員としての活動の他、JLAU 観光部会の中心メンバーとして社外活動にも積極的に取り組んでいる。	㈱グラック （東京都中央区）
島田　遥 （しまだ　はるか）	全国都市緑化信州フェアで実施された「女性技術者造園技能競技大会」（平成 31 年）では金賞（第 1 位）を受賞。平成 28 年には優秀な技術技能や施工実績、将来性が評価され国土交通省「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰」を受賞した。また（一社）日本造園組合連合会の作庭事業等に積極的に参加して造園の魅力を情報発信し、同連合会滋賀県支部長として業界の振興に取り組んでいる。	庭や遥 （滋賀県草津市）
丸山　幸 （まるやま　みゆき）	熊本市において造園設計事務所を主宰。2022 年第 38 回全国都市緑化くまもとフェアにおいては、ニコライ・バーグマン氏監修の街なか花壇の設計に携わり、花卉事業者など多数の関係者との協働のもと、熊本城へと続くシンボルプロムナードを鮮やかにデザインし、CLA 賞 2022 年調査・計画部門　特別賞を受賞している。	㈱大揮環境計画事務所 （熊本県熊本市東区）
椎名　春菜 （しいな　はるな）	長野県安曇野市にある（一財）公園財団アルプスあづみの公園管理センターに勤務し、希少生物の持続的な発生が可能な場所として、国、自治体及び昆虫の専門家等の協力を得てビオトープづくりに着手、その過程で市民参加の生き物調査を実施し安曇野市では 90 年振りの発見となった市の絶滅危惧種である「クロゲンゴロウ」をはじめ、各種の希少生物の生息を確認するなどの成果を上げている。	（一財）公園財団 アルプスあづみの公園 管理センター （長野県安曇野市）
丹部　一隆 （たんべ　かずたか）	ライプニッツ大学ハノバー・ランドスケープ大学院（2016 ～ 2019）を卒業後メッシュ景観設計事務所を東京とハノーバーで設立し、日本及びドイツ両国で多くのランドスケーププロジェクトの実務に従事し、日独両国で庭から都市計画にいたるまで様々なスケールにおけるランドスケープの設計を実践している。	メッシュ景観設計 事務所 （東京都練馬区）
石川　啓貴 （いしかわ　ひろたか）	国土交通省職員として 2027 年開催の国際園芸博覧会の準備・運営体制整備等に携わり、2027 年国際園芸博覧会協会設立、BIE（博覧会国際事務局）への申請準備、国際園芸博覧会の準備及び運営に必要な特別措置法の公布・施行や 2022 年 11 月 BIE 総会における開催承認に事務局のリーダー的な役割を果たしている。	国土交通省都市局 （東京都千代田区）

一造会に深いご縁のお二方がご逝去

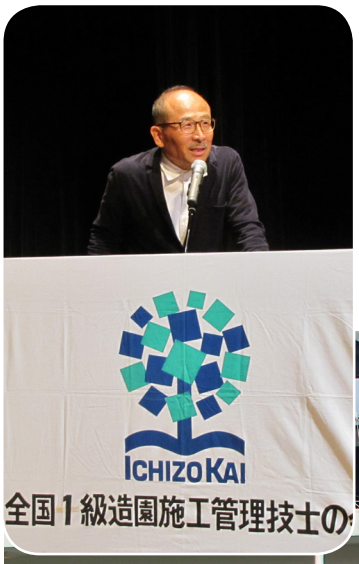
相談役の大平暁氏、多大なご協力得た稲田純一氏

一造会相談役　大平 暁 氏（元㈱箱根グリーンエンジニアリング代表取締役）

一造会座談会での大平暁氏（21 号）

2022 年 11 月 7 日　午前 9 時 20 分にご逝去。享年 90 歳。老衰で特に苦しまれることもなく息を引き取られたとのこと。コロナ禍のため、告別式のみ 11 月 14 日㈪午前、江古田斎場にて執り行われた。一造会では副会長として会を牽引され、会社に造園関係書籍や専門書をを揃え、茶道を学び、露地を手掛けるなど、知識と実践を貫き、日本庭園協会の広報委員長としても活躍された。

稲田 純一 氏（㈱ウイン代表取締役、シンガポールの「ガーデンシティ」政策を担ってきた）



2022 年 12 月 5 日　午前 9 時 20 分、胆管がんで療養中のところご逝去。享年 71 歳。故人の遺志により葬儀は近親者のみで執り行われた。一造会では、これまでにない 3 年連続のシンガポール視察の事前勉強会からご対応いただき、第 12 回市民と造園家の交流会では基調講演をいただいた。一造会初代会長の故・成家次男氏とも親交があり、一造会とのご縁が深く、その見識と実践、熱意、明るく励ましてくださる優しさが忘れられない。

市民交流会で基調講演を行う稲田氏（左上）と、シンガポール視察では、現地でお会いして記念撮影も。一造会旗の中心が稲田氏

コラム　オピニオン

どうする、一造会の会員

1 億人の貧乏人と、1 千万人の富裕層の二極化

高城 雄三（㈱ CSS 技術開発 創業者・元社長）

昨年の一造会会報に 1 回目の投稿をさせていただきました。土木・建築に比べて仕事の効率化と技術開発の遅れが著しいため低賃金の造園業界ですが、案の定投稿に関して大きな反響もなく予想通りでした。

20 年、30 年後に到来するであろう 1 億人の貧乏人と、1 千万人の富裕層の二極化の時代に低所得と低年金で働き続けないといけない人生にならないために若いうちに考えてみようではありませんか。

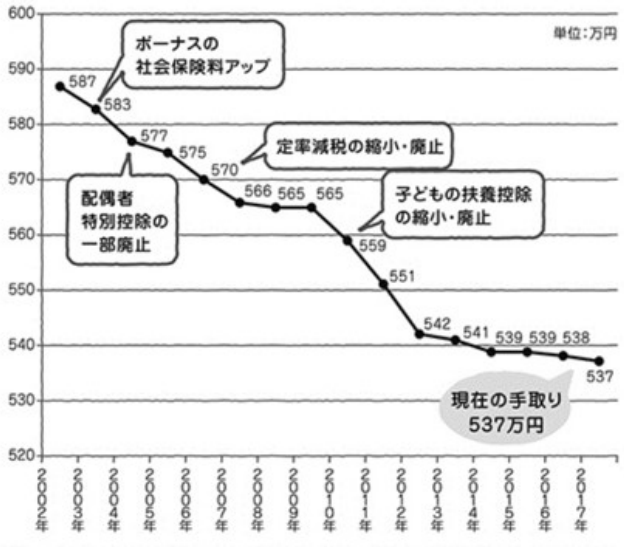
あなたが 1 億人の貧乏人の 1 人になる理由

過去 20 ～ 30 年で給与所得は横ばいか下がっています。しかも、その期間に消費税・介護保険・震災復興税の新設で手取りは激減し、頼みの年金は増税と支給年齢の先送り（未定・70 歳）にして減額になっています。

あまり知らされていませんが、厚生労働省は今後 25 年で支給 (所得代替率) を 20% 減額予定なのです。これで生活出来るのでしょうか。直近の年金支給額は男女平均 14 万 4 千円と発表されました。

しかし、この金額が手取りではないのです。 ここ

給与の額面年収700万円の手取り推移



※40歳以上で専業主婦の妻と15歳以下の子どもが2人いる会社員の例。健康保険は協会けんぽ加入として試算
©試算及びグラフ作成　深田晶恵

手取りは15年間で50万円減っている！

※ 出典 DIAMOND ONLINE

※ 筆者 高城雄三氏 紹介

年収の増加以上に、手取りは増えない実態

Money & You

年収	手取り	控除額の内訳			控除額計	年収増加額	手取り増加額
		所得税	住民税	社会保険料			
300	235	5	12	48	65		
400	312	8	18	62	88	100	76
500	387	14	24	75	113	100	75
600	458	20	31	92	142	100	71
700	524	30	38	108	176	100	67
800	588	45	45	121	212	100	64
900	656	63	54	127	244	100	68
1000	722	82	64	132	278	100	66
1100	786	101	73	140	314	100	64
1200	850	123	83	144	350	100	64
1300	912	145	92	152	388	100	61
1400	966	177	101	156	434	100	54
1500	1,018	207	110	165	482	100	52
1600	1,072	238	120	169	528	100	54
1700	1,127	270	130	174	573	100	54
1800	1,184	303	139	174	616	100	57
1900	1,241	336	149	174	659	100	57
2000	1,297	369	159	175	703	100	57

Copyright © Money & You Inc. All Rights Reserved.

※出典 Mocha (モカ)

から所得税・介護保険が差し引かれるので実質 13 万くらいになります。使う時は消費税がかかります。どうすることもできないくらいサラリーマンは痛めつけられているのです。

一造会の人たちの 30 ～ 40 年後の生活は想像できたと思います。

そして、会社の姿勢にも一言。 新卒の募集要項を閲覧すると初任給22万前後の数字が多くみられます。

新卒者から見るとどの会社も横並びの数字だと違いがわからないし、やる気を感じません。もしも、26 万なら会社の期待度が新卒者に伝わり、会社も 26 万にふさわしい技術を早く習得するよう研修するでしょう。技術を習得して仕事ができるようになれば給与が上がりやりがいが出てきます。社員の定着率も大変よく、技術が蓄積されて安定した会社になると思います。

さて、それではどのような働き方があるか考えてみます 。

1. このままサラリーマンを続ける
2. 一念発起して起業する
3. 賃金の高い海外で仕事をする
4. これからの時代に伸びるであろう業界に転職する
5. フリーランスで働く
6. 一年中仕事がある土木会社に転職する

1. このままサラリーマンを続ける

どうにもならない未来を考えすぎるより 30 ～ 40 年間、楽しく働いて和気あいあいと家庭生活を送れれば退職後のことはその時になって考えようと思う人が大部分ではないかと思います。悩んで寿命を縮めたり、人生が楽しくなくなるよりは良いかもしれませんね。

2. 一念発起して起業する

一念発起して独立してみたい夢は誰もが思うことですが、営業はできるだろうか、資金は足りるだろうか、技術は通用するだろうかと考えるといくつも不安が出てきて普通は諦めます。

しかし、中にはこの仕事を天職と思い、がむしゃらに働き技術や知識を習得していつかは起業を目標にしている人もいます。きっかけと決断ができれば起業するでしょう。いきなり起業するとリスクが大きいので先ずはネットを利用した副業から始めるのが安心かと思います。

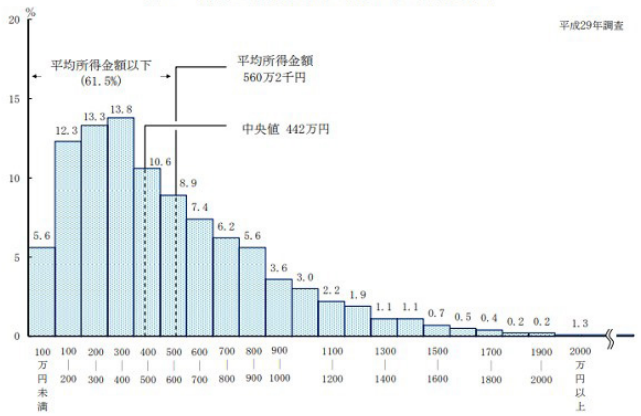
いよいよ起業しても初めの 2 ～ 3 年は資金繰りや営業に苦労するでしょうが徐々に慣れてきます。5 年持てば 10 年持つとも言われています。しかし、起業した会社は 5 年以内に三分の一に減っていて厳しい世界です。若ければまた挑戦できます。成功した人にはご褒美と更なる夢が待っています。

3. 賃金の高い海外で仕事をする

20 ～ 30 年前、外国から日本に出稼ぎに来る人が後を絶たない時代がありました。この 30 年間、日本は給与が変わらず外国は 2 倍以上になった国はいくつもあります。その為に日本に出稼ぎに来ていた人たちは給与が 2 倍以上の国に行くようになったのです。

例えばオーストラリア・カナダ・ニュージーランド・イギリスなどはワーキングホリデーを利用して働き、日本でいるより 2 倍、3 倍貯金ができると言われています。しかも、その経験は将来に役立つでしょう。

図 9　所得金額階級別世帯数の相対度数分布



※出典 国民生活基礎調査結果の概要

4. これからの時代に伸びるであろう業界に転職する

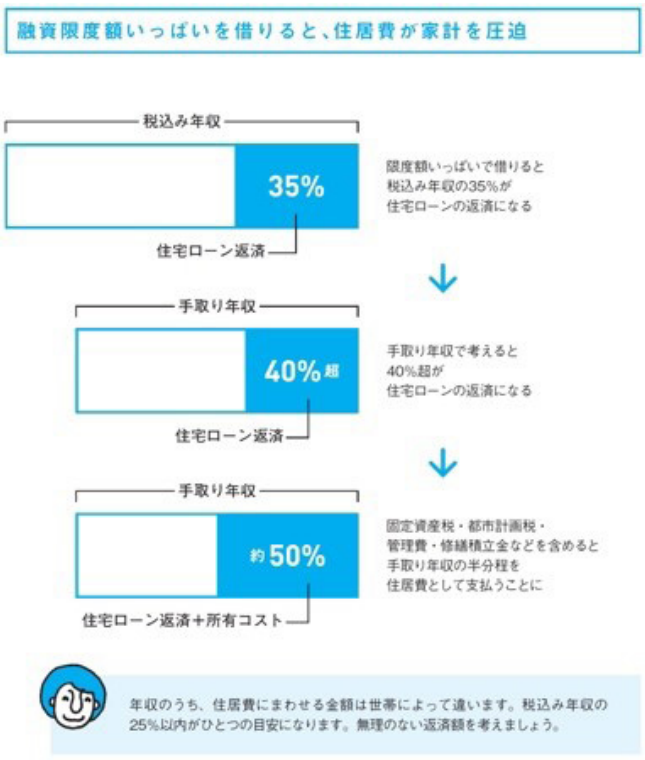
どの業界も成長期には活気にあふれ、10 ～ 15 年続いて安定期になり、その後は普通の会社になっていきます。過去には造船、不動産、化学、鉄鋼、家電、自動車、携帯、PC、海外旅行、鉄道建設、外食、電力、通信、ペット、金融などなど。そして今の時代の花形は AI、再生可能エネルギー、ゲームソフト、EV 自動車、宅配ビジネスなどです。

これからの未来に伸びる産業に就けば時代の先端を切り拓くことになりやりがいがありますが、10 ～ 20 年後に時代を変える産業を見つけ出すのは難しいですね。

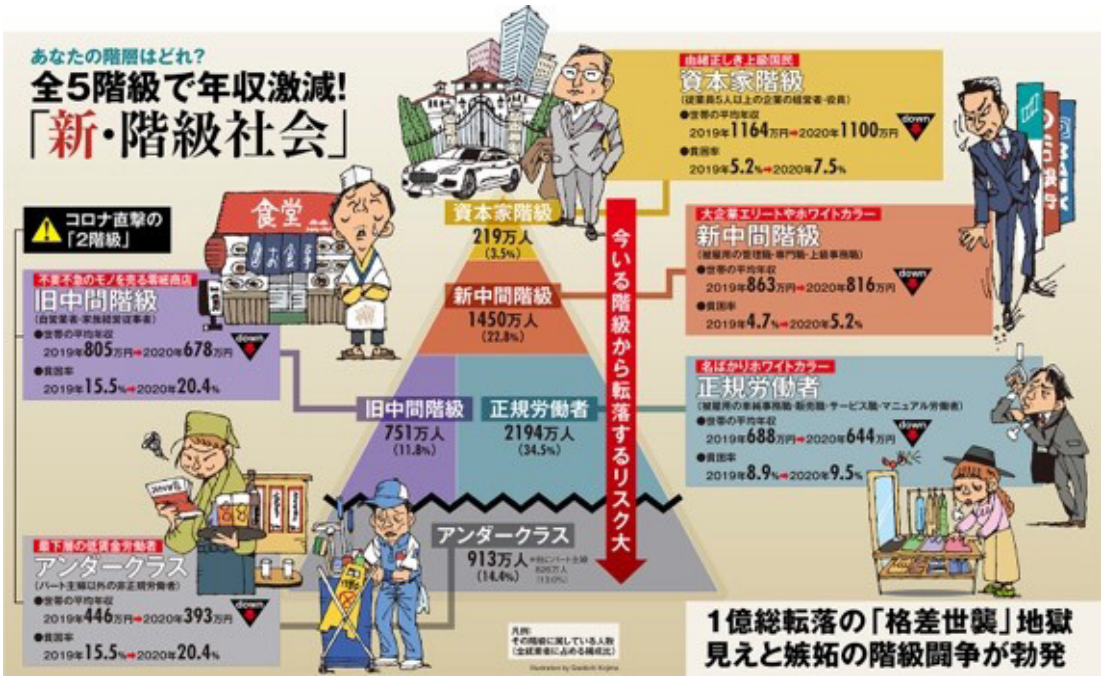
しかし、私が感じているものを少し紹介します。太陽光発電・風力発電の余剰電力を水素に変えて貯蔵する産業、さらに水素で発電する火力発電所・水素自動車、3D バーチャルリアルティのソフト関係産業、宇宙観光ビジネス、家庭用ロボット、AI 自動運転自動車などなど。

5. フリーランスで働く

相当な技術と経験がある人は次のような仕事を選ぶと収入が大幅に上がるでしょう。一企業に縛られず一



※出典 幻冬舎 GOLD ONLINE



※出典 oecd.stat より全労連が作成

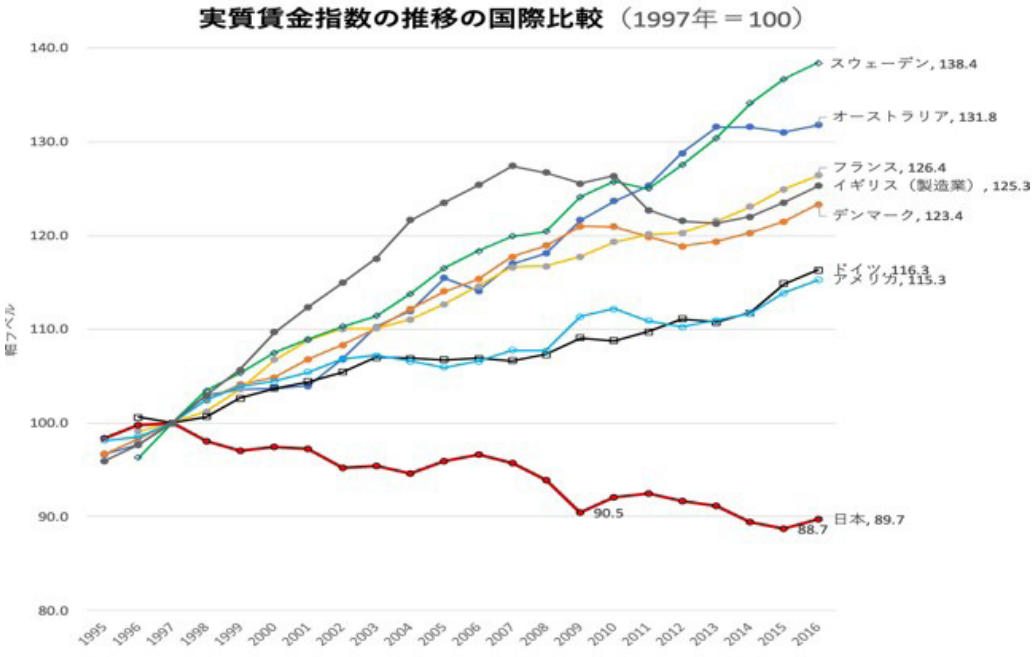
匹狼で条件のいい会社を見つけ工事物件ごとに契約するのです。丁張だけとか、書類も作成するとかで請け負えば良いと思います。造園工事だけをしていると夏場は暇になるので土木の仕事も覚えると、ほぼ一年中仕事は切れません。

6. 一年中仕事がある土木会社に転職する

造園工事は植栽を扱うので仕事は秋から春にかけてまとまって発注されます。土木は仕事の工種も幅広く、例えば道路工事、切削オーバーレイ、河川堤防、宅地造成、推進工事、下水道などです。一年中仕事がありますし、それぞれ必要な技術が違うのでスキルアップになります。

いかがでしたか？　みなさんに合った働き方がみつかったでしょうか。この中には無かったかもしれません。しかし、大事なことは考えることです。努力もせず現状を続けていると悲しい未来が待っています。どうか将来を見据えて今のうちに努力してください。

とはいえ、造園は造園なりにもっと進化して欲しいと思っています。仕事のやり方などを見直し、新たな技術を開発して付加価値を生み出し、産業界にインパクトのある革新をもたらす一造会会員が出てきて欲しいものです。そして造園業界が飛躍し、造園技術者がもっと豊かになることを願っています。



※出典 oecd.stat より全労連が作成

楽しい雑木林

砂漠緑化の夢の果て

中島 洋一（東邦レオ㈱）
★一造会会員

昨年W杯がカタールで行われ、サムライ JAPAN の応援で一喜一憂された記憶が皆さんにもあったかと。その隣国で約 40 年位前にアラブ首長国連邦で 1300ha（甲子園球場 338 個分）の砂漠地で植林活動を 4 年間行ったことを思い出し少しだけお伝えしたいと思う。

現地では井戸を掘削し灌水装置を敷設後、7m ピッチに数万本のアカシア系の樹種を苗木から植え付けた。夏場は昼間 50 度近いために朝方と夜間に作業を行い、昼は昼寝という過酷な仕事であった事を思い出す。自分では遠い過酷な仕事ではあったが、40 年後の植林がどうなったのか？いつかは見てみたいと思っていた。

昔は郵便で一ヶ月掛かっていた時代。それがインターネットで何でも調べられる時代に。

40 年前には想像も付かなかった「GOOGLE EARTH」で探すと植林した場所が簡単に見つかった。その後 FACEBOOK で、その頃に一緒に働いた技術者を探すと偶然に繋がり、現地で仕事をしているとの事。そして現地を案内して貰えることになった。それから数年程時間を有したが、2018 年に妻と共に現地に降り立つ事ができ、友人にも再開することができた。

40 年後のアラブ首長国（アブダビ）は、大きく変わり高層ビルや近代化した町並みに驚いた。翌日友人の車で現地まで案内して貰った。自分たちの植林地はどうなったのか？

車窓からの眺めは昔の風景とは少し違った。近代化された高速道路や高級車に紛れて市内から 3 時間程で現地に着く事ができた。友人は 3 年前までは植林局の役人であった。

現地の樹木は 5m ～ 10m 程で育っていた。ただ日本のように大きくはなっていない…。

友人の話からは、現在植栽された植栽地は民間の管理会社に運営が変わり政府直轄から民間に変わり、管理費

点滴灌水と植物

植栽地全景（左側の黒い点が植栽）

「Google earth」からみた植栽地

拡大した植栽地

40 年後の林

の低減を図られたとの事。一番の経費低減は石油より高価な水を減らすことで管理費の低減を図り、民間の管理会社はこれで経営を調整しているようだ。

その結果、大きくなった樹木は切り取られたり、潅水頻度を減らされたりして、徐々に樹勢が弱くなり、枯れたりしているようなところも見受けられた。元役人の友人と私が訪問した際も、現地サイトに視察に入る事は許可が下りなかった。前大統領シェーク・ザィードが、「土から得た利益は土に返す」という理念から始まったこの活動は、前大統領が亡くなり次の指導者から、砂漠緑化の目的は大きく変貌している（40 年前に植栽したことでの微気象の緩和の効果はあったと聞いている ‥‥）。

自分が、昔取り組んだ植栽。これを見届けることが今回の訪問の目的であった。大きな森にはなっていなかったが、やり遂げた足跡は見つかり懐かしい友人にも会うことができた。

以上。

40 年振りに再開した友人（左）と

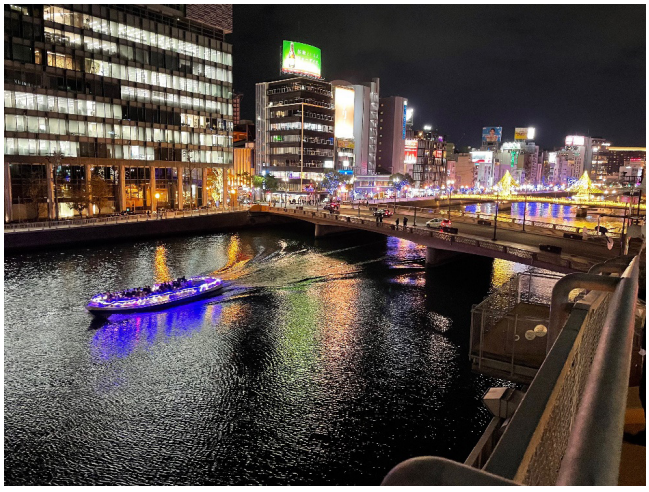
楽しい雑木林

視察研修を終えて

横濱 紫穂（仙台市建設局 百年の杜推進部 公園管理課 公園マネジメント係）
★一造会会員、一造会「京都庭園巡り」にも参加

私は今の職場で公園整備の予算管理の主担当で、日々エクセルとにらめっこをしている状況ですが、造園職である本分を忘れないようにということで（気分転換も兼ねて）今年度、他の自治体への視察研修に行ってきました。他の取り組みを知ることで、仙台市との比較となり有意義な研修でしたので、気づいたところを少し書いてみようと思います。

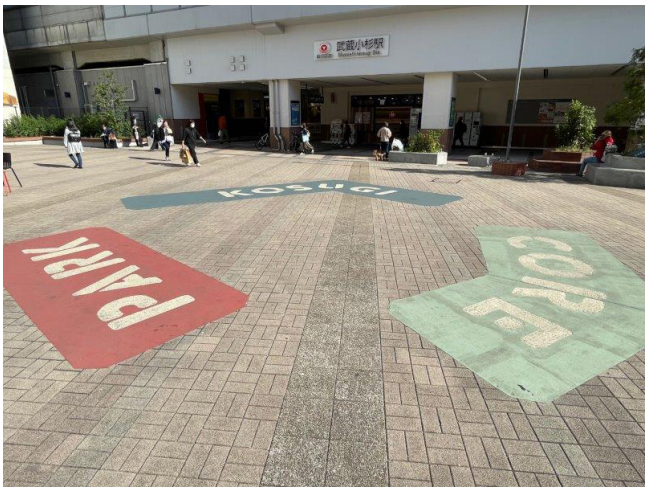
最初は福岡市へ。到着後真っ先に行ったのは、とんこつラーメンのお店でした。東北ではあまり見ない細ストレート麺でとても美味しかったです。その後は市役所の周辺を散策。天神中央公園や警固公園は、平日の日中にもかかわらず、公園でくつろぐ人が多かった



水上公園からの景色（すごい明るい！）

です。商業施設や駅と公園との距離が近く、非常に利用しやすい距離感であると感じました。警固公園では、地形の段差を活かし、土留めとベンチを兼ねた形となっており、たくさんの人が集まりやすい公園になっているように思いました。また、夜には、博多・天神・中洲いろいろなところでイルミネーションが始まり“とても明るい街”という印象でした。視察では、公民連携の事例として水上公園を視察させていただきましたが、公園内にお洒落でかっこいい店舗が設置され、訪れたくなる公園でした。

福岡市の次は、東京豊島区へ。公民連携事例で非常に有名な南池袋公園とイケ・サンパーク。こちらも素敵なカフェが設置され、芝生広場でゆっくりしつつ、様々な利用ができる空間でした。多くの利用者がいるほど、芝生管理は難しいと思いますが、養生もしっかり行われており、管理手法が整理されていることが重要だと感じました（仙台市管理では芝生広場が数年で雑草広場に…）。イケバスに乗りつつ視察後も、近くの街区公園へ。２都市を見て思ったことは、公園の出入り口の車止めの間隔がとても狭い！ということ。子供の飛び出し防止や自転車の進入禁止ということだと思いましたが、人も隙間から入る感じで、仙台では見ない光景に少し驚きつつ、仙台の公園にも良いところがあり少し嬉しさを感じたところでした。



舗装に公園名を記載　「こすぎコアパーク」

最後の視察は川崎市へ。こちらは公民連携の新しい制度を活用した公園であるこすぎコアパークを視察しました。駅に直結した場所で、あまり大きくないものの駅前広場としての機能を持たせた新しい公園でした。民間施設として焼鳥屋さんが入っていたのも、駅前の利用に合っているのかなと思いました。

視察をとおして、民間と役所の取り組みがうまく交わることで、街の人の流れやにぎわいに大きく影響するものと感じました。仙台市では、古くからある街のみどりを守ってきたことから、他の都市にはない“みどり”を活かした新たな公民連携を考えていきたいと感じました。

楽しい雑木林

伝えるということ

伊賀 満治（香川県立高等技術学校 高松校 造園科 指導員）
★一造会会員、造園の最新技術や知識を学び訓練生への指導に生かすべく入会

私には霞ヶ浦近くの小さなサーキットを走っていた時期があります。月に一度のイベントで、主催者のNさんは国際A級ライダーでした。小さなコースなのでスピードはそんなに出せません。大型バイクだと1速、2速しか使うところがないです。ホームストレート120 m。最終コーナーをぐーっと我慢し1速で立ち上がったら全開で加速。2速に入れたらもうフルブレーキング、倒しこんで1コーナー進入、それから4つくらいコーナー回って最終コーナーに戻ることの繰り返し。1周30秒位。最初は数周でへとへとになりました。大きなサーキットの長いストレートは、スピードは出るけれどライダーが休めるポイントでもあると

最終コーナーで我慢している私（笑）

卒業制作庭園施工時の指導の様子

聞きます。しかし、このサーキットにはそれが無くキツかったです。

当時「コソ練」という言葉がありました。仲間に黙ってコッソリ一人でコースに練習しに行くのです。月一の本番で勝つために、私も平日有給をとってコソっと行きました。「コソ練」ではよく転びましたが運よくケガはありませんでした。朝イチのフリー走行の時、主催者Nさんは土手の上から私たちがグルグル走るのをじっと観察していて、休憩のときにピンポイントでアドバイスをくれます。それは的確で、私もだんだん速く、かつ楽に走れるようになっていきました。

今、私は指導員という仕事をしていて、アドバイスの難しさを日々感じています。Nさんのように、とにかく走らせてみて、足りていないところをぽつっぽつっと芯を食った指摘をするというのが究極の実技指導なんだろうと思います。それまで漫然とバイクに乗っていたものが、ここに通ってみていろんなことがわかってきました。それは、公道よりコースのほうがはるかに安全なこと、フロントがすべったら私のレベルでは終わりであること、その上でのブレーキングの限界やリヤのグリップを下半身で感じること、楽しくない時は遅いしコケることなどです。私は少しマトモに走れるようになり29秒台前半が出るようになりましたが、サーキット仲間のK氏は27秒で走るため誰も追いつけず帝王Kと呼ばれていました。しかしNさんは言いました。「Kは速いがオマエらと同じ領域だ。そっからだいぶ上らへんにオレがいて、その少し上にモトGPのやつらがいるんだ」と。下のほうからでは全然見えないプロとアマの絶対的な差を知りました。実際、Nさんのタイムは25秒台でした。

Nさんの「少し」の言葉で私は急に速くなりました。「少し」ってところがミソなのです。圧倒的な技量をベースに観察し、ポイントだけを最小限の言葉数で伝える。これは刺さります。その後は本人の練習で身につく。私は造園の世界でNさんのような高いところにはいませんが、指導員を続ける以上は腕を磨き続け、学び続けないといけないと思っています。訓練生は人生の転機に入校してきます。かつて自分がそうであったように。今後は、私なりに造園の楽しさやコツを刺さることばでNさんのように伝えられたらいいと思っています。

卒業制作庭園（完成）

わたしの現場

三村 佑美佳
（みむら ゆみか）
㈱石勝エクステリア
●年　齢　29 歳
●血液型　A 型
●樹　形　H=1.64m　C= 秘密
●趣　味　旅行・ダイビング・ゴルフ・スノーボード
●好きなアーティスト　kojikoji

石勝エクステリアに入社しもうすぐ満 6 年になります。新卒配属当初は営業部でしたが、ジョブローテーションで今は緑地管理部に在籍しています。緑地管理部での日々は机上で勉強していたことが現実に発生し、教科書を参考にした処置でうまくいくこともあれば、うまくいかないこともあり、植物は本当に奥が深いなと感じる日々です。

弊社の緑地管理部は提案から現場管理まで一貫して現場担当者が行っています。そんな緑地管理部の醍醐味は、人との関わりが多く、お客様の困りごとが発生した時に実際に手を動かして解決出来ることにあると思います。お客様から直接話を聞いて、実際に現地を見て解決策を提示し解決することにやりがいを感じます。

最近でいうと、「マンション保有の森」の管理手法についてお客様と一緒に考えました。理想の森の姿をお客様と設定し、現状から理想の森に向けてどのような作業を組むか、お金の試算など、今までの経験をフル活用するような案件を担当しました。まだ実際の管理作業は始まっていないので、これからどのような森の遷移が起きるか楽しみです。

造園の仕事は、「なぜ？」が大量発生し、大変な職業であると思います。生き物だからこそ、良くもなるし悪くもなる、大きい可能性を秘めている業種でもあると思います。弊社創業者の涌井史郎が「景観十年、風景百年、風土千年」と提唱していましたが、自分の考え方が将来の風土を変えることを自覚し、造園人として日々研鑽していきたいと思います。

俺の現場

遠藤 賢一
（えんどう けんいち）
むつみ造園土木㈱

●年　齢　45 歳
●血液型　A 型
●樹　形　H=1.86m
●趣　味　各種格闘技観戦・ビール・料理（つまみ）
●好きなアーティスト ELLEGARDEN（No.13）

2000 年に会社に入社してから、造園・土木の現場で経験を積み、ここ数年は公共工事の現場代理人兼監理技術者として現場の運営を行っています。

年を重ねるごとに複雑化して困難な現場が続いていますが、発注者からの要望・期待に応えるべく、設計内容の精査を行い、現場との相違部分の解決策については、現場を走らせながら内容を決め、発注者・受注者の互いにとって有益となるよう交渉を行うことを心掛けています。施工規模が大きいと、書類の作成、段取り、施工管理と何役もこなさなくてはならず苦労はありますが、完成した時はがんばった分・汗をかいた分だけ喜び（利益を含めて）があると思います。

各現場で数多くの協力業者・職人に教えられ、支えられながら仕事をしてきましたが、入社して一から教

カルバート用鋼管杭打込みの様子（石巻南浜地区植栽施設工事）

門型カルバート据付けの様子（石巻南浜地区）

石巻南浜津波復興祈念公園施工後の全景（当公園の一部を弊社で施工）

元請として施工した南三陸町松原公園の全景（その 1）

南三陸町松原公園の全景（その 2）

南三陸町松原公園の全景（その 3）

南三陸町松原公園の初来園者

えられ、自分を育てていただいた信頼のおける親方の一人が 2 年前に亡くなり、大きなショックを受けました。亡くなる前の最後の現場で、「お前の現場に来ると安心できる」という言葉をいただき、今も励みになっています。

現場の段取りは、協力業者に無理・無駄・ムラのないよう自分で行ったものでも現在進行形のものでも常に疑い、もっとより良い方法がないかを考え、ベストな選択をできるようにいろいろと考えるようにしています。どの協力業者・職人からも変わらない信頼をいただけるように日々準備・段取りを行い、今後もお互いに助け合いながら現場を運営できるよう努力していきたいです。

事・務・局・だ・よ・り

● 2022 年 3 月 18 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 6 回）
進行役：田上貴副幹事長

● 2022 年 4 月 22 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 7 回）
進行役：南波拓哉会長

● 2022 年 4 月 30 日㈯
会報 56 号発行
巻頭言『世界平和』を造園から　南波拓哉会長／高所作業　フルハーネスへの対応について　森田弘行教育訓練センター長ほか

● 2022 年 5 月 18 日㈬　13:00 ～ 17:00
千葉市蘇我スポーツ公園
令和 4 年度若手造園技術者交流会「パークマネジメントの今とこれからを考える」～千葉市蘇我スポーツ公園での取組み～
共催：ＵＲ、ＣＬＡ関東支部、千葉市

● 2022 年 5 月 20 日㈮　10:30 ～ 12:00
デニーズ　清澄店
臨時幹事会

● 2022 年 5 月 20 日㈮　14:00 ～ 14:45
清澄庭園「大正記念館」及びオンライン
令和 4 年度通常総会

● 2022 年 5 月 20 日㈮　15:00 ～ 16:30
清澄庭園「大正記念館」及びオンライン
公開座談会「街路樹の現状とこれからの街路樹を語る」
コーディネーター：西上大輔氏
登壇者：當内匡氏、石出慎一郎氏、降幡賢太郎氏（仙台市）
一倉瑞穂氏（東邦レオ㈱）

● 2022 年 5 月 27 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 8 回）
進行役：諸井泰司幹事

● 2022 年 5 月 28 日㈯～ 6 月 4 日㈯
日仏技術者交流
知られざるフランスの造園・ランドスケープを学び
現地の技術者と交流　歴史・人・文化の深淵に迫る
団長：石井匡志幹事長

● 2022 年 6 月 15 日㈬　15:00 ～ 17:30

東京都渋谷区　造園会館
第 1 回幹事会
各部会の人員調整、新年度の事業予定、相談役・フェローについて

● 2022 年 6 月 17 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 9 回）
進行役：綱島文彦幹事

● 2022 年 6 月 17 日㈮
東京都文京区　全水道会館
ビオトープフォーラム in 東京 2022- 子どもの遊びとビオトープに共催

● 2022 年 6 月 29 日㈬　16:00 ～ 18:00
東京都文京区　小石川後楽園「涵得亭」
第 3 回　一造会会員が「もっとカッコよくなるセミナー」
話し手：第 4 代会長の加勢充晴相談役（加勢造園㈱代表取締役会長）
聞き手：松本朗常任相談役、荻野淳司フェロー
　　金子隆行副会長、高橋光彦監事

● 2022 年 6 月 30 日㈭
東京都若手職員に向けた資格取得支援～造園施工管理技士について～
講師要請に対応　南波拓哉会長

● 2022 年 7 月 15 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 10 回）
進行役：西上大輔幹事

● 2022 年 7 月 19 日㈫　17:00 ～ 19:00
オンライン（Zoom）
技術部会
一造会大賞、すてきな造園コン、技術発表会、その他役割分担について

● 2022 年 7 月 22 日㈮　15:00 ～ 16:20
東京都渋谷区　造園会館
第 1 回常任幹事会
役員に関する内規、大賞・造園コンの応募状況、技術発表会、
植生観察会をはじめ、各種事業の報告と進捗について

● 2022 年 7 月 22 日㈮　16:30 ～ 18:00
東京都渋谷区　造園会館
造園業における樹木作業の安全について
墜落制止用器具と樹木作業におけるワークポジショニングシステム
講師：森田弘行　一造会教育訓練センター長

● 2022 年 8 月 5 日㈮　13:30-16:00
第 10 回緑・公園関係団体協議会
2027 年国際園芸博覧会について、IFLA apr2023 日本大会について

● 2022 年 8 月 25 ㈭　15:00-17:00
東京都渋谷区　造園会館
一造会大賞応募作品の選考前確認

● 2022 年 8 月 26 ㈮
CLA 賞選考委員会　諸井部会長選考委員として参加

● 2022 年 8 月 26 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 11 回）
進行役：黒子典彦幹事

● 2022 年 9 月 9 日㈮　15:00 ～ 17:00
東京都渋谷区　造園会館
第 2 回常任幹事会
技術発表会、一造会大賞、植生観察会、舗装研修、現場見学会について、フランス海外研修についての報告

● 2022 年 9 月 9 日㈮　15:00 ～ 17:00
東京都渋谷区　造園会館
一造会大賞選考委員会

● 2022 年 9 月 16 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 12 回）
進行役：角幡大亮幹事

● 2022 年 9 月 26 日㈪　13:30 ～ 16:30
東京都多摩市　多摩中央公園
技術発表会「現場実演　効率アップ機器」

● 2022 年 10 月 14 日㈮　12:30 ～ 17:30
東京都港区　ビジョンセンター品川 305 会議室
CLA 賞、一造会大賞 合同表彰式・受賞者発表会

● 2022 年 10 月 21 日㈮　15:00 ～ 17:00
東京都渋谷区　造園会館
すてきな造園応募作品の選考前確認

● 2022 年 10 月 21 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 13 回）
進行役：藤本加奈子副会長

● 2022 年 10 月 27 日㈭　16:00 ～ 17:00
東京都渋谷区　造園会館
植生観察会「高尾山を歩く」事前勉強会
講師：鈴木伸一氏（東京農業大学教授）

● 2022 年 10 月 28 日㈮　13:00 ～ 17:00
㈱ＮＩＰＰＯ 大宮総合技術センター
造園技術者のための勉強会
「公園での特殊舗装の新設時とメンテナンスの注意点」

● 2022 年 10 月 28 日㈮　18:00 ～ 20:00
大宮駅周辺
造園技術者のための勉強会交流会

● 2022 年 10 月 28 日㈮　9:30 ～ 17:00
東京都千代田区　日本教育会館
「ひろげよう　育てよう　みどりの都市」全国大会
第一部「公園緑地関連三賞受賞作品発表会 " 今年の№ 1 はこれだ "」
一造会大賞　武内将司氏（㈱石勝エクステリア）が発表

● 2022 年 11 月 13 日㈰　8:30 ～ 17:00
東京都八王子市
植生観察会～高尾山を歩く～
講師：鈴木伸一氏（東京農業大学教授）

● 2022 年 11 月 16 日㈬　15:00 ～ 17:30
東京都渋谷区　造園会館
第 3 回常任幹事会
各事業の報告、現場見学会、京都・東北研修、会報、フランス研修報告会、事業報告会、2023 年の市民交流会関連について

● 2022 年 11 月 16 日㈬　15:00 ～ 17:30
東京都渋谷区　造園会館
「すてきな造園空間施工管理技術作品コンクール」選考委員会

● 2022 年 11 月 18 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 14 回）
進行役：石井匡志幹事長

● 2022 年 11 月 26 日㈯　14:00 ～ 16:00
東京都八王子市　地蔵山野営場
第 2 回 地蔵山ロッジセミナー「北八幡神社 大イチョウ 立曳移植工事」
主催：NPO 緑の大地会
進行：山本幹雄氏
講師：大石武朗氏、鈴木秀男氏、田辺瑞穂氏、細野助博氏（中央大学名誉教授）、中野雄一氏

● 2022 年 11 月 29 日㈫　13:30 ～ 16:30
現場見学会「一造会大賞の現場を見に行こう」
深川ギャザリア・ガーデンコートにおける管理業務
講師：管理者・渡邊美央氏、小林彩乃氏、角幡大亮氏（㈱富士植木））

● 2022 年 12 月 2 日㈮　15:00 ～ 17:00
加勢造園㈱会議室
第 2 回幹事会
事業報告会・表彰式の対応について
2023 年総会及び市民交流会について

● 2022 年 12 月 2 日㈮　18:00-20:00
東京都渋谷区　東郷記念館
事業報告会及び「すてきな造園空間施工管理技術作品コンクール」表彰式

● 2022 年 12 月 20 日㈫　16:30 ～ 18:00
一造会 海外研修報告会 日仏技術者交流
①フランス研修 10 日を振り返る
欧州日本庭園協会と一造会の交流の深化を目指して
ジャン・ピエール・シャバシュー会長と南波会長による対談
担当：水眞洋子（欧州日本庭園協会）
　　石井匡志（幹事長・フランス海外研修団長）

● 2023 年 1 月 17 日㈫　16:30 ～ 18:00
一造会 海外研修報告会 日仏技術者交流
②フランスと日本の剪定の違い
担当：石井匡志（幹事長・フランス海外研修団長）

● 2023 年 1 月 20 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 15 回）
進行役：南波拓哉会長

● 2023 年 1 月 26 日㈭　17:00 ～ 20:00
「すてきな造園空間施工管理技術作品コンクール」第 3 回に向けての検討会
北海道渋谷駅前店

● 2023 年 2 月 14 日㈫　16:00 ～ 17:30
一造会 海外研修報告会 日仏技術者交流
③フランスの日本庭園の特徴
担当：藤井英二郎（千葉大学名誉教授・一造会顧問）
　　遠藤浩子 (フランス在住、庭園文化研究家、MCJP 日本庭園入門講座講師)

● 2023 年 2 月 17 日㈮　15:00 ～ 16:00
金曜ほっとライン（第 16 回）
進行役：藤本加奈子副会長

全国1級造園施工管理技士の会（一造会）の活動を支援する賛助会員

アゴラ造園㈱	〒179-0075　東京都練馬区高松 6-2-18 ☎ 03-3997-2108　FAX 03-3997-2252	URL: http://www.agora-zoen.co.jp E-mail: agora@agora-zoen.co.jp
飯島興産㈱	〒124-8513　東京都葛飾区西新小岩 5-1-19 ☎ 03-3697-7811　FAX 03-3692-3257	E-mail: toshihiro@iijimakosan.co.jp
㈱石勝エクステリア	〒 158-0094　東京都世田谷区玉川 1-16-7 ☎ 03-3709-5591　FAX 03-3709-5857	URL: www.ishikatsu.co.jp E-mail: info@ishikatsu.co.jp
入交コーポレーション㈱	〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 KDX 浜松町ビル ☎ 03-6809-2634　FAX 03-6809-2640	URL: http://www.irimajiri-corp.com E-mail: oouchi.osam@irimajiri.co.jp
内山緑地建設㈱	〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-5-8 京橋第二長岡ビル 7 階 ☎ 03-3523-1140　FAX 03-3523-1138	URL: http://www.uchiyama-net.co.jp E-mail: ryokuchi@uchiyama-net.co.jp
㈱苑友造園	〒206-0012 東京都多摩市貝取 1-1-5 ☎ 042-374-2641　FAX 042-374-8852	URL:https://www.facebook.com/enyuzoen
大貫石材工業㈱	〒160-0023 東京都新宿区西新橋 1-15-4 第ニセイコービル ☎ 03-3348-1574　FAX 03-3348-1574	E-mail: onukisekizai@yahoo.co.jp
オーセブン㈱	〒 338-0004 埼玉県さいたま市中央区本町西 6-4-14 ☎ 048-840-1577　FAX 048-840-1579	URL: http://www.o-seven.co.jp E-mail: inet@o-seven.co.jp
加勢造園㈱	〒 151-0051　東京都渋谷区千駄ケ谷 3-61-5 ☎ 03-3404-7781　FAX 03-3404-2439	URL: http://www.kase-zoen.co.jp E-mail: kase@kase-zoen.co.jp
㈱桂造園	〒125-0061　東京都葛飾区亀有 3-33-2-302 ☎ 03-3690-2690　FAX 03-3690-2694	E-mail: info@kk-katsura.co.jp
㈲岸農園	〒 206-0011　東京都多摩市関戸 6-23-3 ☎ 042-373-6011　FAX 042-373-6057	URL: E-mail: kishi@s5.dion.ne.jp
グンゼグリーン㈱ 茨城営業所	〒 300-1154　茨城県稲敷郡阿見町上長 197 ☎ 029-889-2333　FAX 029-889-2444	URL: http://www.gunzegreen.co.jp E-mail: tomonori.ikeda@gunze.co.jp
㈱サイニチ	〒 351-0111　埼玉県和光市下新倉 5-23-66 ☎ 048-466-5890　FAX 048-466-5891	URL: http://www.sainichi.jp E-mail: takeuchi-hiroyuki@aktio.co.jp
㈱椎橋商店	〒 152-0004　東京都目黒区鷹番 2-3-2 ☎ 03-3716-5131　FAX 03-3716-5137	E-mail: kenzai@shiibashi.com
㈱CSS技術開発	〒 206-0014　東京都多摩市乞田 1251 ☎ 042-373-2100　FAX 042-373-1800	URL: http://www.css24.jp/ E-mail: css@css24.jp
㈱昭和造園	〒168-0063　東京都杉並区和泉 4-42-33 ☎ 03-3315-9796　FAX 03-3315-9750	URL: http://www.showa-zoen.co.jp E-mail: nanba@showa-zoen.co.jp
住友林業緑化㈱	〒164-0011 東京都中野区中央 1-38-1 住友中野坂上ビル 9 階 ☎ 03-6832-2205　FAX 03-6832-2215	URL: https://www.sumirin-sfl.co.jp
西武造園㈱	〒171-0051　東京都豊島区長崎 5-1-34 ☎ 03-4531-3600　FAX 03-4531-3610	URL: https://www.seibu-la.co.jp/ E-mail: info@seibu-la.co.jp

全国1級造園施工管理技士の会（一造会）の活動を支援する賛助会員

フォーサイト緑地環境研究所	〒166-0012　東京都杉並区和田 2-45-16-204 ☎ 03-3383-9978　FAX 03-3383-1178	URL: http://www009.upp.so-net.ne.jp/frsght/ls-semi.html E-mail: fknr@pa2.so-net.ne.jp
㈱ダイショーフォレスト	〒989-2412　宮城県名取市堀内字南竹 278 ☎ 0223-35-7185　FAX 0223-35-7186	E-mail: daisho.f@bird.ocn.ne.jp
㈱タカショー	〒642-0017　和歌山県海南市南赤坂 20-1 ☎ 073-486-2540　FAX 073-486-2560	URL: http://takasho.co.jp E-mail: k-fukunaga@takasho.co.jp
㈱高橋植木	〒157-0073　東京都世田谷区砧 2-23-10 ☎ 03-5429-6101　FAX 03-5429-6102	E-mail: 1415@takahashi-ueki.co.jp
㈲ツリークライミングワールド	〒480-1201　愛知県瀬戸市定光寺町 323-4 ☎ 0561-86-8080　FAX 0561-86-8580	URL: http://www.tcw.co.jp E-mail: info@tcw.co.jp
東武緑地㈱	〒131-0033　東京都墨田区向島 1-26-5 ☎ 03-3626-2800　FAX 03-3622-5747	URL: http://www.toburyokuchi.co.jp E-mail: kadono@tobu.net
㈱中村製作所	〒271-0093　千葉県松戸市小山 510 ☎ 047-330-1111　FAX 047-330-1119	URL: http://www.nakamura-mfg.com E-mail: eigyou@nakamura-mfg.com
日日石材㈱	〒131-0033　東京都墨田区向島 3-39-14 ☎ 03-5637-9211　FAX 03-5637-9213	URL: http://www.hibi-stone.co.jp E-mail: info@hibi-stone.co.jp
フォレストガーデン	〒179-0084　東京都練馬区氷川台 2-3-17 ☎ 03-3933-0782　FAX 03-3933-0782	URL: http://forest-g.o.oo7.jp/ E-mail: hryk-morita@nifty.com
㈱富士植木	〒 102-0074　東京都千代田区九段南 4-1-9 ☎ 03-3265-6731　FAX 03-3265-3031	URL: http://www.fujiueki.co.jp E-mail: info@fujiueki.co.jp
北部緑地㈱・草星舎	〒116-0002　東京都荒川区荒川 5-4-3 ☎ 03-3805-7261　FAX 03-3805-7265	URL: http://www.hokubu-r.co.jp E-mail: m-kyogoku@hokubu-r.co.jp
㈱丸山製作所	〒136-0071　東京都江東区亀戸 7-5-1 ☎ 03-3637-4340　FAX 03-3683-7553	URL: http://www.k-maru.co.jp E-mail: info@k-maru.co.jp
NPO緑の大地会	〒192-0355　東京都八王子市堀之内 799 ☎ 042-689-5239　FAX 042-670-5202	URL: http://midorinodaichikai.appspot.com E-mail: suzukien@yanagishima.co.jp
㈱柳島寿々喜園	〒130-0002　東京都墨田区業平 5-12-16 ☎ 03-3625-7428　FAX 03-3625-2921	URL: http://www.yanagishima.co.jp E-mail: suzukien@yanagishima.co.jp
㈱山梅	〒373-0024　群馬県太田市上小林 226 ☎ 0276-22-8551　FAX 0276-25-6372	URL: http://yamaume.co.jp E-mail: sales@yamaume.co.jp
㈱ライフ計画事務所	〒136-0071　東京都江東区亀戸 6-58-12 9 階 ☎ 03-5626-4741　FAX 03-5626-4740	URL: http://www.lifelandscape.com E-mail: info@lifelandscape.com
㈱ランド	〒136-0073　東京都江東区北砂 6-27-14 ☎ 03-5635-9955　FAX 03-5635-9956	URL: http://www.land.ne.jp E-mail: info@land.ne.jp

国家資格「１級造園施工管理技士」による唯一の全国組織です

一造会は、造園技術のレベルアップを図り、みどり豊かで潤いのある環境づくりに寄与することを目的に昭和 63 年に発足。国土交通省をはじめ、地方公共団体など公共公益機関にもその役割が高く評価されています。1,000 名を超える知識、技術、経験豊かな会員が入会しています。

各種研修会・現地視察を実施 技術のレベルアップを図ります

技術の向上を主たる目的とし、多様化、高度化する造園工事に関し、最新の知識・技術の習得はもちろん、安全管理や法規、制度などについても学ぶ機会を設けています。街路樹、植栽基盤、高所作業と安全などは、最近特に関心を集めており、今後もこれらの各種研修会を開催。一般参加も可能です。最新情報は WEB をご覧ください。

技術調査･視察報告など、広い知見、深い専門性を養います

造園技術に関する技術調査や視察報告を実施するほか、行政、市民などからの要望に応じ、剪定実技など講師の派遣も実施。お声掛けください。

技術者の交流で親睦を深め ネットワークをつくります

一造会の研修会や見学会の機会に、懇親会「造園家の仲間と語る会」を年に数回実施し、交流を図っているほか、会報や報告書を発行し、会員相互の情報交換に役立てています。

専門家・業界の枠を超え交流 市民交流会で広く情報を発信

公園・緑地などの社会基盤は、急速な勢いで整備されました。しかし、これからは管理や地域、環境に見合った緑、

一造会のご案内
全国１級造園施工管理技士の会
Ichizokai
公園、緑地、広場、花壇、ビル、マンション外構 etc
造園空間は私たちにお任せください

市民のための街づくりが大切。そんなニーズに応えるのが「一造会　市民と造園家の交流会」。市民と専門家・技術者との交流の場を創出します。

ホームページやメーリングリスト等、情報ツールも充実

直接会員の皆様に送付する会報や各種案内のほか、ホームページやメーリングリスト、FaceBook も稼動しています。「いま現場でこんなことが…対処法は？」「部材が余ったけど誰かいる？」など、造園技術者同士ならではのフォローもあります。

最新情報は一造会 web Facebook→ へアクセス

「造園ＣＰＤ」への参加なら「一造会会員」がお得です

継続教育プログラムの「造園ＣＰＤ」に参加するには、直接申し込むと、年会費 4,000 円です。所属会社で割引適用が受けられても、個人負担額は 2,500 円になります。一造会は会費のみで CPD 負担額なし。入会すると、磁気リーダーで受講記録が付けられる造園 CPD カードを送付します。

申込は郵送､FAX､ネットで OK 法人一括の入会も可能です

一造会へは､パンフレットやホームページでご入会いただけます。会費は入会金不要で、年会費は、正会員１名 6,000 円。個人でも法人で取りまとめての入金も可能です。また、会費の法人一括納入割引も導入し、経費節減にも役立ち、造園 CPD をはじめ、技術者の知識や技術の向上を図ることが出来ます。

賛助会員も大歓迎で募集中 詳しいお問合せはお気軽に

一造会は５月１日が新年度です。正会員のほか、「１級造園施工管理技士」の資格をお持ちでない個人、法人の方々も賛助会員（１口 30,000 円）として、ご入会いただけます。この機会にぜひご入会ください。

全国１級造園施工管理技士の会（一造会）
【事務局】
〒150-0041
東京都渋谷区神南
1-20-11 造園会館内
TEL:03-6455-0426
FAX:03-6455-0427
URL:www.icz.jp
E-mail:info@icz.jp

ICHIZOKAI

ICHIZOKAI